平成17年度（第49回）
岩手県教育研究発表会発表資料

総合的な学習の時間

# 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する研究

（第２年次）

**研究協力校**
**盛岡市立杜陵小学校**
**花巻市立土沢小学校**
**花巻市立花巻北中学校**

**研究協力員**
**盛岡市立杜陵小学校　　教諭　小野寺　俊哉**
**花巻市立花巻北中学校　教諭　中村　雅子**

**平成１８年１月１３日**
**岩手県立総合教育センター**
**プロジェクト研究班**
**齊藤　義宏**
**八重樫久美子**
**福士　幸雄**
**松葉　覚**

《目　次》

Ⅰ　研究目的 …… 1
Ⅱ　研究の年次計画 …… 1
Ⅲ　本年度の研究内容と方法 …… 1
Ⅳ　研究結果の分析と考察 …… 2
1　確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する基本構想及び推進試案 … 2
(1)　全体計画の作成の必要性について …… 2
(2)　確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間を推進するための基本的な考え方 …… 3
(3)　総合的な学習の時間における確かな全体計画作成のための推進試案 …… 4
2　確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する取組事例 …… 5
(1)　総合的な学習の時間の全体計画の視点 …… 5
(2)　総合的な学習の時間の明確化 …… 6
(3)　総合的な学習の時間における学習活動の計画化 ……10
(4)　総合的な学習の時間における指導方針の確立 ……11
(5)　全体計画の作成及び改善に向けた方向性 ……17
3　確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する研究のまとめ ……18
(1)　成果と課題 ……18
(2)　総合的な学習の時間における全体計画作成のための「手引き」の作成 ……18
Ⅴ　研究のまとめ ……19
1　研究の成果 ……20
2　今後の課題 ……20

おわりに

【参考文献】
【別冊資料】

## Ⅰ　研究目的

総合的な学習の時間は、学校の教育活動全体における位置付けを明らかにする全体計画の作成のもと、適切な目標や内容の設定によって実施されることが重要である。また、その全体計画に基づいて教育活動が行われ、児童生徒に必要な力を身に付けさせたかどうか、指導の適切さを検証・評価し不断に改善を図りながら学校や児童生徒の実態に即して実施することが必要である。

しかし、本県における総合的な学習の時間の事例等によれば、年間指導計画の作成、目標・内容・評価の適切な設定､体験的な活動や各教科等との関連付けなどが課題となっているとの実態があり、各学校において全体計画の作成という視点から、総合的な学習の時間を見直すことが求められている。また、平成15年12月26日の文部科学省通知によって、各学校において総合的な学習の時間の一層の充実のため、全体計画の作成が義務づけられるよう改正がなされていることを踏まえ、全体計画の作成について改善を要し手だてを講じる必要性が生じている。

このような状況から、総合的な学習の時間の充実を図るためには、目標や内容、評価、各教科等との関連を明らかにした、総合的な学習の時間についての確かな全体計画を構築する方法や手順を具体的なものとすることが必要であると考える。

そこで、この研究は、小・中学校における総合的な学習の時間を推進するに際して、学校の教育活動全体における位置付けを確かめ、全体計画作成のための要件を明らかにした「手引き」の作成を行い、確かな全体計画の構築に役立てようとするものである。

## Ⅱ　研究の年次計画

この研究は、平成16年度から平成17年度にわたる２年次研究である。

第１年次（平成16年度）

全体計画の作成に関する基本構想、全体計画作成のための実態調査及び推進試案の立案

第２年次（平成17年度）

推進試案に基づいた指導実践計画の作成、指導実践、実践結果の分析と考察、全体計画作成のための「手引き」の作成、研究のまとめ

## Ⅲ　本年度の研究内容と方法

### １　目　標

目標や内容、評価、各教科等との関連を明らかにした確かな全体計画作成のための推進試案について、実践による考察を加えることで具体化し、確かな全体計画の構築を図る。さらに、実践結果の分析に加え、先進的な実践例の収集・整理を行い、それを併せて収録した全体計画作成のための「手引き」を作成し、確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する研究のまとめを行う。

### ２　研究の内容と方法

(1)　推進試案に基づいた指導実践計画の作成（文献法）
(2)　指導実践（事例分析、指導実践）
(3)　実践結果の分析と考察（文献法、調査法）
(4)　全体計画作成のための「手引き」の作成（文献法、記録法）
(5)　確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する研究のまとめ

### ３　研究協力校並びに研究協力員

盛岡市立杜陵小学校　　教諭　小野寺　俊哉
花巻市立土沢小学校
花巻市立花巻北中学校　教諭　中村　雅子

## Ⅳ　研究の結果の分析と考察

### １　確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する基本構想及び推進試案

確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する基本構想及び総合的な学習の時間における確かな全体計画作成のための推進試案については、本研究の第１年次（平成16年度）に明らかにした。この第１年次の内容は、第２年次の研究内容である「推進試案に基づいた実践」と「全体計画作成のための手引き」の基盤となるものであり、以下にその概略を示す。

(1)　全体計画の作成の必要性について

ア　学習指導要領改正等から

総合的な学習の時間の実施上の課題として、次の四点が挙げられた。

・具体的な「目標」や「内容」を明確に設定していない活動の実施
・必要な力が児童生徒に身に付いたか否かの検証・評価が十分に行われていない実態
・教科との関連に十分に配慮していない実態及び教科の時間への転用
・必要かつ適切な指導を実施せず、教育的な効果が十分に上がっていない取組

これらの課題を受けて当面の充実と改善方策の一つとして、各学校の取組内容の不断の検証等の必要性から、学校の教育活動全体の中での『総合的な学習の時間』の位置付けと意義の意識化を図ることが求められ、その具体策として、各学年の『目標』・『内容』を含めて『総合的な学習の時間』についての『各学校としての全体計画』を作成し、総合的な学習の時間の一層の充実のための取組が求められた。

本県においては、様々な単元や題材についての実践が工夫され、学年毎の指導計画として整備されてきている。しかし、単元や題材の配列表や学年毎の指導計画を集めた段階にとどまっている状況で、学校教育目標や育てたい児童生徒像との関係を明確にした活用に資する全体計画の作成について、多くの学校は至っていないという実態があり、答申と同様の課題が懸念されており、全体計画の作成が求められている。

イ　学校の教育活動から

総合的な学習の時間は、各教科等とは異なり「時間」として学習指導要領に位置付けられている。そのことから生じる問題として、目標や内容（指導事項のみならず、身に付けさせたい付けたい力までを考慮したもの）が明確に記述されていない。このことから、以下のような事柄が実態として考えられる。

・自由に扱える「時間」として学年毎の裁量などに委ねられてしまっていること
・裁量で固めた時間枠の合計をもって年間計画として指導計画レベルを作成し、学校全体の計画をそれら全学年の指導計画の累積と等しく考えていること
・学校の教育活動への対応のための時間として便宜的に用いられ、総合的な学習の時間の目標達成を目指して取り組まれていないこと

教師が学校の基盤となるものを押さえ、学校教育目標や願いの達成にふさわしい企画を立案し、成果や課題を検証するための視点を明らかにするためには、全体計画が必要となる。「全体計画」は、単なる学年毎の指導計画の集積ではなく、学校の全教育活動をとおして行うものとしての計画であり指針となる。「確かな」ものとして学校の様々な教育活動の総体における位置付けを明確にするということ、すなわち「確かな全体計画」の作成が求められているのである。

以上のようなことから、総合的な学習の時間の「確かな全体計画」を学校の教育課程全体の中に明確に位置付ける必要があり、そのための検討が各学校において行われなければならない。

(2)　確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間を推進するための基本的な考え方

ア　全体計画の作成により総合的な学習の時間を学校教育活動全体に位置付ける意義

本研究では、全体計画の作成により総合的な学習の時間を学校の教育活動全体に位置付ける意義を次のようにとらえる。

**＜特色ある学校づくり＞**

①　総合的な学習の時間は、学校の地域における基盤（児童生徒の実態や地域の実態）を踏まえ、直接体験や地域の素材を学習の材料として単元や題材を取り上げて教育課程を編成する。全体計画は「地域における基盤」を明らかにし、学校のあるべき姿の輪郭を描き出し、特色ある学校づくりのために役立てられるものとなる。

**＜多様な学びの構成＞**

②　総合的な学習の時間は、内容と活動における両者の価値の習得に伴う学び方のよさやエッセンスを生かしながらカリキュラム編成できるため、多様な学びを構成できる。それは、総合的な学習の時間と各教科等との関連についても、同様のことが言える。内容や活動そのものの関係だけでなく、学び方の性質の面から関係付けられ、学びの深まりや広がりなどが期待できる。それは、児童生徒にとって、意義や意欲の点からも効果が大きいものと考えられる。

**＜教師の役割と力量形成＞**

③　総合的な学習の時間の推進に際して、教師がそれぞれの持ち味で力量を発揮することへの期待がある。そして、教材、教具レベルではなく単元や題材の構成から全体との結び付きまでの広い視野でカリキュラムを構成しなければならない。カリキュラム作成のノウハウが、各教科等のカリキュラム開発や指導にも生かされ、指導の改善が行われるということからもカリキュラム開発者としての教師像が求められ期待されている。

イ　「確かな全体計画」の作成を推進するための基本的な視座

前項で述べた意義に沿って、「確かな全体計画」の作成が推進されていくわけであるが、その際、次に示す四つの基本的視座をもつことが重要と考える。

①　総合的な学習の時間の位置付け
　教育活動全体おける総合的な学習の時間の位置付けを明らかにする。

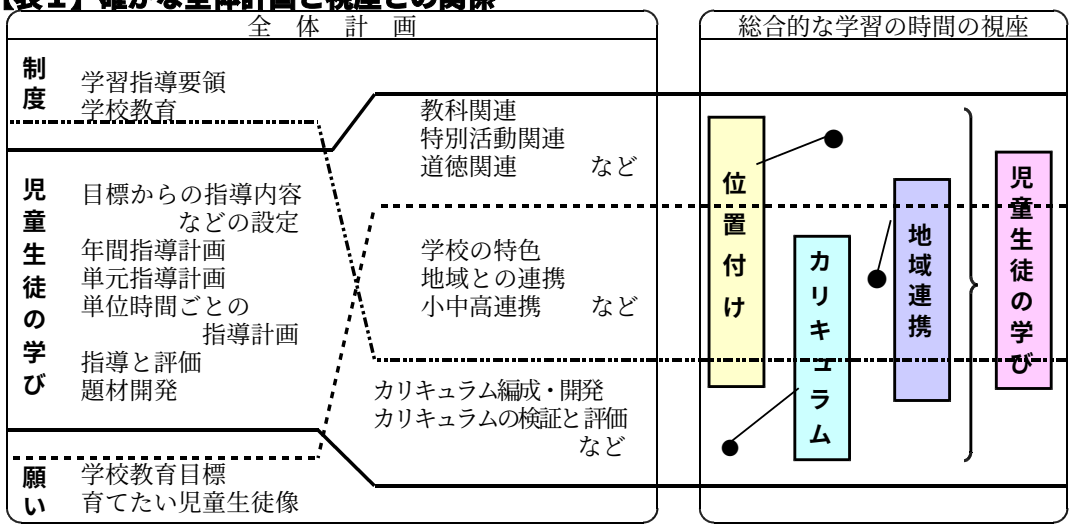
②　総合的な学習の時間と児童生徒の学び
　指導過程や各教科等との関連の在り方を明らかにする。

③　総合的な学習の時間のカリキュラム
　教師の指導支援の在り方と求められる教師の役割や力量について明らかにする。

④　総合的な学習の時間における地域社会との連携
　地域の支援を生かすとともに成果を地域に還元し、特色ある学校の在り方を明らかにする。

この四つの基本的視座と全体計画に必要な事柄については、【表１】に示すように重なり合う関係をもつものとしてとらえ、それぞれの在り方や考え方を明らかにしていく必要がある。

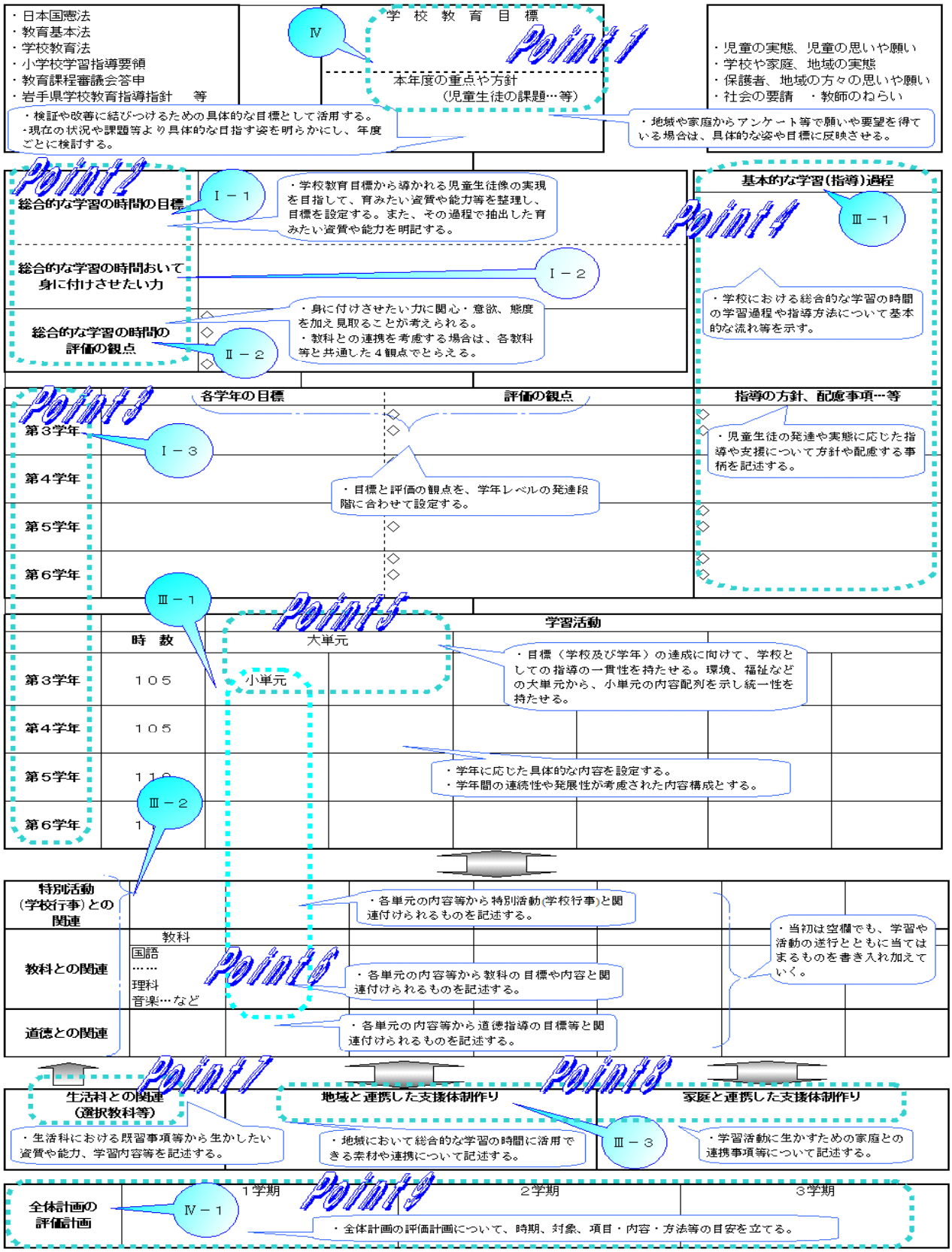
**【表１】確かな全体計画と視座との関係**



(3)　総合的な学習の時間における確かな全体計画作成のための推進試案

前項で述べた確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間を推進するための基本的な考え方に、先進校の全体計画の分析と併せ、確かな全体計画の要件について基本的な視座から検討を加え、試案の作成を行った。【資料１】

**【資料１】総合的な学習の時間　確かな全体計画のための推進試案**



## ２　確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する取組事例
### －推進試案に基づいた実践による考察－

本研究が提示した総合的な学習の時間における確かな全体計画作成のための推進試案について、その一端を取り込んだ独自の取組を研究協力校それぞれが展開した。その取組事例を紹介するとともに、確かな全体計画作成のための推進試案についての考察を加えることとする。

(1)　総合的な学習の時間の全体計画の視点

学校教育目標のもとに、その年度の重点や方針を置き、年度毎に検討を加える視点をもたせることによって、求める児童生徒の育成や課題の解決に結び付いたかをふり返り、全体計画そのものの検証を行う視点とする。ここでは、「研究の継続性」「学校教育目標の具現」「社会の学校教育への要請」「児童生徒の実態」のそれぞれ四つの関係から作成した本年度の重点や方針の例を挙げ、考察する。

**実践１－本年度の重点や方針**

次に示すのは、本年度の重点や方針とその設定の仕方にかかわる考え方との関係である。

**研究との関係**

**研究の概要及び成果と課題**

平成６年度から「環境教育」を研究の柱として、身近な自然や社会とふれ合う体験活動を積極的に取り入れ、

－中略－

現在は、教科と総合的な学習の時間との関連の図り方を中心として研究実践 に取り組んでいる。

**教育目標の具現との関係**

**教育目標の具現に向けた総合の位置付け**

校訓を「大志」とし、常に大道を歩み、大道を拓く人間、つまり、互いに磨き合い、心身ともに

－中略－

現代的な課題や地域のよさを学びの対象として、各教科等で学んだ知識や技能等を生かしながら、徳、知、体の学びの充実を図り、総合的な学びを獲得しようとしている。

**【本年度の重点や方針】**

**求め続ける子が育つ**

**－教科との関連をデザインした総合的な学習の実践をとおして－**

**問題解決的な学習をとおして、地域のすばらしさに学びながら、自ら学び自ら考える力、学び方やものの考え方を身に付けるとともに、自己の生き方について考え、さらに、各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に働くようにできる児童生徒の育成が必要である。**

**社会の学校教育への要請との関係**

**教育課題の対応へ向けた総合の役割**

学習指導要領一部改訂では、各教科等の学習内容との相互の関連や計画的な指導をすること、

－中略－

相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすることを目指している。

**児童生徒の実態との関係**

**培ってきた力と身に付けさせたい力**

児童は、これまでの学習をとおして、「学習課題の設定、追究活動、まとめ、発信、ふり返り」という一連の総合的な学習の時間の学び方に

－中略－

恵まれた環境とふれ合いながら、自分たちの住んでいる地域を大切にしようとする心情も育ってきている。

***考察***　本年度の重点や方針を設定する場合の留意点として次の三点があげられる。

・検証や改善に結び付けるための具体的な目標として活用すること

・現在の状況や課題等により具体的な目指す姿を明らかにし、年度ごとに検討すること

・地域や家庭からアンケート等で願いや要望を得ている場合は、具体的な姿や目標に反映させること

総合的な学習の時間の各学校に委ねられる裁量の幅、柔軟性は教科等の比ではなく、当初の計画を固定的なものとしてとらえるのではなく、必要に応じて適宜見直していくという姿勢をもつことが肝要である。この取組のように、本年度の重点や方針を支えるものを明確にし、その関係を明らかにすることは、教職員の共通理解や合意形成にもつながり、重点や方針の達成へ向けた具体的な教育活動に勢いを与えるものと考える。

(2)　総合的な学習の時間の明確化

目標の設定から身に付けさせたい資質や能力、評価の観点までを一体的に考えることによって、総合的な学習の時間の評価の視点をもてるようにする。ここでは、学習指導要領に示されている総合的な学習時間のねらいを基に独自に総合的な学習の時間の目標を設定した例と育てたい資質や能力及び態度の例、学習活動の評価の例を挙げ、考察する。

**実践２－総合的な学習の時間の目標設定**

次に示すのは、学習指導要領で示された総合的な学習の時間のねらいを踏まえ、学校教育目標を受けて総合的な学習の時間の位置付けを明らかにしながら目標の設定を行った例である。

**学校の教育目標**

明るく思いやりのある子　進んで学習する子　健康でたくましい子

**内　容**　　**総合的な学習の時間のねらい**　　**資質・能力**

**＜地域の特色＞**

・川や公園など自然に恵まれている
・商業の町として昔から栄えると共に都市化の計画と融合している地域である

**＜横断的・総合的な課題＞**

・環境を課題とした学習
・地域の特色に応じた課題

**＜学校の実態からの課題＞**

・自己理解を課題とした学習（生活科学習からの積み上げ）

地域の特性と生活科学習の発展

問題解決のための資質・能力

**＜児童の実態の把握＞**

・学び方に慣れ、自力で学習を進めようとする意欲が身に付いてきている
・自分なりの結論や判断を導き出し力が徐々に高まっている
・教科で身に付けた知識や技能を主に情報収集の場面や発信の場面において活用している
・身近な地域を愛し、大切にしようとしてきている

**＜目指す児童像＞**

・課題解決的な学習過程や、追究のためいろいろな学習活動の仕方を習得する
・論理的な考え方をし、自分の考えをつくりだす子
・各教科で得た知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活においてつかう子

**小学校の総合的な学習の時間の目標**

体験的な学習や問題解決的な学習をとおして、地域の素晴らしさに学びながら、児童に自ら学び自ら考える力を育成し(①)、学び方やものの考え方を身に付けさせるとともに、自己の生き方について考えることができるようにし(②)、各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、それらが相互に働くようにする(③)。

関心・意欲・態度　　学習活動の内容や方向性　　問題解決能力

学び方やものの考え方　　創造的な実践力

***考察***

目標のおさえは、学習指導要領に示された三つのねらい（①～③）と学習活動の展開に当たっての配慮事項である「体験的、問題解決的な学習」が基軸となっている。さらに、「地域の素晴らしさに学びながら」という学習活動の内容や方向性を明示することによって、自校の特色を表している。

学習指導要領の内容や表記を基本に、自校の特色を付加して、目標を設定するパターンは一般的であるが、加えて総合的な学習の時間の位置付けを明らかにしていくことで、学校教育目標から導かれる児童生徒像の実現へ近づくものと考える。

## 実践３－総合的な学習の時間で身に付けさせたい力

学習指導要領を踏まえた上で、児童にとって今何が必要か、将来に向けてどのような力を育てなければならないかを吟味し、身に付けさせたい力を設定した例である。

**◇総合的な学習の時間において身に付けさせたい力**

| 身に付けさせたい力 | 目指す児童像 | 中学年の具体像 | 高学年の具体像 |
|---|---|---|---|
| ①学び方 | 課題解決的学習過程や、追究のためのいろいろな学習活動の仕方を習得する子 | 一つ一つの学習過程を体験的に学び、学習活動の仕方（学び方）を身に付ける。 | 自力で学習を進めるとともに、適切な学習活動の仕方が分かり、学びを広げ深めていく。 |
| ②自分の考えをもつ | 論理的な考え方をし、自分の考えをつくりだす子 | 前後関係をつかみながら、課題を解決するために自分の結論・判断を導き出す。 | 全体の構造と筋道が分かり、課題を解決するために自分の考えを明確にして、結論・判断を導き出す。 |
| ③学びを生かす | 各教科で得た知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活においてつかう子 | 教科や総合での既習内容を想起し、それを関係付けて学習や生活につかう。 | 教科や総合での既習内容を関係付けたり、応用したりして学習や生活につかう。 |

**◇総合的な学習の時間において身に付けさせたい力の各学年における具体的内容例**

| | 中学年における具体的な内容例 | 高学年における具体的な内容例 |
|---|---|---|
| ①学び方 | **○　学習過程が分かること**<br>・総合的な学習の時間の単元全体の進め方を理解し、身に付けるとともに、一つ一つの学習過程における学び方やものの考え方を自ら獲得していく。 | **○　学習過程が分かること**<br>・単元全体を見通して、自分で計画を立てて学習を進めるとともに、それぞれの学習過程における適切な活動を主体的に判断しながら、知の総合化を図っていく。 |
| | **○　調べ方・情報収集の仕方が分かること**<br>・図書資料を調べ、簡単な記録をする。<br>・教科での学びをもとに見学、実験、観察等をし、必要なことを記録する。 | **○　調べ方や情報収集の仕方が分かること**<br>・図書資料を活用し必要な情報を読み取る。<br>・課題解決のための見学、実験、観察等の計画を立て、結果を正確に記録する。 |
| ②自分 | **○　課題を見付けること**<br>・身近な対象の中から取り組みたい課題を選んだり、見付けたりする。 | **○　課題を見付けること**<br>・身近な対象にかかわりながら、価値ある課題を見付ける。 |
| | **○　課題追究の見通しをもつこと**<br>・課題解決に必要な準備物を自分で考えてみたり、活動の順番を考えたりする。 | **○　課題追究の見通しをもつこと**<br>・結論やその価値を予想し、検証のための活動計画を立てる。 |
| ③生かす | **○　活動の場面ごとで、関連する教科の内容を関係付け、活用していく。**<br>**○　人から学んだことを問題解決に生かすとともに、その生き方に感動する。** | **○　活動を見通し、意図的に身に付けた内容を関係付けたり、応用したりしながら、知の総合化をするような学習をしていく。**<br>**○　人から学んだことを問題解決に生かすとともに、その生き方を自分の生き方に生かす。** |

***考察***

「身に付けさせたい資質や能力の明確化」は、学習指導要領一部改訂の大きなねらいの一つとも言える。その背景には、総合的な学習の時間でどのような力が身に付くのか、身に付けさせたいのかを、それぞれの学校が明らかにし共有することなく、実践がスタートしたことによる混乱がある。つまり、ゴール像をもたない取組は、その意味付けができない。また、評価・検証が的確に行えない。よって、評価結果を改善にフィードバックできない等の戸惑いや不安を与えた。

この身に付けさせたい力の設定例は、「学び方」「自分の考えをもつ」「学びを生かす」という資質や態度的な色彩の強いものを掲げ、それを各学年の目標、評価観点と連動させ具体化を図っている。さらに、「自分の考えをもつ」ことと「総合的な思考・判断」、「学びを生かす」ことと「総合的な知識・理解」というように能力的なものもうまく調和させている。単元及び指導計画において、これらの力が繰り返し扱われるような機会を意図的に位置付けていくことにより、これらの力を確実に身に付け、自校の目指す児童生徒を育成していくことにつながると考える。

**実践４－総合的な学習の時間の学年（学級）目標の設定**

次に示すのは、総合的な学習の時間の目標から、各学年の児童生徒に求められる資質・能力を分析して学年目標を設定した例である。

| 全体 | 総合的な学習の時間の目標 | | |
|---|---|---|---|
| 力 | 学び方 | 自分の考え方をもつ | 学び方を生かす |
| 各学年の目標 第三学年 | 体験をとおして友だちや教師と共に学び、情報の収集の仕方やまとめ方を身に付ける | 事象を比較したり、前後関係をつかんだりしながら筋道立てて自分の考えをもつ | 活動の中で各教科等での学びを生かす |
| 第四学年 | 体験をとおして自ら学び、課題の設定の仕方、情報の収集の仕方やまとめ方を身に付ける | 事象を比較したり、要因を考えたりしながら筋道を立てて自分の考えをもつ | 活動の中で各教科等での学びを生かす |
| 第五学年 | 自ら明確な課題を設定し、課題解決のために、様々な調査活動を行う | 分かったことに自分なりの考えをもつ | 人、物、ことと自分とのかかわりを多面的にとらえ、生き方を見つめるとともに、各教科等で学びを意図的に関係付けていく |
| 第六学年 | 新しい学びを獲得しようと、学んだことを結び付けたり、応用したりする | 自分の考えを深め、見通しをもって自ら課題を解決する | 自分と社会とのかかわりを見つめ直し、よりよい生き方や考え方をめざそうとする |

※総合的な学習の時間の目標については**「実践２」**を、身に付けさせてい力については、**「実践３」**を参照

課題解決的な学習の進め方を体験をとおして友だちや教師と共に学び、情報の収集の仕方やまとめ方を身に付け、事象を比較したり、前後関係をつかんだりしながら筋道を立てて自分の考えをもつとともに、活動の中で各教科等での学びを生かす力を育成する

課題解決的な学習の進め方を体験して自ら学び、課題の設定の仕方、情報の収集の仕方やまとめ方を身に付け、事象を比較したり要因を考えたりしながら筋道立てて自分の考えをもつとともに、活動の中で各教科等での学びを生かす力を育成する

自ら明確な課題を設定し、課題解決のために、様々な調査活動を行い、分かったことを自分なりの考えをもつことをとおして、人、物、ことと自分とのかかわりを多面的にとらえ、生き方を見つめるとともに、各教科等での学びを意図的に関係付けていく力を育成する

新しい学びを獲得しようと、学んだことを結び付けたり、応用したりしながら、自分の考えを深め、見通しをもって自ら課題を解決することをとおして、自分と社会とのかかわりを見つめ直し、よりよい生き方や考え方を目指そうとする力を育成する

***考察***

学校全体の目標や育てたい資質や能力及び態度が、遠くのゴール像であると位置付ければ、それと目の前の児童生徒個々を結ぶ（見取る）学年あるいは学級の目標が必要となる。これは、指導する側にとどまらず、実際に児童生徒が学習活動を展開する上での当面の近くのゴール像とも言い換えられる。

この学年目標の設定例は、具備すべき内容及び各学年間の連続性が的確に位置付けられており、実際の学習活動（指導）を構想・展開する上で大きな拠り所になり得るものと言える。また、各教科等で習得が期待される資質・能力等を考慮し、各学年の児童生徒に求められる資質・能力の具体的な姿を明らかにしている点は、各学年の目標設定にかかわり多くのことを示唆している。

**実践５－総合的な学習の時間の学習活動の評価**

「ねらい」「教科との関連から」「学校の定める目標・内容から」という三者の観点を融合させ、「二学年をひとまとまりにして弾力的に評価規準例を設定した取組例を紹介する。

**１　「ねらい」「教科との関連」「学校の目標・内容」の三者を融合させて設定した評価規準例**

| | 活動にかかわる技能・表現<br>（学び方） | 総合的な思考・判断<br>（自分の考えをもつ） | 総合的な知識・理解<br>（学びを生かす） | 活動への関心・意欲・態度 |
|---|---|---|---|---|
| テーマをもつ | ○<br>・課題の設定の仕方を身に付ける。 | ○<br>・視点を基に自分で調べることのできる課題を考える。 | ・測定や分布地図作り、データの数的処理など主に社会、算数、理科における学習を生かす。<br>・導入において、各教科の既習内容や、総合の前学年や前単元における学習を想起する。 | ◎<br>・自ら身の周りの事象に出会い調べたいことを見付けようとする。<br>・これからの学習に関心をもとうとする。<br>・テーマを気に入り、自分の課題をもとうとする。 |
| 調べ | ◎<br>・いろいろな本や資料、身近な人や地域の人から、自分が必要な情報を集める。<br>・集めた情報やデータを | ○<br>・視点にそって活動する。<br>・教師とともに共通のシートで追究の仕方を考える。<br>・自ら学習の見通しをもつ。 | ・インタビューの仕方や記録の仕方、文献から要点を読み取る等、国語の学習を生かす。<br>・実験や観察、測定や分布 | ・わからないこと、うまくいかないことについてその理由を考え工夫して取り組もうとする。 |
| テーマをま | ・集めた情報の整理と、結論の導き方を身に付ける。<br>・人から学んだことを問題解決に生かす。 | ◎<br>・事実から分かったことを導き出し、明確にする。<br>・課題の結論を考える。<br>・新しい疑問をもつ。 | ○<br>・大切なことがらを整理して書く、事実と結論、感想等を区別してまとめる等、国語での学習を生かす。 | ・自ら課題の解決を図ろうとする。<br>・調べて分かったことに対して、自分なりの考え |
| 発信 | ○<br>・計画から実施まで、発信の手立てを身に付ける。<br>・相手が興味をもって聞くような、構成の仕方を | ○<br>・発表したいことが相手に正しく、分かりやすく伝わるよう工夫して資料を作り発表する。 | ◎<br>・発表することの主題や要旨をはっきりさせる等、国語での学習を生かす。<br>・視覚的な資料を作成す | ・目的意識や相手意識をもって発信しようとする。<br>・自ら伝えたいことを分かりやすく発信しようと |
| 自分を見つめ | ◎<br>・活動全体をふり返る自己評価の手だてを身に付ける。 | ・発揮できた力、伸びた力について考える。<br>・自分の調べてきたことの意味を考える。 | ・自分の成長や友だちのよさ等について、例をあげながら記述する等、国語での学習を生かす。<br>・かかわった人から学んだ知識や生き方のよさを生かす。 | ○<br>・自ら活動をふり返りながら、自分や友だちのよさや進歩を認め合おうとする。<br>・自分たちにできることに取り組もうとする。<br>・かかわった人への感謝の気持ちをもつ。 |

**※「学校の目標・内容から設定した観点」は、「実践３」総合的な学習の時間で身に付けさせたい力を参照**

この事例は、総合的な学習の時間のねらい及び教科の評価の四観点とのかかわりを考えながら、総合的な学習の時間における評価の観点を定め、教科と総合的な学習の時間との学力を整合させ評価したり、相互に関連させた学びを成立させたりすることを意図して作成しているところに特徴がある。また、身に付けさせたい三つの力（「実践３」で紹介）との整合性を図り、問題解決の過程毎に重点とする観点を位置付け、指導と評価の一体化を図っているところは、評価計画にも通じるものであり、評価規準を作成する上で参考にしていきたい事例である。

(3)　総合的な学習の時間における学習活動の計画化

全体計画とのかかわりの中で学習活動の内容を問題にする意義は、学校全体の目標や育てたい資質や能力及び態度を具現する位置付けや内容となっているかを検証する必要がでてきたことにある。ここでは、総合的な学習の時間の単元の要件と単元構成について、目標からの筋道が一貫しており、児童の興味を引くように工夫されている例を挙げ、考察する。

**実践６－総合的な学習の時間の学習内容**

**【単元づくり要件】**

**〔対象の総合性の重視〕**

**＜現代社会の課題等を含み、総合的に追究できること＞**

- □　総合的な学習の時間で大切にしている身に付けさせたい力を確かに身に付けさせる学習が、繰り返し行える。
- □　児童の実態に合わせて解決可能であり、現代的課題や地域の素晴らしさがより広くより深く学べる。
- □　各教科等の内容を相互に関連付けることによって、新たな「知」や「学ぶ力」が身に付く。

**〔活動の総合性の重視〕**

**＜活動に必然性があり、対象とのかかわりをとおして自分の生き方を考えることに結び付くこと＞**

- □　体験活動の他に体験的活動も必然的に取り入れ、よりよく問題を解決できる。
- □　課題解決的学習過程に沿って、多面的に事象を見つめ、自己の生き方につなげる。
- □　各教科等での学びを生かす活動が効果的に位置付けられる。

**【単元の構成】**

| 総合的な学習の時間の単元の構成 | | | 単元の考え方 |
|---|---|---|---|
| (1)環境単元 | | ○地域の自然素材を教材とし、自然と人間の社会生活のかかわりを考えていく単元 | **位置付け－**地域の恵まれた自然環境が価値ある教材<br>**ねらい－**「環境から学び」「環境について学び」「環境のために学ぶ」活動をとおして、地域への愛着心をもち、「求め続ける子が育つ」ことをねらいとしている。<br>**内容－**長く引き継ぎ実践をしている。また環境教育のねらいの達成の点から各教科等との関連指導をしている。 |
| | | ３年生　岩手公園のホタルの里 | |
| | | ４年生　岩手公園の在来種のタンポポと外来種の植物 | |
| | | ５年生　中津川を上るサケ、中津川の水生生物　等 | |
| | | ６年生　エネルギー　酸性雨　等 | |
| (2)地域の特色を生か | 国際理解単元 | ○活動の舞台を地域としながら、地域の地理、歴史、先人等のよさや大切さを理解する単元や、我が国のよさ、さらには、世界とのつながりを考え、国際理解への意識を高める単元<br>＜実践例＞　・自校ならではのパンフレット作り<br>・学区の先人たち | **位置付け－**身に付けさせたい力・指導過程は環境単元と同じであるが、いろいろな側面から興味をもたせ視野を広げながら、多様に地域とのかかわりを深め、学びの発展を期待する。<br>**ねらい－**地域の人、もの、こととのふれあう活動をとおし、総合ならではのダイナミックな展開をしながら、地域への愛着を深めていく。<br>**【国際理解単元のねらい】**地域や我が国の歴史や文化、伝統を理解し、これを尊重しようとすると |
| | 福祉 | ○福祉の意義を知り、ともに安心して暮らしていける社会をつくっていこうとする、地域の社会福祉への意識を高める単元 | |

***考察***

それぞれの単元においては、対象となる教材や活動が価値あるものであり、児童の興味関心を引き出しながら、ねらいの達成を目指し学習を展開していかなければならない。また、系統性をもって様々な教材とふれ合いながら、計画的に児童に身に付けさせたい力を育成していくことも大切になる。そして、この系統性を見いだしていくためには、これまでの教科・領域での学習内容を分析検討し、その学年までにどのような経験を有し、どのようなことが可能であるかを把握しておくことがポイントになる。なぜなら、総合的な学習の時間はあくまで各教科等で身に付けた「知の総合化」をねらうものであり、各教科等の学習と全く独立して存在しているものではないからである。

(4)　総合的な学習の時間における指導方針の確立

全体計画作成そのものがその学校の指導方針確立の集大成であり、具体であると考えることができる。しかし、総合的な学習の時間は、児童生徒「自ら」の学習活動をどのように「演出（指導）」していくか、という指導の方法や体制の在り方で、各学校の創意工夫が発揮できる裁量幅は、教科と同じように大きい。次に示す「指導過程」と「活動の視点と自己評価活動」の例は、自校の総合的な学習の時間に対するとらえや取組の姿勢が特色として位置付けられている。

**実践７－単元の基本的指導過程**

○「テーマをもつ」「調べる」「テーマをまとめる」段階

身近な事象とふれ合うなかから明確な課題を見出し、多様な方法で課題を追究し、集めた情報を整理しながら課題を解決する活動が中心であり、これらの活動は、自分からわき上がった疑問や課題を大切にし、分からないことを分かるまで追い求めることを楽しむ段階である。

○「発信する」段階

「自分が学んで得た喜びを伝えたい」という児童の願いをかなえる場である。また、相手意識をもち、発表資料を相手が納得するように再構築する活動は、自分がこれまで理解していたことを分かり直す活動であり、分かったという実感を深めていく場でもある。さらに、発信し合うなかでの学びは、それぞれが学んで得た成果や学び方、学びの姿を共有化する場としても貴重である。

○「自分を見つめる」段階

自分はここまで学ぶことができたという時間をもつ場としている。これまでの自分と、今の自分との変化に気付き、これからのよりよい自分づくりへと向かう場でもある。

| | 指導過程 | 主な学習活動（○）と教科との関連の例（◇） |
|---|---|---|
| 1 | テーマをもつ | ○身近な事象とのふれ合いをとおして、疑問をもつこと<br>○疑問を、価値ある課題に高めること<br>**◇導入において、各教科の既習内容や、総合の前学年や前単元における学習を想起する** |
| 2 | 調べる | ○課題解決に向けての見通しをもつこと<br>○いろいろな方法を使って情報を集め課題を追究すること<br>○人とのかかわりを大切にすること<br>**◇実験や観察、測定や分布地図作り等、理科における学習を生かす** |
| 3 | テーマをまとめる | ○集めた情報を整理すること<br>○筋道立てて考え、課題を解決すること<br>**◇分類整理して考えたり、関係付けて考えたりする等の数理的処理をして算数における学習を生かす** |
| 4 | 発信する | ○各教科等の学びを生かして資料を作成したり練習したりすること<br>○学びの成果を発信する<br>**◇年表や絵地図など視覚的な資料を作成する等、社会における学習を生かす**<br>**◇必要なデータを目的に応じた表やグラフに効果的に表す** |
| 5 | 自分を見つめる | ○自分自身の成長を見つめ自信をもつこと<br>○人、もの、ことから学んだことを自分の生活にかかわらせ、生かしていくこと<br>**◇自分の成長や努力したこと等について、例をあげながら記述するなど国語での学習を生かす** |

***参考***

この指導過程においては、一つ一つの段階に意味をもたせ、その中に身に付けさせたい力（学び方、自分の考えをもつ、学びを生かす）を分散させ、単元及び単位時間レベルで繰り返すことでその育成を図っている。なお、「学びを生かす」つまり、教科との関連については**実践９**で示すこととする。

## 実践８－活動の視点と自己評価活動

### 【活動の視点】

**＝活動の視点をもたない場合＝**

○　活動がねらいからそれる
○　活動の焦点がぼける

⇩

軌道修正、時間のロス

（悪循環）

新鮮な学習意欲の減退

**活動の視点**

**＜活動の視点の意義＞**

**○　活動をより具体化することにより、児童が自信をもって活動できる。**
**○　学びの深まりや広がりが見られるようになる。**
**○　ふり返りの際の観点の一つとなる。**

***考察***

総合的な学習の時間においては、学習のねらいと学びがずれないように全体と部分をとらえながら、活動を具体化し、ねらいに沿った方向付けを行うことが大切になる。

児童生徒によっては、一つの課題を解決するために数時間かかったり、活動状況が異なったりする場合も多い。活動の視点をふり返りの観点の一つとすることで、自分の進捗状況が確認でき、次への活動意欲が高まり、ねらいに迫る活動ができるようになると考える。

### 【自己評価活動】

**＝自己評価活動が行われない場合＝**

○　目先の事象や思いつきにとらわれて、本筋からそれた学習
○　内容を問うことなく、計画どおりに活動したというだけの深みのない学習
○　何を学んだのか、どう成長したのかが不明確
○　課題を確実に解決した達成感や、学習を通して自分が成長した知的喜びを十分にもつことができない学習

⇩

・楽しいけれど何を勉強したのかわからない時間
・学びの充実感を味わえない時間

**自己評価活動**

**＜自己評価活動の意義＞**

**○　指導過程の各段階において形成的自己評価活動を行うことで、客観的に自分の学びをとらえ、より充実した学習を目指すようになる。**
**○　単元の終わりに総括的自己評価活動を行うことで、自己の成長を確かめ、充実感や達成感を味わい、次の学習への意欲が高まるようになる。**
**○　他教科等においても自己評価活動ができるようになり、自己を高めようとするようになる。**

※総括的自己評価活動は、次の単元に向かって形成的自己評価活動となる。

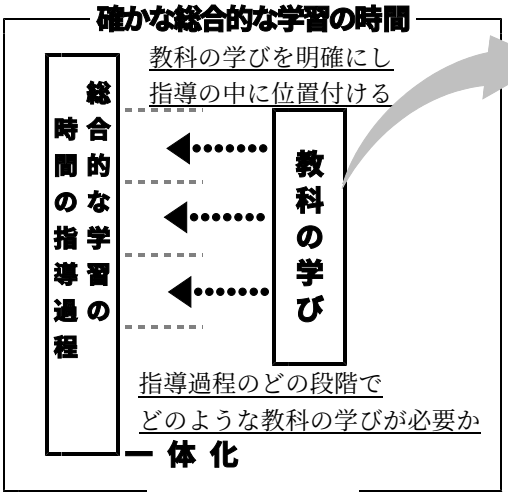
***考察***

課題の解決を目指すには、学習活動において、常に自問自答し、児童生徒自身が学習活動を調整・修正できることが大切になってくる。つまり、総合的な学習の時間における自己評価活動は、自分の学習課題を自分自身の手で確実に追究し、学びを自分のものとするために有効な学習活動であると考える。

## 実践９－教科との関連

総合的な学習の時間との関連をデザインした全体計画や年間指導計画、指導過程等に基づいた指導をすることによって、学んだことを自ら生かして学習を充実させる取組の例である。

**関連をデザインする**




**デザインに生かした教科の内容**

**◇　教科の内容を生かすとは…**

教科の内容を発展させるだけでなく、教科で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、総合的にはたらくようにしていくことであり、教科での学びを実感の伴った学びとして深めたり、総合的な学習の時間での学びを教科に返して、より確実なものにしていくことである。

**◇　教科の内容を生かすに当たっては…**

国語、社会、算数、理科の四教科との関連を中心とする。特に、国語については、どの学年、内容においてもその関連を重視し、指導過程に位置付けて実践を図る。

***考察***

この例は、教科を関連させる意義や留意点を明らかにするだけでなく、指導過程のどこに、どのような教科の学びが必要かという具体的な視点を設けている。

総合的な学習の時間と教科とを関連付けた指導を進めていくには、**実践３**で示したように、総合的な学習の時間で身に付けさせる資質や能力、態度等を明らかにしていくとともに、それが、各教科等の「何と、どこで、どのように」関連をもつものかを明らかにしていく必要がある。

デザインした教科の内容の一部

| 教科 | 観点 | 関連を図る主な内容 | |
|---|---|---|---|
| | | 中学年 | 高学年 |
| 国語 | 話すこと | ・順序が分かるように話すこと（低）<br>・話の中心を明確にすること<br>・経験した順序を考え、筋道をはっきりさせて話すこと<br>・必要に応じて丁寧なことばを正しく使うこと | ・話す内容の軽重を考えること<br>・目的や意図に応じて、順序を整えて話したり、例を挙げたりしながら話すこと<br>・日常よく使われる敬語の使い方になれること |
| | 聞くこと | ・事柄の順序や要点、話の組立て方等を考えながら聞くこと | ・話の要旨を理解し、自分の目的に応じて話された内容を整理すること |
| | 話し合うこと | ・互いの考え方の相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと | ・自分の立場や意図等をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと |
| | 書くこと<br>(目的･相手)<br>（取材） | ・相手や目的を明確に意識して、適切に書くこと<br>・書く目的や相手に応じて必要な事柄を収集したり選択したりすること | ・目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと<br>・目的や意図に照らして必要な事柄を集めること |
| | 読むこと | ・読む目的に照らして大事な事柄をまとめたり、必要なところを細かい点に注意して読んだりすること | ・必要な事柄を調べるため、また、必要な情報を得るために目的にあった読み方を工夫すること |
| 社会 | 技能 | ・地図、統計等の各種の基礎的資料を効果的に活用すること | ・地図、年表等の各種の基礎的資料を効果的に活用すること |
| | 理解 | ・地域の産業や消費生活の様子 | ・我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連 |
| 算数 | 技能 | ・資料を表や棒グラフ、折れ線グラフに表すこと | ・割合を求めたり、それを帯グラフ、円グラフに表すこと |
| | 理解 | ・事象を数理的にとらえること<br>（数的処理の仕方） | ・事象を数理的にとらえること<br>（抽象化、条件化、関数的な見方） |
| 理科 | 技能 | ・簡単な器具や教材を見つけたり、使ったり、作ったりして観察・実験やものづくりを行い、その結果の過程を分かりやすく表現すること | ・問題解決に適した方法を工夫し、装置を組立てたり使ったりして観察・実験やものづくりを行い、その結果や過程を分かりやすく表現すること |

**実践10－年間指導計画**

ここで紹介する年間指導計画は、各学年の目標を達成するために、一年間を見通し、各教科の年間指導計画との関連が示されたものと、それぞれの単元のねらいや主な学習活動が記述されたものである。

**教科との内容との関連を見るための年間指導計画**　　**４年２組**　　**こずかたタイム年間指導計画(1)**

| | ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 行事等 | 紹介式始業式<br>1年生を迎える会<br>仲良し岩手公園 | 全校奉仕活動<br>交通安全教室<br>徒歩遠足･児童総会 | 音読発表会<br>スポーツ大会<br>プール開き | こずかた学習会<br>終業式 | 始業式 | 郷土学習<br>こずかた学習会<br>児童総会･山車体験 |
| 国語 | 友だちっていいな<br>春の歌 | お元気ですか<br>漢字で書けるかな<br>ツバメがすむ町<br>漢字辞典の使い方 | 新聞記者になろう<br>漢字の組立て<br>無人島でくらすとしたら | 白いぼうし<br>本のさがし方<br>ポスターでかいて作品を紹介しよう | アサガオ<br>漢字クイズ | 調べたことを報告しよう<br>生活を見つめて<br>４年１組白書<br>ローマ字 |
| 社会 | １．健康なくらしを守るくふう<br>(1)ごみのしまつと再利用 | | (2)くらしにかかせない水<br>＜地球に優しく＞ | | ２．むかしのくらしとまちづくり<br>(1)むかし使われた道具<br>(2)きょう土の発展に尽くした人たち<br>３．安全なくらしを守るくふう | |
| 算数 | １大きい数のしくみ | ２円　算数ひろば<br>ふくしゅう<br>３わり算のしかたを考えよう | 算数ひろば<br>４かかわり方を見やすく表そう | きろくを見やすく整理しよう<br>ふくしゅう<br>算数ひろば | 5三角形のなかま<br>二等辺三角形と正三角形<br>二等辺三角形と角 | 回転の角の大きさ<br>６はしたの数の大きさ<br>はしたの数の大きさの表し方　小数のしくみ |
| 理科 | １あたたかくなると | ２電気のはたらき | ３暑くなると | わたしの研究 | ４月と星 | ５すずしくなると<br>６もののかさと力 |
| こずかた | オリエンテーション<br>1　岩手公園のひみつをさぐれ<br>「ふしぎなタンポポのひみつをさぐれ」22 | | 3　クラスのよさを伝えよう　「新聞記者になろう」　15<br>こずかた学習会　1 | 2　岩手公園たんけんたい　16<br>「ホタル、タンポポが教えてくれたこと」 | オリエンテーション１　こずかた学習会１ | 4 |
| 音楽 | みんなで楽しく | ふしのかんじを生かして | | | いい音えらんで | |
| 図工 | 色と形のもよう遊び | なんでもボックス | | | きれいな街<br>ダンス１ねんどワンダーランド | |

***考察***

明らかになった関連を、どのように相互に強化、進化していくかという具体的な指導の計画をもたなければならない。各教科の「何と」関連するのかが明らかになったら、年間指導計画に位置付けることが必要になる。

この事例のように、学習内容の範囲や領域、学年間の系列を考慮して、単元の配列、実施時期、授業時数、各教科等との関連等、年間指導計画が具備する諸条件を明らかにすることは、必要不可欠の条件整備と言える。

**各単元のねらい等を定めた年間指導計画**　　４年２組　　こずかたタイム年間指導計画(2)

| | 4　5　6　7 | 8　9 |
|---|---|---|
| 単元名 | 【単元１】　22 時間<br>「岩手公園のひみつ」<br>ーふしぎなタンポポのひみつをさぐれー（環境） | 【単元２】９時間　「岩手公園たんけんたい」<br>【単元３】15時間　タンポポが教えてくれたこと<br>クラスのよさを伝えようー新聞記者になろうー |
| 単元のねらい | ア　課題解決的学習過程の全体的な進め方を理解し課題の設定の仕方を身に付ける<br>イ　比較したり、要因を探ったりして、筋道立てて結論や判断を導き出す<br>ウ　活動に生かせそうな教科の学びを教師や友だちとともに想起し、実際に取り入れていく<br>◎　岩手公園に育成するタンポポの種類や分布、特徴等を観察する活動をとおして、生物と環境とのかかわりをとらえるとともに、身近な環境に関心をもつ | ア　目的に応じた多様な発表の形態を身に付ける<br>イ　発表したいことが相手に正しく、わかりやすく伝わるよう工夫して資料をつくり、発表する<br>ウ　国語、算数での学びを生かし、発表資料を作成する<br>◎　ホタルとタンポポの生態と環境とのかかわりをとらえ、昔からの自然を守ろうとしていく |
| 各教科等との関連 | ○　国語「段落のつながりに気を付けて読もう」<br>・調査の目的に応じて、調査項目を選ぶ<br>・調査したことについて、目的・方法・結果・考えられることをはっきりさせて書く<br>○　理科「季節と生き物」<br>・温度計の使い方を知る<br>・植物の様子の変化について、その要因について考え、様子を記録する | ○　国語「段落のつながりに気を付けて読もう」<br>・調査の課題を決めてフィールドワークをし、その結果と考察をまとめ、発信する<br>○　算数「かわり方を見やすく表そう」<br>・折れ線グラフのかき方を知る<br>「記録を見やすく整理しよう」<br>・二次元表の表し方を知る |
| 主な学習活動 | ・タンポポの種類と分布の様子を調べ全体の課題をもつ　(2)<br>・調査の計画を立てる　(2)<br>・在来種が少ないわけについて追究する　(7)<br>・中間発表をし、活動を見直す　(5)<br>・調べて明らかになったことをまとめ発信する　(4)<br>・活動をふり返り、学習のまとめをする　(2) | ・(３年生の時に学習した)ホタルと前単元のタンポポの学習を想起し、発展の課題をもつ　(2)<br>・課題を追究する　(2)<br>・発信の準備をする　(2)<br>・発信する　(2)<br>・活動をふり返り、学習のまとめをする (2) |

***考察***

総合的な学習の時間の実施上の課題として、各教科等との関連に十分に配慮がなされないまま実施されている例が多く見受けられたことがある。

年間指導計画では、総合的な学習の時間のどの単元内容と各教科等のどの単元内容を関連させるのかが示されるだけではなく、関連させる教科の内容が明確に示されたものを作成する必要がある。

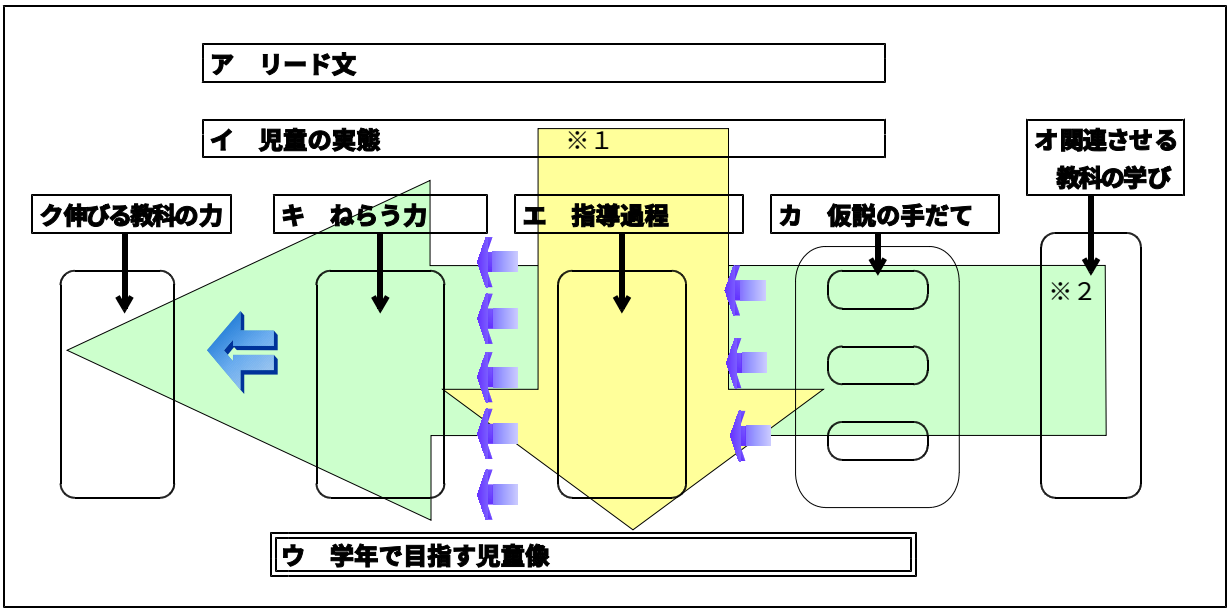
この事例のように、各教科等を絞り込み、 関連内容を焦点化していることは、総合的な学習の時間の改訂のねらいに合致したものと言える。

**実践11－単元計画の工夫**

単元は、児童の実態、育てたい力、素材の価値、指導時数及び関連させる教科の学びを構成の要素として作成している。次に示すのは、「活動の視点」・「自己評価活動」（実践８）と「明確にした各教科等との関連」（実践９）とを指導過程に位置付け、単元計画の工夫（デザイン）を図で表した例である。

**単元デザイン図のモデル**（デザインの内容）

ア　リード文：単元の概要や価値についての説明
イ　児童の実態：研究主題から見た児童の実態
ウ　学年で目指す児童像：研究主題で求める、学年で目指す児童像
エ　指導過程：自校の指導過程と各段階での主な活動
オ　関連させる教科の学び：意図的に関連させる教科の単元名と内容
カ　手だて：活動の視点と自己評価
キ　ねらう力：単元をとおして育てたい三つの力と単元の力
ク　伸びる教科の力：関連教科の単元をとおして伸びていくと思われる力




***考察***

「デザイン図」は、縦系統（※１）と横系統（※２）から構成されている。縦系列は、総合的な学習の時間をとおして、目標とする力まで高めるための指導の流れが、指導過程に沿った具体的な活動で構成されている。横系列では、本単元をとおして児童に身に付けさせたい力を高めるための指導の流れが、指導過程のどの段階でどのような手だてを取っていくか、また、教科で学んだどの力を関連させて伸ばしていこうとするのかを明記することによって構成されている。

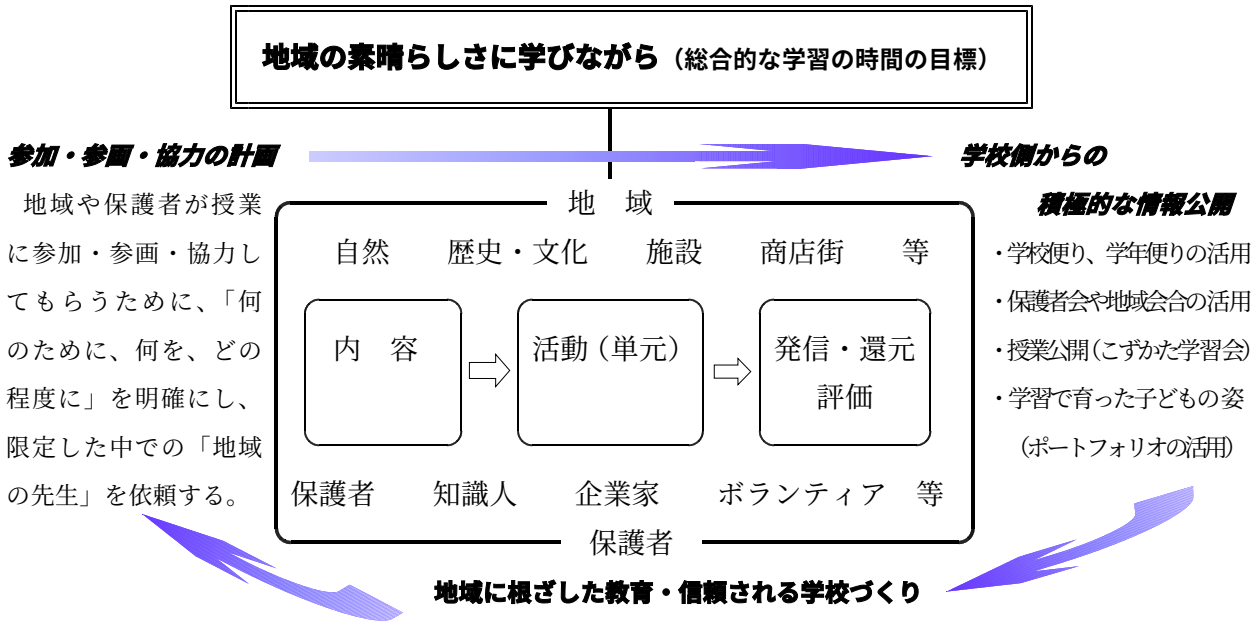
縦系列と横系列が交わった部分が、総合的な学習の時間における指導過程と各段階における単元での主な活動になる。

「デザイン図」で総合的な学習の時間での指導と教科との関連の全体構造を明確にすることにより、全体を見通した計画をもち、確かな指導ができるものと考える。

**実践12－家庭及び地域等の活用・連携**

次に示すのは、総合的な学習の時間をより一層充実させていく上で、家庭や地域等の活用・連携を位置付けた例である。

**家庭や地域等との連携の考え方**




***考察***

目標に「地域の素晴らしさに学びながら」と掲げ、学習活動のほとんどが地域の特色を生かした単元で展開していることもあり、明確な位置付けがなされている。その中で「知識人の協力、支援」や「支援ボランティア」「家庭への広報活動」等にその特徴が見られる。また、指導過程の「発信する」対象に家庭・地域を取り込み、その具体的な内容を位置付けることによって「発信 ・還元・評価」の新しい在り方として、さらに「連携」の本来の姿として、参考にしたい事例である。

(5)　全体計画の作成及び改善に向けた方向性

実践事例と考察、及び先行研究等から、全体計画の作成及び改善の方向性を以下のようにとらえた。この方向性については、別冊で提示する「全体計画作成のための手引き」に盛り込んでいくこととする。

ア　学校教育目標の下にその年度や重点や方針を置き、年度ごとに検討を加える視点をもたせることによって、求める児童生徒の育成や課題の解決に結び付いたかをふり返り、全体計画そのものの検証を行う視点とする。

イ　目標の設定から身に付けさせたい資質や能力、評価の観点までを一体的に考えることによって、総合的な学習の時間の評価のための視点をもてるようにする。

ウ　児童生徒の発達や実態を考慮したものとするために、各学年ごとに目標から内容までを設定する。

エ　児童生徒の実態を踏まえた指導や支援を行うために、指導や支援の方針や配慮事項等を設定する。

オ　学校としての柱となる項目やテーマで全体の統一を図り、併せて学年間の連続性や発展性が考慮されるようにする。

カ　各教科等との相互関連が明確となるよう、学習内容にとどまることなく、資質や能力、子どもの意識レベルも考慮して計画するとともに、途中で書き加えたり修正したりしながら活用できるように工夫する。

キ　小学校では生活科との連結、中学校では選択教科等との関連、さらには小中学校間の連続性等について記述し、既習事項等を踏まえ、連携が図られるようにする。

ク　発信や還元等も意識しながら家庭や地域との連携を模索し、協力体制や活用できる地域素材、発信内容等が押えられるようにする。

ケ　全体計画そのものを評価・検証するために、時期、対象、項目、内容・方法等の目安を立てられるようにする。

## 3　確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する研究のまとめ

本年度の研究の目標は、目標や内容、評価、各教科等との関連を明らかにした確かな全体計画作成のための推進試案について、実践による考察を加えることで具体化し、確かな全体計画の構造を図ることであった。その具体的な手だてとして、実践結果の分析に加え、先進的な実践例の収集・整理を行い、それを併せて収録した全体計画作成のための「手引き」を提案することができた。

また、部分的ではあったが、研究協力校における実践をとおして、次のような成果と課題を得ることができた。

(1)　成果と課題

ア　成果

(ｱ)　学校教育目標や総合的な学習の時間で目指す児童生徒像を明確にし、自校の総合的な学習の時間の全体計画の作成手順と考え方とを提示できたこと。

(ｲ)　全体計画を作成する上で、必要な学習内容と身に付けさせたい資質・能力を校種ごとの発達段階に応じて提示できたこと。

(ｳ)　全体計画を具現化するための年間指導計画の作成の仕方や児童生徒の確かな学力を見取る評価の考え方など、計画、実施、評価の各段階における配慮事項を提示できたこと。

(ｴ)　内容と単元（活動）の理解が進み、総合的な学習の時間がより一層各教科等と結び付き、目的的で意図的なものになることが期待されること。

(ｵ)　家庭や地域等との交流が進み、より一層活用・連携が進むとともに、地域に根ざした教育の一助となり得ること。

イ　課題

(ｱ)　総合的な学習の時間の推進という研究内容から、部分的な実践にとどまり、構想のすべてについての確認ができなかったこと。

(ｲ)　特に、校種によって状況が異なり、校種の実態及び特徴を考慮しながら、今後さらに検討が必要なこと。

(2)　総合的な学習の時間における全体計画作成のための「手引き」の作成

本研究における基本的な考え方や推進構想を、実践をとおした修正や改善により、下記の内容で全体計画作成のための「手引き」としてまとめた。全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進の手がかりになるものと考える。

**総合的な学習の時間　　*全体計画作成のための「手引き」***

**1　全教育活動における位置付けを明らかにした全体計画を作成していますか？**
**◆　総合的な学習の時間の全体計画の作成**
**2　目指す児童生徒の姿を明らかにして目標を設定していますか？**
**◆　総合的な学習の時間の目標の設定**
**3　児童生徒に求められる資質や能力を分析して学年の目標を設定していますか？**
**◆　総合的な学習の時間の学年目標の設定**
**4　課題意識がないままの学習になっていませんか？**
**◆　指導・支援の具体的な方策**
**5　単元の内容選定が曖昧になっていませんか？**
**◆　学習内容とその系統化**
**6　「何と」「どこで」「どのように」各教科等との関連を図るか具体化していますか？**
**◆　総合的な学習の時間と各教科等との関連**
**7 -1　一人一人の学びを曖昧に評価していませんか？**
**◆　総合的な学習の時間の評価**
**7 -2　学びを確認・改善するための評価規準をもっていますか？**
**◆　総合的な学習の時間の評価規準の設定**
**8　目標や学習活動が相互に関連付けられ、連続的に展開されていますか？**
**◆　生活科・選択教科・異校種間との連携**
**9　家庭や地域等との連携のイメージをもっていますか？**
**◆　家庭や地域等との連携**
**10　本年度の総合的な学習の時間を何となく終わらせていませんか？**
**◆　全体計画の評価計画**

引用文献・参考文献
参考資料

## Ⅴ　研究のまとめ

この研究は、小・中学校における総合的な学習の時間を推進するに際して、学校の教育活動全体における位置付けを確かめ、全体計画作成のための要件を明らかにした「手引き」の作成を行い、確かな全体計画の構築に役立てようとするものである。

２年次研究の第１年次である昨年度は、全体計画の作成についての基本的な考え方の検討と基本構想の構築と総合的な学習の時間についての先進校事例の分析と考察及び確かな全体計画のための推進試案の立案を行った。

第２年次である今年度は、目標や内容、評価、各教科等との関連を明らかにした確かな全体計画作成のための推進試案について、実践による考察を加えることで具体化し、確かな全体計画の構築を図った。さらに、実践結果の分析に加え、先進的な実践例の収集・整理を行い、それを併せて集録した全体計画作成のための「手引き」を作成し、確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する研究のまとめを行った。

２年間の研究の成果と課題については、次のようにまとめることができる。

## 1　研究の成果

(1)　全体計画の作成についての基本的な考え方の検討と基本構想の構築

全体計画の作成についての基本的な考え方に基づき、確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する基本構想を立案することができた。

(2)　総合的な学習の時間についての先進校事例の分析と考察及び確かな全体計画のための推進試案の立案

先進校事例の分析と考察等により全体計画の要件について検討を加え、確かな全体計画作成のための推進試案を作成することができた。

(3)　確かな全体計画作成のための推進試案に基づいた実践による考察

確かな全体計画作成のための推進試案について、その一端を取り込んだ独自の取組事例の紹介と確かな全体計画作成のための推進についての考察をすることができた。

(4)　全体計画作成のための「手引き」の作成

実践結果の分析に加え、先進的な実践例の収集・整理を行い、それを併せて集録した全体計画作成のための「手引き」を作成することができた。

(5)　確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する研究のまとめ

全体計画作成のための「手引き」の作成をもって、研究のまとめとすることができた。

## 2　今後の課題

学校が、自校の総合的な学習の時間の取組状況を具体的に把握し、目標や内容、評価、各教科等との関連などを明らかにして総合的な学習の時間を推進しようとする際の手がかりとなるような全体計画作成のための「手引き」を、研究協力員の助言並びに実践を基に提示することができた。

今後は、本研究で作成した「手引き」を実際の活用をとおして、より一層内容を充実させていく必要があると考える。

## おわりに

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力校の先生方に心からお礼を申し上げます。また、研究協力員としてご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

**【参考文献】**

安彦　忠彦(1997),『新版カリキュラム研究入門』,勁草書房
天野　正輝(1999),『総合的学習のカリキュラム創造　教育課程研究入門』,ミネルヴァ書房
天野　正輝(2001),『カリキュラムと教育評価の探究』,文化書房博文社
岩手県盛岡市立杜陵小学校(2004),『平成16年度研究紀要　求め続ける子どもが育つ』
児島　邦宏(2003),『総合的な学習ハンドブック』,ぎょうせい
柴田　義松(2000),『教育課程　カリキュラム入門』,有斐閣
日本教育学会(2001),『新しい教育課程の創造』,教育出版

**【別冊資料】**　総合的な学習の時間　－全体計画作成のための「手引き」－

確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する研究

総合的な学習の時間

# 全体計画作成のための「手引き」

平成18年1月13日

岩手県立総合教育センター

**総合的な学習の時間**　***全体計画作成のための「手引き」***

＜目　次＞


1　全教育活動における位置付けを明らかにした全体計画を作成していますか？ ……1
◆　総合的な学習の時間の全体計画の作成

2　目指す児童生徒の姿を明らかにして目標を設定していますか？ ……7
◆　総合的な学習の時間の目標の設定

3　児童生徒に求められる資質や能力を分析して学年の目標を設定していますか？…11
◆　総合的な学習の時間の学年目標の設定

4　課題意識がないままの学習になっていませんか？ ……18
◆　指導・支援の具体的な方策

5　単元の内容選定が曖昧になっていませんか？ ……35
◆　学習内容とその系統化

6　「何と」「どこで」「どのように」各教科等との関連を図るか具体化していますか？ 48
◆　総合的な学習の時間と各教科等との関連

7-1　一人一人の学びを曖昧に評価していませんか？ …… 56
◆　総合的な学習の時間の評価

7-2　学びを確認・改善するための評価規準をもっていますか？ …… 59
◆　総合的な学習の時間の評価規準の設定

8　目標や学習活動が相互に関連付けられ、連続的に展開されていますか？ ……69
◆　生活科・選択教科・異校種間との連携

9　家庭や地域等との連携のイメージをもっていますか？ ……71
◆　家庭や地域等との連携

10　本年度の総合的な学習の時間を何となく終わらせていませんか？ ……73
◆　全体計画の評価計画

引用文献・参考文献 ……75


この『全体計画作成のための「手引き」』は、総合的な学習の時間の充実を図るために、目標や内容、評価、各教科等との関連などを明らかにした、総合的な学習の時間についての全体計画を作成する方法や手順を具体的にしたものです。

各学校におかれましては、総合的な学習の時間を推進するに際して、活用していただきたいと思います。

# 1　総合的な学習の時間の全体計画の作成

**総合的な学習の時間の目標や身に付けさせたい資質・能力、学習内容、指導方法、指導体制、評価計画、各教科等との関連等、全教育活動における総合的な学習の時間の位置付けが明らかになるように作成します。**

平成15年12月「小学校、中学校、高等学校等の学習指導要領の一部改正について」の告示では、各学校が総合的な学習の時間の全体計画を作成することを求めています。そのなかで全体計画に示す項目として、目標及び内容、身に付けさせたい資質や能力及び態度、学習活動、指導方法、指導体制、学習の評価の計画等があげています。

こちらの項目を整理し、自校の全体計画の見直す視点【表１】とし、以下の手順【図１】で全体計画を作成します。

**【表１】全体計画の見直しの視点**

Ⅰ　総合的な学習の時間の目標の明確化
　1　総合的な学習の時間の目標
　2　身に付けさせたい資質や能力及び態度
　3　学年（学級）における目標
Ⅱ　総合的な学習の時間における学習活動の計画化
　1　学習活動の内容
　2　学習活動の評価
Ⅲ　総合的な学習の時間における指導方針の確立
　1　指導方法及び指導体制
　2　各教科等との関連
　3　家庭及び地域等の活用・連携
Ⅳ　総合的な学習の時間の全体計画の評価・検証
Ⅴ　その他
　・学年間、小中学校等の関連　・指導計画等の見直し

**全体計画のフレームと作成の手順**

**学校教育目標**

学校独自の総合的な学習の時間に対する考え方
**各学校の総合的な学習の時間の目標を明記する**

**本年度の重点を設定する**

**総合的な学習の時間における期待する姿**

**身に付けさせたい資質や能力及び態度を明記する**
- **問題解決能力**
- **学び方やものの考え方**
- **主体的、創造的な態度**
- **自己の（在り方）生き方**

**学年（学級）の目標と評価の観点を明記する**

**各学年で取り上げる学習内容を明記する**
**（主な学習活動も明記）**

総合的な学習の時間を充実させるための指導の工夫
**指導方法、指導体制、評価計画を明記する**

各教科等とを関連させる指導の在り方
**各教科等との関連を明らかにする**

その他にも、**地域との連携**の欄**や小・中・高等学校の校種間の連携**の欄を設けます。

**【図１】全体計画作成の手順**

**全体計画を作成することで…**

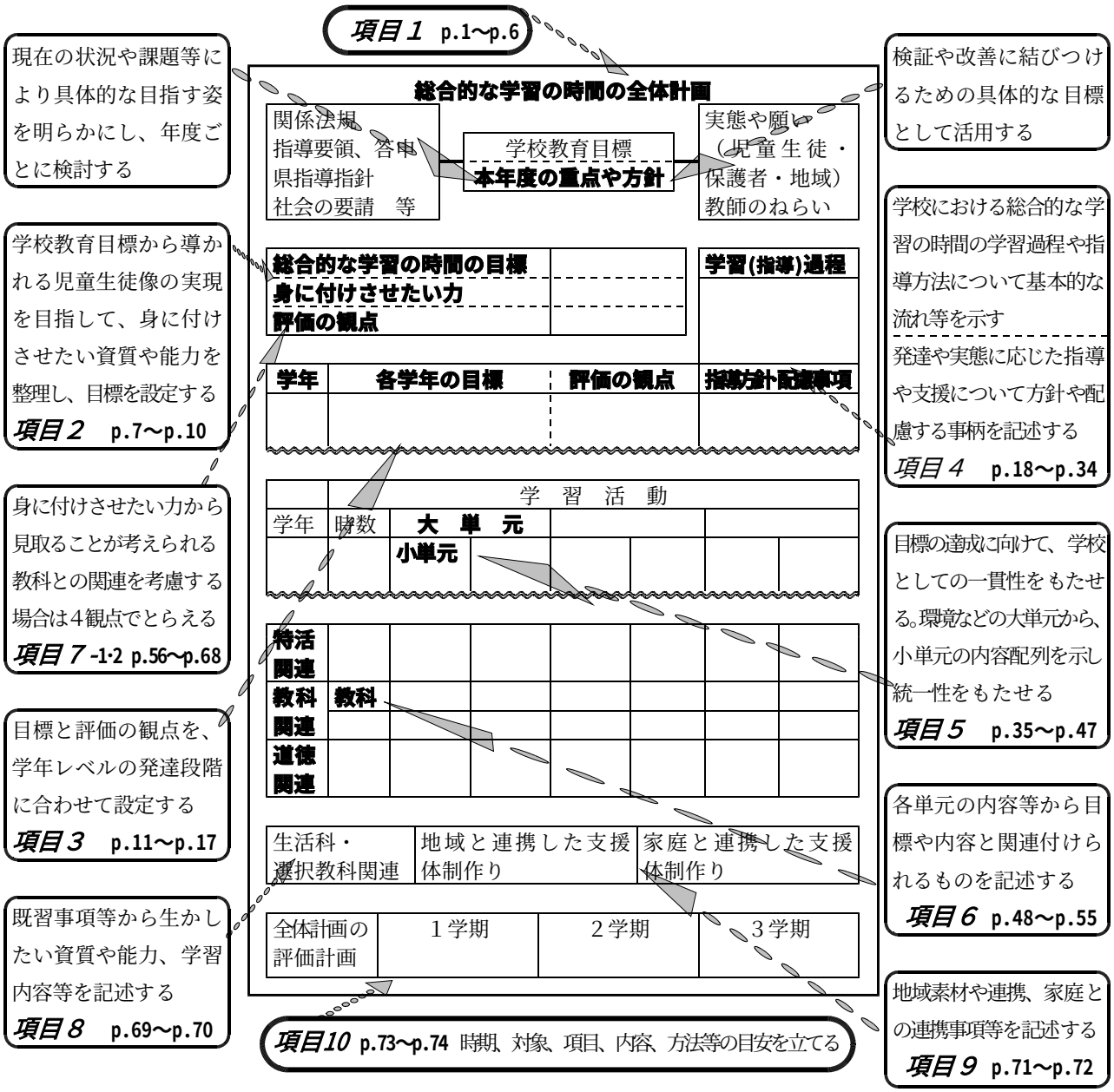
○各学年で身に付けさせたい資質・能力の系統性が明らかになります。

○総合的な学習の時間で取り上げる学習内容の系統性が明らかになります。

○総合的な学習の時間と各教科等との関連する学び方や内容が明らかになります。

全体計画を作成することで、
上の三つの点が整理できます。

以上のことを整理したのが【図２】です。本手引きの項目１～項目10まで確かな全体計画作成にかかわる説明や解説を加えています。自校で全体計画を作成する際に活用してください。




**【図２】総合的な学習の時間の全体計画**

◆　**本年度の重点や方針とその設定の仕方にかかわる考え方をどう考えるか？**

本年度の重点や方針の設定については、次のような実践例が参考になります。　**盛岡市立杜陵小学校の例**

**研究との関係**
研究の概要及び成果と課題

**教育目標の具現との関係**
教育目標の具現にむけた総合の位置付け

**【本年度の重点】**
求め続ける子が育つ
**－教科との関連をデザインした総合的な学習の実践をとおして－**
**問題解決的な学習をとおして、地域のすばらしさに学びながら、自ら学び自ら考える力、学び方やものの考え方を身に付けるとともに、自己の生き方について考え、さらに、各教科等で身に付けた知識や技能等を相互にはたらくようにできる児童生徒の育成が必要である。**

**社会の学校教育への要請との関係**
教育課題の対応へ向けた総合の役割

**児童生徒の実態との関係**
培ってきた力と身に付けさせたい力

なお、次のページからは、小・中学校の総合的な学習の時間の全体計画の例を載せています。

**総合的な学習の時間の全体計画**　　**盛岡市立杜陵小学校**

校　訓「大　志」

・日本国憲法　・教育基本法
・学校教育法　・小学校学習指導要領
・教育課程審議会答申
・岩手県学校教育指導指針　　等

学　校　教　育　目　標
◇　明るくおもいやりのある子（徳）
◇　進んで学習する子　　（知）
◇　健康でたくましい子　　（体）

・児童の実態、児童の思いや願い
・学校や家庭、地域の実態
・保護者、地域の方々の思いや願い
・社会の要請　　・教師のねらい

| | |
|---|---|
| 総合的な学習の時間の目標 | 体験的な学習や問題解決的な学習等を通して、地域の素晴らしさに学びながら、児童に自ら学び自ら考える力を育成し、学び方やものの考え方を身に付けさせるとともに、自己の生き方について考えることができるようにし、各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、それらが相互に働くようにする。 |

**総合的な学習の時間において身に付けさせたい３つの力**

| 学び方 | 自分の考えをもつ | 学びを生かす |
|---|---|---|
| ○課題解決的学習過程や、追究のためのいろいろな学習活動の仕方を習得する。 | ○論理的な考え方をし、自分の考えをつくりだす。 | ○各教科で得た知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活においてつかう。 |

| | 第３学年 | 第４学年 | 第５学年 | 第６学年 |
|---|---|---|---|---|
| 各学年の目標 | 課題解決的な学習の進め方を体験を通して友達や教師とともに学び、情報の収集の仕方やまとめ方を身に付け、事象を比較したり、前後関係をつかんだりしながら筋道立てて自分の考えをもつとともに、活動の中で各教科等での学びを生かす力を育成する | 課題解決的な学習の進め方を体験を通して自ら学び、課題の設定の仕方、情報の収集の仕方やまとめ方を身に付け、事象を比較したり要因を考えたりしながら筋道立てて自分の考えをもつとともに、活動の中で各教科等での学びを生かす力を育成する。 | 自ら明確な課題を設定し、課題解決のために、様々な調査活動を行い、分かったことに自分なりの考えをもつことを通して、人、物、ことと自分とのかかわりを多面的にとらえ、生き方を見つめるとともに、各教科等での学びを意図的に関係付けていく力を育成する。 | 新しい学びを獲得しようと、学んだことを学びつけたり、応用したりしながら、自分の考えを深め、見通しをもって自ら課題を解決することを通して、自分と社会とのかかわりを見つめ直しよりよい生き方や考え方をめざそうとする力を育成する。 |
| 評価の観点 | ○　活動への関心・意欲・態度 | ○　総合的な思考・判断（自分の考えをもつ） | ○　活動にかかわる技能・表現（学び方） | ○　総合的な知識・理解（学びを生かす） |
| 指導過程 | ①テーマをもつ → | ②調べる → | ③テーマをまとめる → | ④発信する → ⑤自分を見つめる |
| | ・身近な事象から明確な課題を見い出す。 | ・いろいろな方法を使って課題を追究する。 | ・集めた情報を整理し、課題を解決する。 | ・学びの成果を発信する。 ・自分自身の成長を見つめ自信をもつ。 |

| | 時　数 | | １０５ | １０５ | １１０ | １１０ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 単元名 | 環境単元 | | ・ホタル探検隊 | ・タンポポ探検隊 | ・パワフル、中津川探検隊<br>・大きくなってねｻｹの赤ちゃん | ・環境のそぼろ弁当 |
| | 生地域の特色を単元名 | 福祉 | ・やさしさに出会う町、肴町 | ・体験、まちのボランティア | ・広げよう、わたしたちにできること－お年寄りとともに－ | ・創ろう、人に優しく、心豊かなまち |
| | | 国際理解 | ・発見、発信、杜陵ならではのひみつ | ・さぐろう、郷土の伝承文化<br>・知ろう、学ぼう、まちの先人たち | ・世界の国にこんにちは | ・世界を知ろう、わたしが伝えたい日本のよさ |
| | | 地域 | ・チャレンジ、キッズマート肴町 | ・作ろう、わたしたちの郷土読本 | ・プロジェクトＭＴ５ | ・調べてブラボー　発見ワンダフォー　仙台・盛岡　愛Ｑ |
| | その他の単元 | | ・体のひみつをさぐれ（健康）<br>・本はともだち（絵本作り） | ・新聞記者になろう（情報） | ・パソくんこんにちは（情報） | ・見つめよう食（食）<br>・わたしの卒業（個人） |
| | | | ・オリエンテーション　・こずかた学習会　・一年のふりかえり | | | |

地域からの学び ↑　↓ 地域についての学び

知識・技能の実態をともなった理解 ↑　↕ 見方や考え方　↓ 知識・技能の深化と日常化

↑ 生活科における学び

**地域と連携した支援体制作り**

○地域の教育的資源の活用
・文化的行事
・地域のフィールド　等
（岩手公園、中津川
ホットライン肴町　等）
○地域施設・機関の活用
・市役所
・岩手日報
・ＮＴＴ　　等

○地域の方々からの協力、支援
・老人会、町内会、商店街等
○地域の専門家からの協力、支援
・伝統工芸士　　等
○地域の人材バンク
○知識人からの協力、支援
・みちのく岩手カッパ村村長
・ホタルを守る会会長　等

**家庭と連携した支援体制作り**

○支援ボランティア　・安全面　・作業面　等
○家庭への広報活動

**教　科　と　の　関　連**

| | |
|---|---|
| 教科 | 教科等で培った力を発揮し総合的な学習の時間でさらにのばす。 |
| 国語 | ・相手や目的に応じ、筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりすること<br>・相手や目的に応じて、筋道を立てて文章を書くこと<br>・目的に応じ、内容の中心を考えたり、要旨を把握したりしながら読むこと |
| 社会 | ・社会的事象を的確に観察・調査し、各種の資料を効果的に活用し、調べたことを表現すること |
| 算数 | ・事象を数理的にとらえること<br>・数量や図形についての表現や処理にかかわる技能 |
| 理科 | ・自然事象の性質や規則性、相互の関係等への理解<br>・観察・実験の技能と、過程や結果の的確な表現 |

・教科の学びをつかう
・考えたり工夫したりする。
・自分を通した気付きをする。

**道徳指導の重点**

・生命尊重
・思いやり、親切
・不撓不屈・尊敬感謝
・郷土愛　・自然愛

**総合的な学習の時間の全体計画**　　**花巻市立花巻北中学校**

・学習指導要領
・岩手県学校教育指導指針
・花巻市教育目標

学校教育目標
**心豊かで、たくましく生きる人に**
1　進んで学習し、思慮深い生徒（自主）
2　強い心でねばり強い生徒（実践）
3　心豊かで、協力する生徒（協調）

・生徒の実態
・父母・地域の願い
・教師の願い
・今日的課題

| | |
|---|---|
| **「総合的な学習の時間」の目標** | 地域にはぐくまれている多くの「ひと・もの・こと」とのかかわりの中で、事象を多面的・総合的にとらえ、そこに潜む課題を見い出し、自他の思いや願いを常に意識しながら、地域に対する愛着と誇りをもち、自分の見方や考え方を広げ、実践的に課題解決に向けて行動する態度を養う。 |

**身に付けさせたい力**

| ①「問題発見の能力」 | ②「問題解決の能力」 | ③「自己表現の能力」 |
|---|---|---|
| ○身近な事象に対して、興味・関心をもち、明確な問題意識をもつことができる。 | ○具体的な事象の因果関係を分析して、必要な情報を取捨選択しながら、課題を解決することができる。 | ○各教科等での学びを関連付けながら、自分の考えをまとめ、効果的に表現することができる。 |

教科　　道徳　　特別活動　　地域との連携

| **評価の観点** | ○活動への関心・意欲・態度（問題発見の能力） | ○思考・判断（問題解決の能力） | ○技能・表現 | ○知を総合する能力（自己表現の能力） |
|---|---|---|---|---|

| 指導方法 | 指導体制 | 評価計画 |
|---|---|---|
| ○観察・調査等の体験活動の実施<br>○個の考えを考慮<br>○小集団グループによる体験活動の充実<br>○発表報告会等の工夫 | ○教師間の連絡調整会議の実施<br>○地域の理解と支援体制の充実<br>○安全体制・危機管理の確立 | ○観点別学習状況を把握するための評価規準の設定<br>○ポートフォリオ評価の実施 |

**学年テーマ**

| 1年　福祉・ボランティア | 2年　職業を知る | 3年　環境問題 |
|---|---|---|

**目指す生徒像**

| | | |
|---|---|---|
| ・高齢化社会や障害を持つ人々に関心をもち、意欲的に調べようとする生徒<br>・高齢化社会や障害を持つ人々に関する問題解決のための技能、思考力、判断力を持った生徒<br>・活動の中で、「学び方」を身に付けると共に、自分の考えを他に工夫して伝えられる生徒<br>・ボランティアの精神に気付き、自分でも何らかの形で関わり、実践していこうとする生徒<br>・将来の自分の生き方も含め、様々な人とともに生きていくためにはどうすればよいかを考える生徒 | ・郷土に目を向け、地域に働く人たちや産業の様子を知ろうとする生徒<br>・豊かな郷土を築き、将来の生き方を含め、郷土と共に、生きていく自分達の姿を考えられる生徒<br>・学習を進めながら「学び方」を身に付ける生徒<br>・自分の体験や考えが他に工夫して伝えられる生徒 | ・環境や環境問題、その対応策に関心を持ち、意欲的に調べようとする生徒<br>・環境や環境問題に関する問題解決のための技能、思考力、判断力を持った生徒<br>・活動の中で「学び方」を身に付けるとともに、自分の考えを、他に工夫して伝えられる生徒<br>・自らの生活を見直し、進んで環境を保全していこうとする心情や自薦的態度を身に付ける生徒 |

**年間学習計画**

| 月 | 全校タイム | | 1年 | 2年 | 3年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | JRC活動の世界2 | テーマ研究 | ＪＲＣとは２ | ＪＲＣとは２ | ＪＲＣとは２ |
| 5 | | | オリエンテーション２、校外学習準備６ | オリエンテーション２、校外学習準備６ | オリエンテーション２、コース別オリエンテーション２ |
| 6 | 市長とのトーク２ | | 校外学習６、市政への関心２、校外学習まとめ６ | 校外学習６、市政への関心２、校外学習まとめ６ | 個人テーマ設定２、計画立案２、市政への関心２、調査活動２ |
| 7 | 人権学習２ | | コース別オリエンテーション２、個人テーマ設定２、人権について学ぶ２ | 職場体験場所決定２、職場への質問等準備２、人権について学ぶ２ | 校外学習（市立博物館見学）６、校外学習まとめ４、人権について学ぶ２ |
| 8 | | | 計画立案２ | 職場との打ち合わせ２ | 調査活動２、高校訪問準備２ |
| 9 | | | 調査活動６、体験学習６ | 職場体験学習６、体験発表準備４ | 高校訪問６、調査活動６ |
| 10 | 学年毎に実施(講演会)２ | | 福祉の世界と課題２、中間まとめ・振り返り２、調査活動２ | 職業の世界と課題２、発表準備、発表練習４職場体験学習発表会２ | 環境問題と人の世界２、学年発表会準備６、学年発表会２ |
| 11 | | | まとめ６、学年発表会２ | 学習発表会２、地区中文連発表準備４、クラフト体験４ | 個人レポート作成６ |
| 12 | 全校発表会２ | | 全校発表会１、活動反省とアンケート１ | 全校発表会２、活動反省とアンケート１、先輩と語る会準備６ | 全校発表会２、活動反省とアンケート１ |
| 1 | | 学年タイム | 身近な職業調べ発表会４ | 先輩と語る会まとめ２、修学旅行準備２ | 卒業文集作り４ |
| 2 | 新たな出発生き甲斐を語る２ | | 文集作り４、生き方を語る２ | 修学旅行準備４、生き方を語る２ | 卒業文集作り４<br>生き方を語る２ |
| 3 | | | 文集作り２ | 修学旅行準備２ | 卒業に向けて２ |
| | （１２） | | ７１ | ７９ | ７３ |

**教科との関連**

例　　国語科　第一学年　年間指導計画

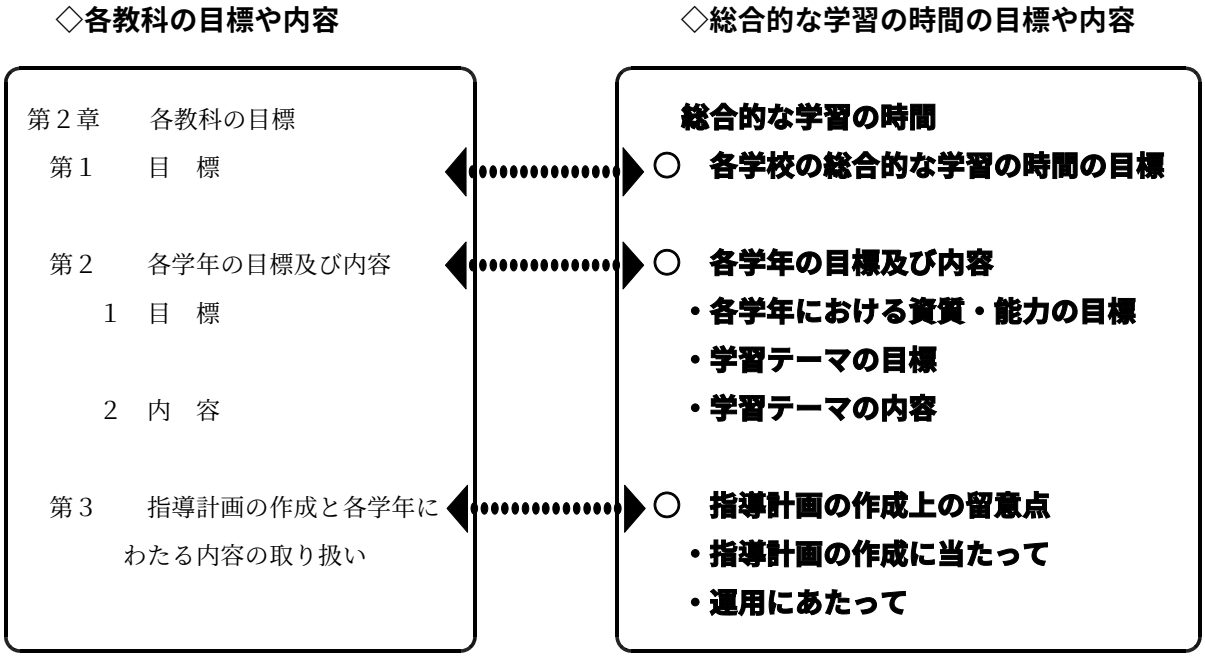
| 月 | 単元 | 教材名＜文章作品＞ | 時数 | 学習事項 | 総合・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 一 新しい出会い | 言葉で伝えよう<br>＜声で届ける＞<br>友情ってなんだろう<br>＜親友＞ | 2<br>5 | ・自分の思いや感想を言葉にしてつたえる。<br>・「友情とは何か」について、ディベートの会を開くよう。 | ・写真、絵、イラスト等、手法が総合的な学習と関連<br>・手法が総合的な学習と関連 |
| 5 | | 書くことの学習１<br>＜書く材料を見つける＞ | 3 | ・身近な生活の中から題材を見つけ、必要な材料を集める。 | ・手法が総合的な学習と関連 |
| | | | | | |

社会科　第一学年　年間指導計画

| 月 | 単元 | 教　材　名 | 時数 | 学習事項 | 総合・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |
| 9 | いろいろな地域を調べよう | １ 身近な地域を調べよう<br>（１）地形図から地域を読む<br>（２）地域を歩こうを調べよう<br>（３）地域調査<br>（４）決め方を考える<br>（５）発表会（評価） | 9<br>1 | ・縮尺、等高線、方位、地図記号、読図<br>・地域の観察、土地利用<br>・自然、人口、産業、文化などテーマを決めて調査活動<br>・班ごと発表会 | ・内容、手法ともに総合的な学習に関連<br>・学区域をもとにした地域を扱う。<br>・ルーペ、マップをつくり発表させる。 |

## ＜参考までに…＞　　自校の総合的な学習の時間を見つめ直そう

各学校においては、活動中心の計画になっていませんか？　活動することがねらいになっていませんか？　それが、総合的な学習の時間が形骸化している原因になっています。各教科で示されている学習指導要領の項目に当てはめて、総合的な学習の時間の目標や内容及び指導計画の作成における留意点を明示することで、上記の問題を解決できます。




小・中学校の学習指導要領には第２章「各教科」、第３章「道徳」、第４章「特別活動」の章立てがなされています。総合的な学習の時間もこの章立ての一つと考えることもできます。第２章「各教科」は大きく三つの項目で述べられています。

「第１」が教科の目標です。総合的な学習の時間では、各学校の目標にあたります。

「第２」が各学年（各分野）の目標及び内容です。この項目について総合的な学習の時間では次の三つから記述します。

“各学年における資質・能力の目標”　“学習テーマの目標”　“学習テーマの内容”

「第３」では、指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱いが述べられています。総合的な学習の時間においても指導計画の作成や学習指導に関する留意点を明記します。

このように総合的な学習の時間の目標から、各学年の目標や内容、指導計画の作成の留意点を示すことで、学校独自の総合的な学習の時間の位置付けやその運用について具体像を描くことができます。

## 盛岡市立杜陵小学校版　学習指導要領　総合的な学習の時間編

第１　総合的な学習の時間の目標

体験的な学習や問題解決的な学習等をとおして、地域の素晴らしさに学びながら、児童に自ら学び方やものの考え方を身に付けさせるとともに、自己の生き方について考えることができるようにし、各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、それらが相互にはたらくようにする。

第２　各学年の目標及び内容

［全学年共通］

１　身に付けさせたい資質・能力の目標

(1)　学び方

一つ一つの学習過程を体験的に学び、学習活動の仕方（学び方）を身に付ける。

(2)　自分の考えをもつ

前後の関係をつかみながら、課題を解決するために自分の結論・判断を導き出す。

(3)　学びを生かす

教科や総合での既習内容を想起し、それを関係付けて学習や生活に使う。

２　学習課題（学習テーマ）に関する目標

(1)　環　　境－地域の人、もの、こととのふれあう活動をとおし、総合ならではのダイナミックな展開をしながら、地域への愛着を深めていく。

(2)　国際理解－地域や我が国の歴史や文化、伝統を理解し、これを尊重しようとするとともに、異なる文化や習慣をもった人々と交流し、共に生きていくための資質や能力を身に付ける。

(3)　福　　祉－自分の力を他人や社会のために活用し、自己実現を図るとともに、高齢者や障害のある人との交流をとおして、共生を図る資質や能力を身に付ける。

(4)　地　　域－自分の住んでいる地域の歴史、文化等について、理解と愛着をもち、地域を支える人の存在や地域で起きている問題点に気付くとともに、地域の一員としてよりよい地域をつくる。

３　学習課題に関する内容

(1)　環　　境－地域の自然素材を教材とし、自然と人間の社会生活のかかわりを考えていく。

(2)　国際理解－活動の舞台を地域としながら、地域の地理、歴史、先人等のよさや大切さを理解する単元や、我が国のよさ、さらには、世界とのつながりを考え、国際理解への意識を高める。

(3)　福　　祉－福祉の意義を知り、共に安心して暮していける社会をつくっていこうとする地域の社会福祉への意識を高める。

(4)　地　　域－地域を支える人々の活動や願いに触れることをとおして、地域の伝統と文化のよさやそれらを守るために自分にできることを考える。

第３　指導計画の作成上の留意点

１　指導計画作成に当たっての留意事項

(1)　地域の人々や文化施設等と連携を図り、それらの教育的資源を学年間及び年間において計画的、効果的に活用できるようにする。

(2)　指導計画の作成に当たっては、児童の発達段階や学年間の系統性を考慮して作成する。

(3)　教科等との関連を図り、単位時間毎に活動の視点を設け、自己評価活動を行い、児童の学びが発展できるようにする。

２　内容の指導に当たっての留意事項

(1)　児童が学習課題を自覚できるように具体的な活動や体験を位置付ける。

(2)　問題解決の過程を見とれるようにポートフォリオの効果的な活用を図る。

# 2　総合的な学習の時間の目標の設定

**学習指導要領に示されている総合的な学習の時間のねらいと各学校の教育目標から、身に付けさせたい資質・能力と取り上げる学習対象や内容を基に、目指す児童生徒の姿を明らかにして目標を設定します。**

各学校が、学習指導要領に示されている総合的な学習の時間のねらいを基に、独自に総合的な学習の時間の目標を設定する必要があります。

各学校が、総合的な学習の時間の目標を設定する場合に大切にしたいことのが、次の二つの点です。

## ポイント１　学習指導要領で示された総合的な学習の時間のねらいをふまえる。

総合的な学習の時間の目標を設定するとき、主に(1)と(2)に示されている「問題解決の力」の育成とその結果として「自己の在り方生き方」を考えることの二つの視点を大切にします。

(1)　自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。

(2)　学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすること。

(3)　各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それが総合的に働くようにすること。

「問題解決の力」は、ねらいにも示されているように「自ら課題を見付け、自ら考え、主体的に追究し、よりよく問題を解決する」等、問題解決の一連のプロセスで発揮される力です。また、問題を解決するには、そのための学び方も重視されます。そこで、情報の収集、選択、活用といった情報活用の能力の側面からもとらえることができます。

「自己の在り方生き方」を考えることは、取り上げる学習対象や内容と大きくかかわっています。つまり、自分とのかかわりで学習対象の価値に対する見方や考え方である価値観をとらえた児童生徒の姿を明らかにすることになります。(3)のねらいについては、全体計画や年間指導計画を作成する場合に、「各教科等との関連」を明らかにします。

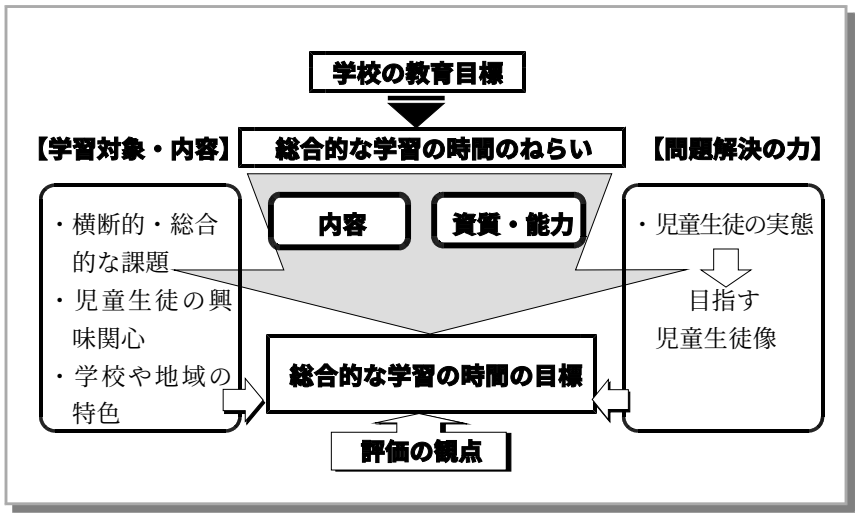
## ポイント２　各学校の教育目標を受けて総合的な学習の時間の位置付けを明らかにする。

各学校の教育目標は、各学校で編成される教育課程の実施によって具現化されます。各学校の教育目標の具現化のために総合的な学習の時間では何を担っているのかを明らかにすることが、各学校の総合的な学習の時間の目標を設定する上で大切です。

ここでも「問題解決の力」（資質・能力）と「自己の在り方生き方※小・中学校においては、自己の在り方生き方」（内容）を考えることの二つの視点から、各学校が自校の教育目標を分析して、意味付けをします。

「問題解決の力」としての資質・能力は、児童生徒の「問題解決の力」の実態や目指したい児童生徒像との関連を明らかにします。（14頁・15頁の身に付けさせたい資質・能力の一覧表を参考）

「自己の在り方生き方」を考えることは、取り上げる学習対象や内容との関連が強くなります。ここで取り上げる学習内容も、各学校が目指す児童生徒像に照らして横断的・総合的な課題、児童生徒の興味関心に基づく課題、学校や地域の特色に応じた課題から、各学校が独自に決めます。そして、ここに各学校の総合的な学習の時間の特色が表れます。実際に多くの学校では、【図３】のように学習指導要領に示されている総合的な学習の時間のねらいや学校の教育目標から各学年の総合的な学習の時間の目標を設定しています。そして、ここで重要なのは各学校において、総合的な学習の時間の目標が実現されていることを見取るための評価の観点を明確にしておくことです。９頁・10頁には、小・中学校それぞれの目標設定の例を紹介しています。




**【図３】　総合的な学習の時間の目標設定のしくみ**

***＜参考までに…＞***　　**体験活動について**　　**盛岡市立杜陵小学校の例**

総合的な学習の時間で身に付けさせたい力は、体験活動をとおして、実感を伴った学びを進めていくことによって生まれると考えられます。そこで、体験活動を次のようにとらえています。

**体験活動とは…**

五感をとおして本物との直接体験をすることです。例えば、「サケが遡上するころの中津川の水の冷たさ」は、詳しく言葉で語られても実感をもって分かることはできません。自分の手でふれて初めて冷たさを実感し、学びが深まります。このような実感を伴った体験活動をすることで、児童は心を動かされ、学びの喜びを知り、行動を起こしていくようになり、求め続ける子が育つと考えます。

**体験活動をを取り入れるときの対象の条件**

○　ねらいが達成できること
○　五感を用い体験ができること
○　児童が意欲をもてること
○　身近な題材であり、繰り返した体験ができること
○　既習の学びが生かせたり、次の学習に発展させたりできること

**体験活動を指導に位置付けるときの留意点】**

○　指導計画を基に、体験活動の価値や内容を明確にする
○　児童の心を適度に刺激するような体験活動にする
○　体験させたいことを体験できるように、場の構成を工夫する
○　時間の保証をする（繰り返した体験の可能性）
○　体験活動をふり返り、体験をとおして学んだことを意味付ける

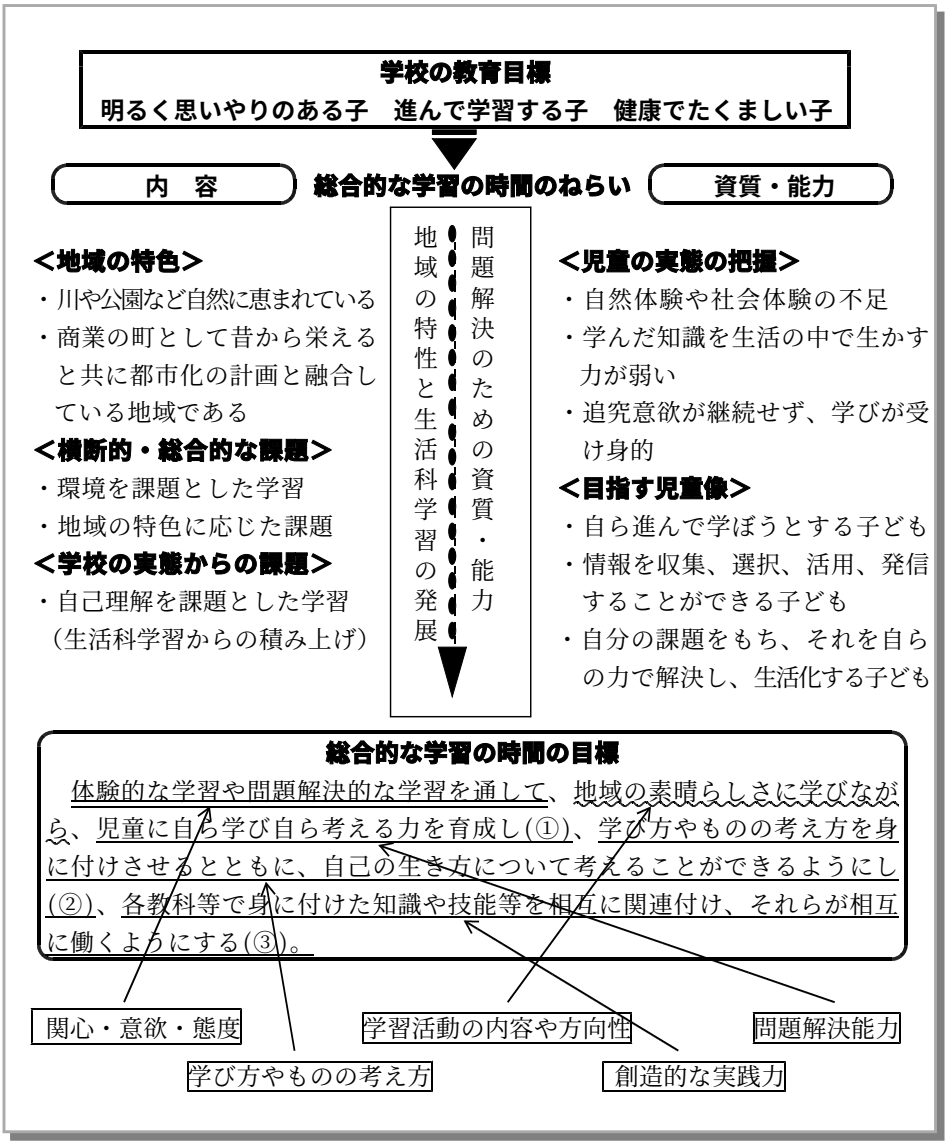
# 総合的な学習の時間の目標　小学校の例

―盛岡市立杜陵小学校の例を基に―

本校は、市内の中心に位置し、サケが遡上する清流と南部藩の歴史が刻まれ、樹木や花々が四季を彩る公園を目の前にしています。学区は、市の中心商店地としての人の往来の多い地区と、昔からのたたずまいの残る地域とからなっており、学校からほぼ１キロメートルの範囲内にあります。

学区の中にはマンションが多く建ち、近年、児童数が微増している。地域の学校に対するまなざしは温かく協力的であり、父母と教師の会の活動も活発に行われています。

そこで、本校では、こうした地域の特性を教育活動に生かすことを学校の教育目標に掲げています。総合的な学習の時間の目標も、この学校の教育目標を達成するために、学習指導要領で示されている総合的な学習の時間のねらいと結び付けて設定しています。




**【目標設定の特徴】**

杜陵小学校の目標設定の特徴は、地域の特性を生かすことと生活科学習の積み上げを大切にしていることです。そのため、自分の生活とのかかわりから、地域の人、自然、社会の諸問題をとらえようとしています。そして、こうした地域の諸事情とのかかわりから、自己実現を目指す子どもを育成しようとしています。

また、目標のおさえは、学習指導要領に示された三つのねらい（①～③）と学習活動の展開に当たっての配慮事項である「体験的、問題解決的な学習」が基軸となっています。さらに、「地域の素晴らしさに学びながら」という学習活動の内容や方向性を明示することによって自校の特色を表しています。

評価の観点としては、「総合的な学習の時間のねらいをふまえた観点」「教科の評価を生かした観点」「学校の独自性を発揮した観点」の三者を融合させ学校の独自性を出しています。

学習指導要領の内容や表記を基本に、自校の特色を付加することは、それぞれの学校の創意工夫による展開が期待できます。

# 総合的な学習の時間の目標　>>>>>>　中学校の例

**―花巻市立花巻北中学校の例を基に―**

本校の地域は、市内の北に位置し、有名な連山が見渡せ、近くを大きな河川の支流が流れる自然環境に恵まれたところです。近年、新興住宅地として区画整理が進められ、郊外型のマイホームを求め、年代的には若い世代の住民で構成されています。伝統的な産業と近代的な産業が融合した地方都市にあって、公共の福利厚生施設や社会福祉事業所も整備されています。本校もも創立18年目を迎え、歴史と伝統・文化を継承しつつ、その誇りと自覚をもち自校の目指す学校教育目標の達成に向けて、家庭や地域との連携を一層深め教育活動に取り組んでいます。

そこで、本校では、こうした地域の特色を生かして、地域に目を向けた主体的に社会にかかわり、自分の在り方について自ら考え行動できる生徒の育成を目指して、総合的な学習の時間の目標を次のように設定しています。

**学校の教育目標**

**心豊かで、たくましく生きる人に**

１進んで学習し、思慮深い生徒（自主）　２強い心で粘り強い生徒（実践）

３心豊かで、協力する生徒（協調）

**内　容**　**総合的な学習のねらい**　**資質・能力**

**＜地域の特色＞**
- 自然環境に恵まれている
- 振興住宅地が多く、福利厚生施設や社会福祉事業所も整理されている
- 地域産業の活性化が図られている

**＜横断的・総合的な課題＞**
- 福祉を課題とした学習
- 環境を課題とした学習

**＜学校の実態からの課題＞**
- 積極的に地域社会にかかわろうとする姿勢を養うことができる学習　（※職業を知る）

地域の教育資源・教育力の活用

問題解決のための資質・能力

**＜生徒の実態の把握＞**
- 自然体験や社会体験の不足
- 地域の自然を守りたいというねがい
- 実践的に行動する力が弱い

**＜目指す児童像＞**
- 事象を多面的にとらえ、主体的判断し、表現する生徒
- 地域のよさを発見し、愛着や誇りをもつ生徒
- 自己の生き方をふり返るために実践的に行動する生徒

**総合的な学習の時間の目標**

地域にはぐくまれている多くの「ひと・もの・こと」とのかかわりの中で、事象を多面的・総合的にとらえ、そこに潜む課題を見い出し、自他の思いや願いを常に意識しながら、地域に対する愛着と誇りをもち、自分の見方や考え方を広げ、実践的に課題解決に向けて行動する態度を養う。

問題解決力　主体的・創造的な態度　学び方やものの考え方　自己の生き方

**【目標設定の特徴】**

花巻北中学校の目標設定の特徴は、地域の教育資源や教育力の活用を図ることを大切にしていることです。地域の特色を生かした課題を設定し、それを総合的な学習の時間を展開する時の目標として設定しているのが特徴です。

また、日常生活や地域での調査活動を行わせることを中心に今日的な課題に対して総合的な学習の時間を展開するよう計画を立てています。

評価の観点として、総合的な学習の時間のねらいをふまえた評価の観点である「問題解決能力」「学び方やものの考え方」「主体的・創造的な態度」「自己の生き方」を位置付けています。

それぞれの学校の創意工夫による展開ということに沿った目標のおさえ方をする学校も多いと思います。その時、目標のおさえが能力のみに偏重することなく、全体計画における「育てたい資質や能力及び態度」の明示と合わせ、総合的な学習の時間のねらいとの整合性に考慮することが大切です。

# ３　総合的な学習の時間の学年目標の設定

**学校の総合的な学習の時間の目標から、各学年の児童生徒に求められている資質・能力を分析して目標を設定します。このとき、児童生徒の実態や各教科で習得が期待される資質・能力等を考慮します。**

各学年の総合的な学習の時間の目標は、自校の目標を各学年の児童生徒の発達特性に応じて具体化します。ここでは、身に付けさせたい資質・能力に焦点化します。
（学習内容にかかわる目標は、37頁から47頁の「項目５　横断的・総合的な課題の学習内容」を参照）
総合的な学習の時間の目標は、問題解決の力を育てることをねらっています。そこで、身に付けさせたい資質・能力の中身を、各学年の発達特性に応じて明らかにし、各学年の目標を設定します。各学年の目標を設定するときのポイントは次の三つです。

**ポイント１　児童生徒の実態を把握する。**

把握する方法としては、これまでの総合的な学習の時間の積み上げから、児童生徒の問題解決の力を教師間で話し合ったり、児童生徒にアンケート調査したりする等の方法があります。各学年の目標を設定する時に児童生徒の実態を把握することは、教師自身が児童生徒にどんな力を身に付けさせたいのかを明らかにする上でも大切です。

**ポイント２　各教科で習得が期待される資質・能力や児童生徒の発達特性を参考にする。**

各学年の児童生徒に求められる資質・能力を明らかにする場合、各教科等で習得が期待される資質・能力が参考になります。資質・能力の一覧表（14頁・15頁）には、評価の観点を各項目に分けて、身に付けさせたい資質・能力を示しています。これは、学習指導要領に示されている各教科等で習得が期待される資質・能力の分析等を基に作成しています。

**ポイント３　二学年をひとまとまりにする等、弾力的にとらえる。**

目標は各学年ごとに細かく設定することが望ましいのはいうまでもありません。しかし、総合的な学習の時間が実践された年数が少ないことや学習指導要領の目標等が二年間の区分で記載されている教科が増えていること等を考え合わせると、目標を二学年ひとまとまりでとらえることも可能です。
16頁・17頁に示した身に付けさせたい資質・能力の目標例の一覧表は、小・中学校は二区分で、高等学校は三年間のトータルとして身に付けさせたい資質・能力を示しています。

12・13頁には、総合的な学習の時間で身に付けさせたい力と各学年の目標の設定例を紹介しています。

# 総合的な学習の時間　身に付けさせたい力の設定例

―盛岡市立杜陵小学校の例―

◇総合的な学習の時間において身に付けさせたい力

| 身に付けさせたい力 | 目指す児童像 | 中学年の具体像 | 高学年の具体像 |
|---|---|---|---|
| ①学び方 | 課題解決的学習過程や、追究のためのいろいろな学習活動の仕方を習得する子 | 一つ一つの学習過程を体験的に学び、学習活動の仕方（学び方）を身に付ける | 自力で学習を進めるとともに、適切な学習活動の仕方が分かり、学びを広げ深めていく |
| ②自分の考えをもつ | 論理的な考え方をし、自分の考えをつくりだす子 | 前後関係をつかみながら、課題を解決するために自分の結論・判断を導き出す | 全体の構造と筋道が分かり、課題を解決するために自分の考えを明確にして、結論・判断を導き出す |
| ③学びを生かす | 各教科で得た知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活においてつかう子 | 教科や総合での既習内容を想起し、それを関係付けて学習や生活につかう | 教科や総合での既習内容を関係付けたり、応用したりして学習や生活につかう |

◇総合的な学習の時間において身に付けさせたい力の各学年における具体的内容例

| | 中学年における具体的な内容例 | 高学年における具体的な内容例 |
|---|---|---|
| ①学び方 | **○　学習過程が分かること**<br>・総合的な学習の時間の単元全体の進め方を理解して身に付けるとともに、一つ一つの学習過程における学び方やものの考え方を自ら獲得していく | **○　学習過程が分かること**<br>・単元全体を見通して、自分で計画を立てて学習を進めるとともに、それぞれの学習過程における適切な活動を主体的に判断しながら、知の総合化を図っていく |
| | **○　調べ方・情報収集の仕方が分かること**<br>・図書資料を調べ、簡単な記録をする<br>・教科での学びをもとに見学、実験、観察等をし、必要なことを記録する<br>・観点をもってインタビューをし、できるだけ間違わず簡単な記録をする<br>・インターネットで簡単な情報を収集する<br>・教師や友だちからのアドバイスや情報を生かす<br>・提示された資料の中から大切なことを見つける | **○　調べ方や情報収集の仕方が分かること**<br>・図書資料を活用し必要な情報を読み取る<br>・課題解決のための見学、実験、観察等の計画を立て、結果を正確に記録する<br>・場に応じたインタビューをし、キーワードを中心に語句で記録する<br>・インターネットを効果的に使って情報を収集する<br>・デジタルカメラ等、各種機器を活用する<br>・教師や友だちからのアドバイスを生かして、活動を深めたり広げたりする<br>・必要な資料を自分で準備する |
| | **○　まとめ方がわかる**<br>・まとめ方のプロセスを知り、課題解決を図る | **○　まとめ方がわかる**<br>・学習の成果を自分で整理し、課題解決を図る |
| ②自分の考えをもつ | **○　課題を見付けること**<br>・身近な対象の中から取り組みたい課題を選んだり、見付けたりする | **○　課題を見付けること**<br>・身近な対象にかかわりながら、価値ある課題を見付ける |
| | **○　課題追究の見通しをもつこと**<br>・課題解決に必要な準備物を自分で考えてみたり、活動の順番を考えたりする | **○　課題追究の見通しをもつこと**<br>・結論やその価値を予想し、検証のための活動計画を立てる |
| | **○　調べること**<br>・活動の場面ごとに、よりよい活動を考え、判断する<br>・分析したり、比較したりして、筋道を立てて自分の結論・判断を導き出す | **○　調べること**<br>・常に課題を意識して、活動全体を見通しながら今ある活動を適切に考え、判断する<br>・多面的に事象をとらえたり、学びを関連付けたり、応用したりしながら、筋道をたてて自分の結論・判 |
| ③生かす | **○　活動の場面ごとに、関連する教科の内容を関係付け、活用していく**<br>**○　人から学んだことを問題解決に生かすとともに、その生き方に感動する** | **○　活動を見通し、意図的に身に付けた内容を関係付けたり、応用したりしながら、知の総合化をするような学習をしていく**<br>**○　人から学んだことを問題解決に生かすとともに、その生き方を自分の生き方に生かす** |

# 総合的な学習の時間　学年目標の設定例

―盛岡市立杜陵小学校の例―

| 全体 | 総合的な学習の時間の目標 | | |
|---|---|---|---|
| 力 | 学び方 | 自分の考え方をもつ | 学び方を生かす |
| 各学年の目標　第三学年 | 体験をとおして友だちや教師と共に学び、情報の収集の仕方やまとめ方を身に付ける | 事象を比較したり、前後関係をつかんだりしながら筋道立てて自分の考えをもつ | 活動の中で各教科等での学びを生かす |
| 第四学年 | 体験をとおして自ら学び、課題の設定の仕方、情報の収集の仕方やまとめ方を身に付ける | 事象を比較したり、要因を考えたりしながら筋道を立てて自分の考えをもつ | 活動の中で各教科等での学びを生かす |
| 第五学年 | 自ら明確な課題を設定し、課題解決のために、様々な調査活動を行う | 分かったことに自分なりの考えをもつ | ひと、物、ことと自分とのかかわりを多面的にとらえ、生き方を見つめるとともに、各教科等で学びを意図的に関係付けていく |
| 第六学年 | 新しい学びを獲得しようと、学んだことを結び付けたり、応用したりする | 自分の考えを深め、見通しをもって自ら課題を解決する | 自分と社会とのかかわりを見つめ直し、よりよい生き方や考え方をめざそうとする |

課題解決的な学習の進め方を体験をとおして友だちや教師と共に学び、情報の収集の仕方やまとめ方を身に付け、事象を比較したり、前後関係をつかんだりしながら筋道を立てて自分の考えをもつとともに、活動の中で各教科等での学びを生かす力を育成する

課題解決的な学習の進め方を体験して自ら学び、課題の設定の仕方、情報の収集の仕方やまとめ方を身に付け、事象を比較したり要因を考えたりしながら筋道立てて自分の考えをもつとともに、活動の中で各教科等での学びを生かす力を育成する

自ら課題を設定し、課題解決のために、様々な調査活動を行い、分かったことを自分なりの考えをもつことをとおして、ひと、物、ことと自分とのかかわりを多面的にとらえ、生き方を見つめるとともに、各教科等での学びを意図的に関係付けていく力を育成する

新しい学びを獲得しようと、学んだことを結び付けたり、応用したりしながら、自分の考えを深め、見通しをもって自ら課題を解決することをとおして、自分と社会とのかかわりを見つめ直し、よりよい生き方や考え方を目指そうとする力を育成する

【学年目標の設定の特徴】

必要なものが十分に備わっている内容であり、各学年の連続性が的確に位置付けられています。実際の学習活動（指導）を構想・展開する上で大きな拠り所になります。また、各教科等で習得が期待される資質・能力等を考慮し、各学年の児童に求められる資質・能力の具体的な姿を明らかにしている点は、各学年の目標設定にかかわり重要な要素となります。

この設定の考え方や手順は、中学校においても同じです。次頁以降の身に付けさせたい資質・能力の一覧表及び目標例を作成の参考にしてください。

## 総合的な学習の時間において、小・中・高等学校

| | | 小学校　中学年 | 小学校　高学年 | 中学校　入門期 |
|---|---|---|---|---|
| 問題解決能力 | 課題発見 | ・具体的な事象を比較したり、関係付けたりして課題を見付ける。 | ・具体的な事象を複数の視点や条件から関係付けて課題を見付ける。 | ・具体的な事象を因果関係を分析して、課題を見付ける。 |
| | 学習計画 | ・課題解決のための見通しをもち、簡単な計画を立てる。 | ・課題解決のための見通しや予想をもち、具体的な追究方法を明示した計画を立てる。 | ・仮説を立て、見通しをもって計画表を作成して追究する。 |
| | 課題追究 | ・計画を基にねらいに基づいて情報を収集し、課題の応えを求める。 | ・計画を基に多様な情報を収集し、課題の応えを求める。 | ・計画を基に必要な情報を取捨選択して集め、課題の応えを求める。 |
| | 課題解決 | ・課題に対する応えを明らかにして、学習の成果をまとめる。 | ・課題に対する応えを明らかにして、学習の成果をまとめたり、結論付けたりする。 | ・課題に対する応えを明らかにして、学習の成果をまとめたり、結論付けたりする。 |
| 学び方やものの考え方 | 情報収集 | ・視点を決めて身近な範囲から情報を収集したり、情報収集の手段を広げたりする。 | ・広い範囲から多様な情報を収集したり、情報収集の手段を選択したりする。 | ・広い範囲から必要な情報を取捨選択して収集し、その情報を分類したり、整理したりする。<br>・情報収集の手段の幅を広げたり、選択したりする。 |
| | 表　現 | ・相手や目的に応じて、自分の考えをまとめたり、発表したりする。 | ・目的や意図に応じて、自分の考えをまとめたり、発表したりする。 | ・目的や意図、場面に応じて、自分の考えを的確にまとめたり、分かりやすく発表したりする。 |
| | 交　流 | ・自分と友達の考えを比べながら話し合う。 | ・相手の立場や意図を考えながら話し合う。 | ・相手の立場や意図を考えながら話し合う。 |
| | ふり返り | ・学習の仕方や進め方をふり返る。 | ・学習の仕方や進め方をふり返り、次の学習に生かす。 | ・学習の仕方や進め方を吟味したり、修正したりして次の学習に生かす。 |
| | 思　考 | ・事象と事象を比較したり、関係付けたりする。 | ・事象間の因果関係を分析したり、総合したりする。 | ・事象間の因果関係を統計的、多面的、多角的、科学的、総合的に考察する。 |
| 主体的創造的態度 | 関　心 | ・学習対象に興味や関心をもつ。 | ・学習対象に興味や関心をもつ。 | ・学習対象に興味や関心をもつ。 |
| | 意　欲 | ・積極的に追究活動する。<br>・自分が考えた方法で追究活動する。<br>・めあてをもって追究活動する。 | ・積極的に追究活動する。<br>・自分のアイディアやこだわりをもって追究活動する。<br>・目的意識をもって追究活動する。 | ・積極的に追究活動する。<br>・創意工夫したり、想像力を発揮したりして追究活動する。<br>・目的意識をもって追究活動する。 |
| | 実践的態度 | ・学習の成果を生活の中で効果的に活用する。 | ・学習の成果を生活の中で効果的に活用する。 | ・学習の成果を生活の中で効果的に活用する。 |
| 自己の生き方 | 見方・考え方の高まり | ・課題に対する自分の見方や考え方をもつ。（○○観） | ・課題に対する自分の見方や考え方をもつ。（○○観） | ・課題に対する自分の見方や考え方をもつ。（○○観） |
| | 学習成果への成就観 | ・学習成果から自分の伸びを自覚する。 | ・学習成果から自分の伸びを自覚し、自信をもつ。 | ・学習の成果から達成感を感じ、自己の成長を自覚する。 |
| | 展　望 | ・今の自分の望ましい行為の在り方を明らかにする。 | ・今の自分の望ましい行為の在り方を明らかにする。 | ・今の自分の望ましい行為の在り方を明らかにする。 |

## の児童生徒に身に付けさせたい資質・能力

| 中学校　充実期 | 高等学校　全学年 | | |
|---|---|---|---|
| ・様々な事象の因果関係を分析したり、類推したりして課題を見付ける。 | ・様々な事象からそれらが生起する複数の因果関係を分析したり、類推したりして課題を見付ける。 | **課題発見** | **問題解決能力** |
| ・仮説を立て、追究計画に修正を加えながら追究する。 | ・課題解決のための予見や仮説をもち、具体的な追究方法を明示した計画を立てる。 | **学習計画** | |
| ・計画を基に必要な情報を取捨選択して集め、課題の応えを求める。 | ・計画を基に必要な情報を取捨選択しながら収集し、事象及び事象間に内在する原理原則を明らかにして課題の応えを求める。 | **課題追究** | |
| ・課題に対する応えを明らかにして、学習の成果をまとめたり、結論付けたりする。 | ・課題に対する応えを明らかにして、学習の成果を論理的にまとめたり、結論付けたりする。 | **課題解決** | |
| ・広い範囲から必要な情報を取捨選択して収集し、その情報を分類したり、整理したりする。<br>・情報収集の手段の幅を広げたり、選択したりする。 | ・広い範囲から必要な情報を取捨選択して収集し、その情報を分類したり、整理したりする。<br>・情報収集の手段の幅を広げたり、選択したりする。 | **情報収集** | **学び方やものの考え方** |
| ・目的や意図、場面に応じて、自分の考えを的確にまとめたり、分かりやすく発表したりする。 | ・目的や意図、場面に応じて、自分の考えを論理的にまとめたり、発表したりする。 | **表　現** | |
| ・相手の立場や意図を考え、相手の考えを尊重しながら話し合う。 | ・相手の立場や意図を考え、相手の考えを尊重しながら話し合う。 | **交　流** | |
| ・学習の仕方や進め方を吟味したり、修正したりして次の学習に生かす。 | ・学習の仕方や進め方をふり返り、不十分さや改善点を明らかにして次の学習に生かす。 | **ふり返り** | |
| ・事象の因果関係を統計的、多面的、科学的、総合的に考察する。<br>・事象が生起する現象を推理したり、論理的に考察したりする。 | ・事象及び事象間に生起する現象を推理したり、論理的に考察したりする。<br>・事象が生起する原理原則を帰納的及び演繹的に考察する。 | **思　考** | |
| ・学習対象に興味や関心をもつ。 | ・学習対象に興味や関心をもつ。 | **関　心** | **主体的創造的態度** |
| ・積極的に追究活動する。<br>・創意工夫したり、想像力を発揮したりして追究活動する。<br>・目的意識をもって追究活動する。 | ・向上心をもち、積極的に追究活動する。<br>・自分のアイディアや創意工夫を生かして追究活動する。<br>・目的意識をもって追究活動する。 | **意　欲** | |
| ・学習の成果を生活の中で効果的に活用する　。 | ・学習の成果を生活の中で効果的に活用する。 | **実践的態度** | |
| ・課題に対する自分の見方や考え方をもつ。（○○観） | ・課題に対する自分の見方や考え方をもつ。（○○観）<br>・社会的存在としての自己を認識する。 | **見方･考え方の高まり** | **在り方生き方** |
| ・学習の成果から達成感を感じ、自己の成長を自覚する。 | ・学習の成果から達成感を感じ、自己の成長を自覚する。 | **学習成果への成就観** | |
| ・将来の自分の望ましい行為の在り方を明らかにする。 | ・現在及び将来について自分のあるべき行為や目指すべき姿を明らかにする。 | **展　望** | |

## 総合的な学習の時間において、小・中・高等学校

| | 小学校　中学年 | 小学校　高学年 | 中学校　入門期 |
|---|---|---|---|
| **問題解決能力** | 対象と出会ったときに、いくつかの課題の中から、自分の課題を見付け、身近な情報を集めてまとめ、相手を意識して、簡単な発表という形で発信することができる。 | 日常生活をふり返りながら、自分の課題をもち、解決の見通しを立てて計画的に活動し、その結果を発表や提案という形で発信することができる。 | 日常生活をふり返りながら、自分の課題とその解決のための仮説を設定し、解決の見通しを立てて計画的に追究活動を行い、その結果をプレゼンテーションすることができる。 |
| **学び方・考え方** | 必要な情報を整理するために観察・調査活動をしたり、図書館やコンピュータの活用等をしたりして、分かったことを相手を意識して発信することができる。 | 課題解決のために目的にふさわしい情報を、地図、統計資料、写真、実験データ、コンピュータ等から広く集め、自分の結論を相手に応じて工夫して表現できる。 | 課題解決のために、目的にふさわしい情報を、地図、統計、写真、実験データ、コンピュータ、校外活動等から広く収集し、選択して、自分の納得できる結論を相手に応じて工夫して発表できる。 |
| **主体的創造的態度** | 自分が見付けた課題に関心をもち、自分の結論が出るまで活動を続け、分かったことをまとめ、相手を意識して表現していこうとする態度を身に付けることができる。 | 自分が見付けた課題に関心をもち、その課題に粘り強く取り組み、情報の内容を検討して明らかにした自分の考えを目的に応じて表現していこうとする態度を身に付けることができる。 | 自分の見付けた課題に関心をもち、それに粘り強く取り組み、得られた情報の内容を吟味して、これまでに明らかになってきた自分の考えを目的に応じて表現していこうとする態度を身に付けることができる。 |
| **自己の生き方** | 学習対象に対するかかわり方について自分の考えをもつとともに、その考えを他の人にも分かってもらえたという満足感を味わい、自分のよさに気付くことができる。 | 学習対象に対するよりよいかかわり方について考えるとともに、その考えを他の人にも分かってもらえたという満足感を味わい、自分を伸ばすことができる。 | 学習対象に対するよりよいかかわり方について考えるとともに、自分の考えのよさを他者にわかってもらえたという満足感を味わい、自分と学習対象とのつながりを深めることができる。 |

※総合的な学習の時間において、小・中・高等学校の児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を分析して作成したものです。各学校で学年の目標を設定したり、見直したりするときの参考になると思われます。

## 児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の目標例

| 中学校　充実期 | 高等学校 | 資質・能力一覧表の見方 | |
|---|---|---|---|
| 自分の生活と社会の変化を見つめながら、自分の課題とその解決のための仮説を設定し、解決の見通しを立てて計画的に活動を行い、その結果を発表や提言として、地域等にプレゼンテーションすることができる。 | 様々な事象から複数の因果関係を分析したり、類似したりして課題を設定し、仮説を立て、計画をもとに、様々な情報を選択しながら課題に対する応えを明らかにして、プレゼンテーションとしてまとめ、報告することができる。 | **課題解決の過程を分析して項目を立てている。** | **問題解決能力** |
| 課題解決のための情報を、校外活動等から広く収集し、吟味・選択し、事象の因果関係を説明するために、自分の納得できる結論を、相手に応じて工夫して発表できる。 | 情報を選択して収集でき、吟味して活用しながら、事象の因果関係を分析したり、総合したりし、原理原則を帰納的及び演繹的に考察することができる。 | **学び方は四つの項目から分類整理している。考え方は、児童生徒の発達段階に応じた思考の類型や質的な高まりを表している。** | **学び方・考え方** |
| 自分の見付けた課題に関心をもち、それに粘り強く取り組み、得られた情報の内容を吟味して、これまでに明らかになってきた自分の考えを目的に応じて具体的に表現していこうとする態度を身に付けることができる。 | 自分の見付けた課題に関心をもち、それに粘り強く取り組み、情報の内容を吟味して、現在の自分の置かれている状況を踏まえた自分の考えを明確にし、社会を意識して表現していこうとする態度を身に付けることができる。 | **関心・意欲・態度に置き換えている。学習段階に応じて、これらの観点の重点の置き方を変えて述べている。** | **主体的創造的態度** |
| 学習対象に対するよりよいかかわり方について考えるとともに、自分の考えのよさを他者にも分かってもらえたという満足感を味わい、将来の自分の望ましい行為の在り方を深めることができる。 | 学習対象に対するかかわり方について客観的な視点から考え、その考えを他者に伝える喜びを味わい、現在及び将来について自分のあるべき行為や目指すべき姿に向かって、自分を伸ばすことができる。 | **課題解決の結果における対象への見方・考え方の高まりや成就感、さらにこれからの展望の項目から整理している。** | **在り方・生き方** |

※児童生徒の発達段階に応じて一つの枠組みとして、校種間や学年間に区切りを入れています。しかし、これはあくまでも目安であり、各学校の児童生徒の実態に応じて弾力的にとらえ、各学校独自の活用を図ることが望まれます。

# ４　指導・支援の具体的な方策

**指導方法や指導体制を特設して位置付け、自校の総合的な学習の時間に対するとらえや取組の姿勢が、特色として表れるようにします。**
**「課題意識」「課題設定」「計画作成」「学習形態」「調査活動」**
**「学習意欲」「学習状況」「発表や討論」「発表方法」「プレゼンテーション」**

指導方法や指導体制を特設して位置付けるまでもなく、全体計画作成そのものが学校の指導方針確立の集大成であり、具体であると考えることができます。しかし、総合的な学習の時間は、児童生徒「自ら」の学習活動をどのように「演出（指導）」していくか、という指導の方法や体制の在り方で、各学校の創意工夫が発揮できる裁量の幅は、教科と比較しても決して小さくありません。そこに、指導方法及び指導体制を特設して位置付ける意義を見出すことができ、その学校の総合的な学習の時間に対するとらえや取り組みの姿勢が、特色として浮き彫りにされることになります。

**＜学習過程＞**
**疑問や興味・関心をもつ**
⇩
**問題をつかみ、テーマを設定する**
⇩
**予想や見通しをもつ**
⇩
**既習の知識や概念を整理する**
⇩
**解決のための資料を収集する**
⇩
**資料の調査・体験・見学・分析をする**
⇩
**結論をもち発表する**
⇩
**新たな疑問や課題を発見する**

学習過程において必要とされる指導・支援や配慮事項等のポイントは以下に示す10の項目です。

## ポイント１　課題意識を高める二つの方策

児童生徒の課題把握は、生活空間の広がりと密接に関連しています。課題となる事象と児童生徒との距離の近さ（心理的近さ、物理的近さ）に起因していると考えられます。児童生徒に課題を把握させるためには、この距離を近くしてあげることが大切になります。

**【方策１】　学習者が学習対象に近づく－五感を生かした体験をさせる－**

単元の学習テーマは、児童生徒自らの体験をとおして設定していきます。感動や驚きのある場（場所、対象、ひと・もの・こと）に、じっくりと五感を働きかける活動をさせ、思いや願いを生み出していきます。この思いや願いの実現にかかわって、一人一人の児童生徒が自分の思いや願いと現実とのギャップを見出し､自らの課題として学習テーマを把握していくことになります。

**【方策２】　学習対象を学習者に近づける－仲介する人・もの・ことを活用する－**

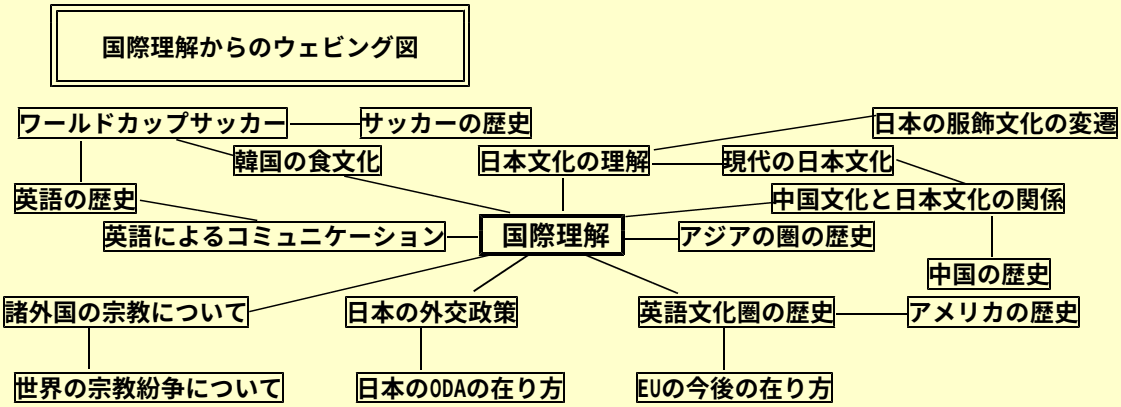
児童生徒の生活空間にない課題を取り上げる場合、【方策１】で用いた「体験」を設定することは現実として困難な場合が多くあります。このような場合、インターネットや電話などの手段を介して生活空間の中に学習対象を引き寄せることで、課題となる事象と児童生徒との距離を近づけることができます。他にも VTR や図書、教科等の学習内容によって、自分たちの生活空間へ引き寄せることが可能です。この場合、課題となる事象と児童生徒の間に「人・もの・こと」を介入させることで、心理的な近さが増していき、課題を強く意識できます。

## ポイント２　課題設定の手法

総合的な学習の時間では課題設定が一番の課題ともいえます。ここでは児童生徒に課題を設定させる場合によく使われる手法をいくつか紹介します。

**【ウェビング法】**

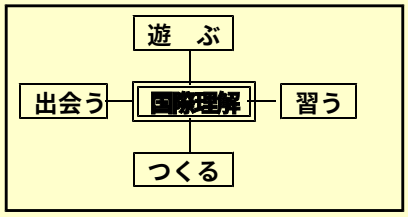
一つのキーワードを核（コア）として、その言葉から関連的に出される課題を周囲に配置し、その課題の関連図を作成します。




児童生徒がウェビングを行う前に、教師自身が素材を基に児童生徒の活動や認識の広がりを想定しておく必要があります。そのときの手順と留意点は次の三つです。

**①選定した素材を紙面の中央に書く**

・中心素材を決めたら、どんな活動ができるかを考えます。
　（活動体験を重視した単元構成）
・活動は、四つを一つの目安として考えます。




**②四つの活動から、新たな活動や対象、広がりをつないでいきます。**

**［活動からつなぐ視点］**

・児童が興味・関心をもち、くり返し対象にかかわることができる。
・児童にとって情報収集がしやすい。
・人との出会いがある
・個に応じた課題の困難性があり、発展性がある。

**③活動内容の範囲を決める。**

・教育的価値から
・児童生徒の興味・関心から

**【KJ法】**

東京工業大学名誉教授　川喜多次郎氏によって考案された有名な発想法です。
K・J は氏名の頭文字をとっています。
名刺大の紙片、カード（紙片・ラベル等）を使用し、情報の管理や、整理などを行います。

**[方法]**

**用意するもの：付箋（多めに）、鉛筆、サインペン、赤、青などの色鉛筆**

**①あるテーマに関して、思いつく情報をできるだけ多く出し、付箋に記入していきます。**
**②机上でカードを関連する（類似する）と思われるもの同士をグループ化し分けていきます。**
**③できたグループにタイトルを記入します。**
**④配置を整え、グループ間の共通点などを考え、図解化します。**
**⑤それらの関連（図解化）の配置の意味をよく考え、文章化、また、それらをじっと眺めているうちに新しいアイディアを出します。**

## 【BS（ブレーンストーミング）法】

BS 法とは、頭脳の嵐（Brain-Storming)という意味で、集団で連想の働きを活用して、テーマについて多数のアイディアを出す技法です。

**BS法の原則**

①批判厳禁－出された意見に対して良い悪いの批判をしない。

②自由奔走－冗談交じりや思いつきなど、自由かつ奔走な発言を大歓迎する。

③量を求む－量的拡大が質的向上に結び付くので、一発必中など考えずに、アイディアを数多く出す。

④結合改善－他人の発言（アイディア）に触発され、便乗し、さらに発展させてアイディアを出す。

**BS法の進め方**

①テーマを具体的に設定する。

②様々な角度から思いをめぐらす。

③思い浮かんだこと（アイディア）を書く。

④アイディアを実現可能性や効果等の面から評価する。

**特徴**

①あらゆる問題解決のアイディアを得るのに、とても有効な方法である。

②出されたアイディアに対して良い悪いの批判をしない。冗談交じりや思いつきなど、自由かつ奔放な発送や発言ができる。

③他人の発言（アイディア）に触発され、便乗し、さらに発展させてアイディアが数多く出せる

## 【BW（ブレーンライティング）法】

BW 法とは、ブレーンストーミング（BS）の一種で、紙に書いて行うという点から「沈黙の BS」と呼ばれている。ドイツ人向けのBSとして開発された6･3･5法を、さらに改良したものです。

**6･3･5法**

①６人のスタッフが円卓を囲む。

②３つのアイディアを出す。

③５分間のうちに考える。

**BW法**

6･3･5法に異なる人の異なる視点でアイディアを育てるという特徴を付加させたものがBW法である。

①テーマは自由だが具体的なものでBSと同じ

②リーダーとメンバー
- メンバーは６人が原則
- 大勢の場合、６人ずつに分け、各グループに６分ずつ実施という方法もある。
- 各グループの発表を刺激として、再度実施

③５分で３アイディアを繰り返す。
- 各メンバーの手元に図のようなフォームを配布
- ABC欄にアイディアを記入
- 記入後、左側の人に渡す。
- 受け取ったシートの内容をさらに発展させるか、新たなアイディアを記入
- ５分たったら隣の人へ

④机は円卓か正方形

⑤時間は30分で１ラウンド
- ５分間ずつのセッションを６回
- 30分で１ラウンドが原則
- テーマによっては数ラウンド続ける。

⑥評価とまとめ
- 最終的に自分の手元にあるシートの中から一番よいと思うアイディアに「○」印をつける。「○」のついた６つの中から、さらにグループで１つに絞る。絞ったアイディアを次の企画として発展させる。

BWワークシート

| | A | B | C |
|---|---|---|---|
| Ⅰ | | | |
| Ⅱ | | | |
| Ⅲ | | | |
| Ⅳ | | | |
| Ⅴ | | | |
| Ⅵ | | | |

BW法では、シートにアイディアをそれぞれ書き込む方法をとるため、アイディアへの批判はおきにくい。BSにおいては声高な者がその場の主導権を握ることがある。このような場合、参加していながらも他人まかせになる者が一方では出てしまうことも避けにくい。しかしBW法においては、参加者全員が平等に発想の機会が与えられ、他人のアイディアを自分の発想のヒントとすることができると同時に、自分のアイディアは他人を刺激することにもつながる。

## ポイント３　計画作成の支援

児童生徒がもっとも興味や関心をもっている事柄について、話し合いをとおしていくつかの視点から検討し、学習企画を立案する必要があります。ここでは、計画作成の支援の一つとして行われる学習企画書について紹介します。

**【プロジェクト学習企画書】**

指導者は、質問と必要に応じたアドバイスを重ねながら、学習者が特に「価値」「ゴール」「プロセス」の３点についてより豊かで具体的にイメージできるように働きかけます。

**プロジェクト学習企画書　Ver.3**

| 名前 | 日付　開始日　　月　　日　完成日　　月　　日 |
|---|---|
| グループで行いたい場合の人数、あるいは名前 | |
| **１．プロジェクト名**<br>学習課題を基にやってみたいことなら何でもよい。指導者から見て学習テーマとして不相応だと思われる内容でもひとまず可とする。ただし、以下の２・３・４に記入するに際して困難があるようであれば、自覚的にプロジェクト名を変更するように促す。 | |
| **２．このプロジェクトを10時間進めて、どういう状態になれば完成といえますか。<ゴールのイメージ>**<br>ここでは、10時間（授業時間以外にも追究が行われるとして２ヶ月半）を想定し、10時間前後にどのような状態になればプロジェクトが完成といえるかを考えさせる。10時間の範囲内で到底実現が無理だと思われるような状態になればプロジェクト名を変更(ex:海外留学プロジェクト→海外留学準備プロジェクト)するように促す。 | |
| **３．このプロジェクトは、あなたの生活や人生にどのように役立つと思いますか。<プロジェクトの価値>**<br>プロジェクトの価値を自らの生活の生き方、社会への貢献の両面から考えさせる。初期的段階では、貢献度の大小はあまり問題にせず、何らかの形で周囲の人々に好影響を与えるといったレベルで可とする。むろん、経験を積んだ段階では特に重視したい事項である。 | |
| **４．このプロジェクトは、あなたの周りの人や社会にとってどのように役立ちますか。**<br>※３と同様 | |
| **５．このプロジェクトを完成させるために、あなたがやらなければならないことを、順序をよく考えて順番に５つ以上書いてください。（裏面を使ってウェビングすると参考になります）<追究のプロセス>**<br>プロジェクトを完成させるために、具体的に何をすればよいかを考え記入させる。その際、裏面を使ってウェビングを行いその結果を参考にする。 | |
| **６．このプロジェクトを進めるに当たって、「実在の人」と「パソコン」を情報源としなくてはなりません。上記の５つのどこで、どのように活用しますか。<情報源>**<br>プロジェクトをより豊かなものにするために、情報源としてここでは「実在の人物」と「パソコン」を指定してある。特に「実在の人物」を入れたのは、単なる調べ学習に終始させないためである。この条件は、むろんねらいによって変更可能である。 | |
| **７．このプロジェクトを進めるために、他の教科の内容で参考になることがありますか。教科名で答えてください。<補強学習>**<br>プロジェクト学習の推進に必要な学習という動機付けによって、児童生徒は他の教科についても自発的に学ぶ。ここではどのような学習が自分のプロジェクトに必要かをイメージさせる程度にとどめる。 | |
| **担当の先生からのアドバイス** | |

このような企画書づくりをとおして、課題や活動の価値に気付き、追究活動の見通しをもち、各教科等との関連の意識が図られます。この企画書を基に、課題解決の具体的な方法や手順、時間配分などを具体化し、見通しをもたせるための「学習計画カード」等の活用が考えられます。

## ポイント４　効果的なグループ学習・個別学習を行う方策＜学習形態の工夫＞

総合的な学習の時間では、児童生徒の主体的な問題解決が図られなければなりません。したがって、児童生徒は課題に対して常に自分の考えをもち解決に向かうことが要求されます。しかし、自分だけの考えでは、不安で自信がもてない子もいます。この不安や自信のなさの多くは、隣の子とのちょっとした話し合いで解消されることも多くあります。ただ、この段階での話し合いは、新たな課題の発見につながることを期待するものではありません。新たな課題の発見のためには、少人数での見方・考え方についての意見の交換が必要になってきます。そして、たくさんの意見が出れば、今度はさらに多くの人数で合意形成のための話し合いが必要になってきます。

このように、児童生徒が各自の課題を個別的に追究している場合でも、学習時間のどこかで他の児童生徒と協力して考える場を作り、課題追究の意欲化を図っていくことが大切です。

**【グループ学習を効果的に行う方策】**

グループ学習は効果的ですが、場合によっては一部の児童生徒しか動かないことがあります。グループ学習をさせる場合は、次のような点に留意することが必要です。

**＜グループ編成上の留意点＞**

①事前の説明を十分に行い、興味・関心の似通った児童生徒をグループに分ける。

②グループの目標（テーマ）を明確にする。

③活動上の役割分担を明確にする。（個人として何をするべきかの意識付け）

**＜グループ討議の留意点＞**

①討議の目的を明確にする。

②時間を制限する。

③問題点の焦点を明確にする。

④役割分担をする。（リーダー<進行>　記録　発表）

⑤グループ員の各自の能力を発揮させる。

⑥情報を与える。

リーダーの仕事を体験させることは効果的です。

**【個別学習を効果的に行う方策】**

総合的な学習の時間を効果的に行うには、個人で調べたり、まとめたりする時間設定が必要です。その際、次のような点に配慮します。

①テーマに沿った学習になっているか。
（独りよがりの学習になっていないか）

②目標をもって学習しているか。

③情報を活用する力を備えているか。

個人学習・研究を行う場合、特に教師による適切なアドバイスや評価が必要になります。

## ポイント５　調査活動の方法と支援

調査活動の方法は、フィールドワークによる観察、調査から図書館、博物館、資料館等やコンピュータ、情報通信ネット等の活用まで多様であり、児童生徒の実態に応じて支援する必要があります。

ここでは、図書館とコンピュータの活用について取り上げます。

**【図書館の活用】**

総合的な学習の時間では、調査・研究を始め問題解決的な学習を重視しているので、学校図書館は、学習活動を行う有効な場所の一つです。

**＜テーマからキーワードへ＞**

何を調べるか、何を明らかにしたいか目的を明確にさせます。その際、司書教諭や学校図書館事務職員等の協力を得ます。コンピュータの検索ができない場合には、図書カードの分類にしたがって探します。このテーマについてはどの分類の本を調べたらいいか。こんなことを調べるにはどの本を調べたらいいかを　明らかにします。

調べたいテーマに関する本がない場合には、インターネットで公立図書館の蔵書検索で探すことができます。

**学校図書館の機能**

①資料センター（教育課程の展開を支える）
②学習・情報センター（児童生徒自ら学ぶ）
③読書センター（豊かな感性や情操を育む）

**校内の学習環境の整備**

①学校図書館にとって必要な資料の整備
②コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークの整備
③多様な学習活動を展開できるスペースの整備

**学校図書館の在り方**

児童生徒の生活空間に身近で魅力的な場所であることが重要である。

**学校図書館の位置付け**

学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

**司書教諭**　平成15年４月１日より、12学級以上の学校に配置

**<役割>**

**○校内研修の運営援助**
**○各教師への情報提供**
**○児童生徒の主体的な学習を支援**
**○ティーム・ティーチング**
**○教育用ソフトウェア・指導事例に関する情報の収集**

－児童生徒の主体的、自立的な学習や読書活動の推進－
児童生徒の望ましい読書週間の形成を図るため、指導方法の多様化等の工夫をすることが大切である。

**コンピュータで図書の検索ができる**

できる

できない

学校図書館

取り出す

取り出す

**【コンピュータの活用】**

コンピュータ等の教材・教具を活用する各教科等の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするための学習活動の充実に努めるとともに、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ることが大切です。

その際、情報手段をより広い観点からとらえ、インターネットなどの新しいメディアと、新聞、テレビ、ビデオ等の既存のメディアの特徴について理解を深めたり、それから流れる情報が人や社会に与える影響について追究したりして、情報に対する的確な判断力を育成する学習活動を行うことも考えられます。

指導者は、教育用ソフトウェアやその他の視聴覚教材、教育機器及びそれらを活用した指導法について絶えず研究していくことが必要です。

**＜テーマからキーワードへ＞**

何を調べるか、何を明らかにしたいか目的を明確にさせます。ただ検索エンジンにむやみにキーワードを入力しても求める情報が得られません。

**検索エンジン**

検索エンジンは大きく分けると、ディレクトリ型（カテゴリごとに登録、例：Yahoo）とロボット型（キーワードをもとに自動的に登録、例：Google, goo)に分類されます。

・Yahooはカテゴリーに登録してあるので、世界の国等名前が分かっているところを探すのには便利です。

・Googleはアクセス数の多い順にソートされて表示されるのでヒット（目指す情報が得られる）する確立が高くなります。

・gooは本文中にキーワードが多く含まれている順にソートされて表示されます。

**キーワード間スペースを入れて絞り込み検索**

**例えば、環境問題として、盛岡市のごみの分別収集を選んだ場合、検索エンジンの一つのGoogleでただ「盛岡市」と入力すると1,830,000件検索にかかります。よって、この情報を絞り込むことが必要になります。盛岡市の後にスペースを入れ「ごみ」と続けて入力すると24,000件検索にかかります。さらに絞り込み検索でスペースを入れ、「分別収集」と入力すると396件になります。さらにスペースを入れ「ISO」と入力すると119件に絞り込まれます。**

**情報の確かめ**

**検索で得られたページの情報が正しいかどうかを確かめます。（他のページの記述と一致するか）**

**Webページの背景を調べます。（団体名等）**

***＜参考までに…＞*** **コンピュータ活用の支援**

指導者が、コンピュータ活用について研究する場合、次のような項目を目安に取り組むことも有効です。

| **レベル１　子どもの意欲を引き出す** | **レベル２　子どもがコンピュータの利点を知る** | **レベル３　目的に応じた活用ができる** |
|---|---|---|
| **○授業のなかで、教師が使ってみせる**<br>□コンピュータに取り込んだデジタルカメラの映像を見せる<br>□ web やデジタルコンテンツ等を提示する<br>□プレゼンテーションツールを使って、授業のねらい等を提示する<br>□… | **○授業のなかで、子どもが使う**<br>□動画クリップを使って情報を収集する<br>□グループネットワークを使って意見交換をする<br>□ホームページを作る<br>□画像の修正・加工を行う<br>□ソフトを使って文章、絵および図を作成する<br>□プレゼンテーションツールを使ってプレゼンテーションする<br>□… | **○コンピュータを道具の一つとして、様々な場面で子どもが主体的に使う**<br>□収集した情報の確かめとして使う<br>□他校との情報交換の手段として使う<br>□… |

## ポイント６　学習意欲の維持

**【課題設定の過程で】　「児童生徒が自ら課題を設定できるように」**

**①　自分で課題を見出す自由度を増やす工夫や環境を設定**

**②　生活のなかから、身近な課題を見出せるような場面設定**

・児童生徒にとって意義のある課題とする

・社会にとって意義ある課題へと共鳴できるようにする

・意外な事実やおもしろい事象の提示

児童生徒が課題を設定するときの支援方法を効果的に利用して、生徒自身が、自分の身近な所から問題を見出すことができる環境を整えることが大切です。はじめは、課題の設定にかなり時間がかかってしまうのが普通ですが、教師は聞き役・聞き出し役となり、「自ら課題を見つける能力をはぐくむ」という視点で、児童生徒がもつ興味・関心を結び付け、学習課題として組織するようにしていきます。

**【課題解決の過程で】　「課題は児童生徒が解決するために」**

**①　相談会や面談会を設定し、探究の進み具合を確認**

**②　課題の解決の糸口は見通していても安易に解答は示さないこと**

児童生徒が探究の過程で試行錯誤するのは貴重な学習の機会であり、しばらく静観することが大切です。次に、現在の状況をよく聞き、迷い込んだ道から抜け出る方向や手段を示します。ナビゲーターとして、探究のいくつかの方向性を示し、選ばせるようにするのも支援の一つです。

**【学習展開の過程で】　「児童生徒が主体的に学習するために」**

**①　児童生徒自身の「意味付け」の評価と適切なアドバイスで、学習意欲・態度を高めること**

**②　問題の発展や展開を重視し、組織的な知へと広げるようにすること**

意欲や態度は、主に学習内容に関する納得や感動など、学習者自身による「意味付け」が要因となって現れます。教師は、意外な事実やおもしろい事象を示すなどして、「意味付け」をより広い、より確かなものにするよう支援することが重要です。「意味付け」としては、問題に関する新たな発見や驚き、調べたことの重要度などが対象となります。

また、学習が計画どおりいかない場合、問題解決型の学習像にこだわるのではなく、問題の発展や展開を重視し、計画の手直しなどの形成的評価を促すことが重要です。むしろそうした時にこそ、問題の新たな発見や解決の糸口が見つかることが多いということも心得ておきたいものです。

**【教師はナビゲーター】**

**①　追究の方向性が誤っていないかをアドバイス**

**②　追究の進度・方法・考え方の妥当性をアドバイス**

指導者は、テーマに対するある程度の見通しをもつことが大切です。児童生徒たちと一緒にテーマに取り組むなかで、生徒たちの探究がより深まっているかを適切に見極め、ナビゲーター役を果たしたいものです。そのために必要な場合には、学び方を教え、方法論的な思考力を鍛えるアドバイスも大切になります。

**＜参考までに…＞**　**単元の基本的指導過程の工夫**　**盛岡市立杜陵小学校の例**

この指導過程は、一つ一つの段階に意味をもたせ、その中に身に付けさせたい力（学び方、自分の考えをもつ、学びを生かす）を分散させ、単元及び、単位時間レベルで繰り返すことでその育成を図っています。なお、「学びを生かす」つまり、教科との関連については48頁の**項目６**で示しています。

| | 指導過程 | 主な学習活動（○）と教科との関連の例（◇） |
|---|---|---|
| 1 | テーマをもつ | ○身近な事象とのふれ合いをとおして、疑問をもつこと<br>○疑問を、価値ある課題に高めること<br>**◇導入において、各教科の既習内容や、総合の前学年や前単元における学習を想起する。**<br>**◇測定や分布地図作り、データの数的処理等、主に社会、算数、理科における学習を生かす。** |
| 2 | 調べる | ○課題解決に向けての見通しをもつこと<br>○いろいろな方法を使って情報を集め課題を追究すること<br>○人とのかかわりを大切にすること<br>**◇実験や観察、測定や分布地図作り等、理科における学習を生かす。**<br>**◇見学や絵地図作り等、社会における学習を生かす。**<br>**◇事象を数理的に把握する等、算数における学習を生かす。**<br>**◇目的に応じてインタビューしたり、アンケートを採ったりして必要な事柄を集める等、国語における学習を生かす。** |
| 3 | テーマをまとめる | ○集めた情報を整理すること<br>○筋道立てて考え、課題を解決すること<br>**◇分類整理して考えたり、関係付けて考えたりする等の数理的処理をして算数における学習を生かす。**<br>**◇自分の考えを明確に表現するため文章全体の組み立てを考えたり、目的に応じて大切な事柄を整理し、効果的に語句を使用して書く等、国語における学習を生かす。** |
| 4 | 発信する | ○各教科等の学びを生かして資料を作成したり、練習したりすること<br>○学びの成果を発信する<br>**◇年表や絵地図など視覚的な資料を作成する等、社会における学習を生かす。**<br>**◇必要なデータを目的に応じた表やグラフに効果的に表す。**<br>**◇発表することの主題や要旨をはっきりさせることや、自分の考えを明確に表現するための組み立てをする等、国語における学習を生かす。**<br>**◇目的に応じて、順序を整え、例をあげながら話したり、聞いた事柄について自分の意見や感想をもったりする等、国語における学習を生かす。** |
| 5 | 自分を見つめる | ○自分自身の成長を見つめ自信をもつこと。<br>○人、もの、ことから学んだことを自分の生活にかかわらせ、生かしていくこと。<br>**◇自分の成長や努力したこと等について、例をあげながら記述するなど国語での学習を生かす。** |

○「テーマをもつ」「調べる」「テーマをまとめる」段階

身近な事象とふれあう中から明確な課題を見出し、多様な方法で課題を追究し、集めた情報を整理しながら課題を解決する活動が中心であり、これらの活動は、自分からわき上がった疑問や課題を大切にし、分からないことを分かるまで追い求めることを楽しむ段階である。

○「発信する」段階

「自分が学んで得た喜びを伝えたい」という児童の願いをかなえる場である。また、相手意識をもち、発表資料を相手が納得するように再構築する活動は、自分がこれまで理解していたことを分かり直す活動であり、分かったという実感を深めていく場でもある。さらに、発信し合う中での学びは、それぞれが学んで得た成果や学び方、学びの姿を共有化する場としても貴重である。

○「自分を見つめる」段階

自分はここまで学ぶことができたという時間をもつ場としている。これまでの自分と、今の自分との変化に気付き、これからのよりよい自分づくりへと向かう場でもある。

## ポイント７　学習状況を把握するためのポートフォリオ

児童生徒の学習状況や成果を把握し指導のための評価を行うことが重要です。総合的な学習の時間において、指導にも活用できる種々の評価方法がありますが、ここでは、ポートフォリオ評価を取り上げます。

**【入れもの】**（Portfolio とは「紙ばさみ」「書類入れ」のことです）

**① ファイル**

**② CD-ROM(デジタル・ポートフォリオ)**

ファイルは、高価である必要はなく、順番に綴られ（入れられ）、中身が見やすいこと、すぐに取り出せるものがよい。

デジタル・ポートフォリオの場合は、コンピュータ上で、学びの「軌跡」や「足跡」をデータベース化し、いつでも保存、取り出しができるようにCD-ROM等に保存します。

**【保存する内容（入れる中身）】**

**① テーマ、コンセプト、発見やつかんだこと（レポート）、情報メモ、写真（体験したこと、作品）、作文、スケッチ、インタビュー、取材メモ、ホームページのアドレス、考察、自己評価や相互評価の記録、活動の記録、教師からのアドバイスなど**

**② 学習過程における、学習の行きづまり、深まったこと、疑問に思ったこと、考えや思いの道筋**

**【ポートフォリオの活用場面】**

**① 児童生徒にとってのポートフォリオ**

・一人一人のふり返り（自己評価）
・児童生徒の相互評価に活用
・自分の学習をふり返り、再構成（選択・編集）に活用

**② 教師にとってのポートフォリオ**

・生徒の学習状況の把握と指導・援助に活用
・授業評価のために活用
・カリキュラム改善（カリキュラム評価）に活用

**A４判**
**クリアファイル**

各教科との関連を図り、丁寧に書く、図表を用いる、まとめて書く

自分の学びに使いやすいように意識して学習シートに記入したり、資料を集めたりする

日付とタイトルを記入

時系列

### ポートフォリオの活用例

**ポートフォリオに入れるもの**

学習の履歴のために
・毎時間の学習活動、自己評価活動がわかるような教師の用意したプリント　等

評価情報として活用するために
・中間発表会の感想やアドバイスメモ
・教師が用意したふり返りシート
・自己評価に対しての友だちの評価
・家の人などからの感想　等

豊かな学びのために
・見学パンフレット　・スケッチ
・インターネット資料　・本のコピー
・思いつきメモ　・写真　・図や表
・発表資料の下書き　・発表資料
・作文や感想文　・発表原稿　等

**学習活動における活用場面**

**学習の流れの確かめでの活用**
**学習のまとめでの活用**
**発表資料作成での活用**
**発表時の活用**

**自己評価活動での活用**
・学習の全体を見通して課題の解決と照らし合わせる。
・学習の過程や理解の度合いの変化を確かめる。
・自分の学習の成果を確かめる。
・自分の生活に生かしたり、継続して学習したりすることを確かめる。
・自分の努力や伸びた力、ついた力を確かめる。　等

読み返す（随時）

付箋を貼るマーキング（必要に応じ）

**【ポートフォリオ評価を適切に行うための留意点】**

**① 評価する規準をもっておくこと**

教師は、児童生徒の発達段階や実態に即して、ポートフォリオのレベルを把握できる評価の力量を付けることが必要です。児童生徒が自己評価や相互評価を適切に行うようになるためには、確かな評価の目をもった教師の適切な助言が欠かせません。

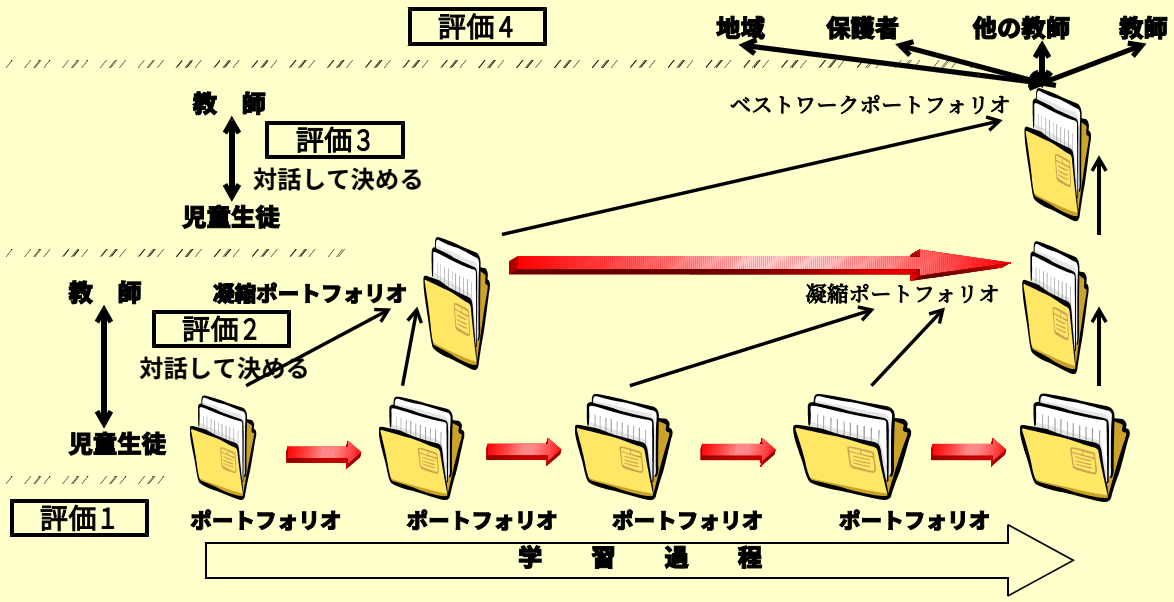
**② 生徒の能力を伸ばす観点からの助言が大切**

児童生徒たちに評価情報をフィードバックする際には、「よさ」のみを強調するのではなく、「困難」や「苦手なところ」を曖昧にせず、現状を正確に伝え、克服するための作用として働く助言が大切です。

**【ポートフォリオを自己評価力の育成に生かす】**

**① 単元の計画段階で、「評価も学習である」という認識に立って、ポートフォリオを用いた自己評価活動や相互評価活動を前もって位置付けておく。**

**② 評価やふり返りのための指標や目安（規準）作りを行う。**




**【評価１】日常生活における評価（自己評価、相互評価、教師による評価、保護者、地域による評価）**

**【評価２】凝縮ポートフォリオに集約するために何を入れるか児童生徒と教師との対話により決定する。ここでは、学習進捗状況について話し合い学習計画の修正や今後の計画について支援する。**

**【評価３】凝縮ポートフォリオから、優れた者を児童生徒と教師との対話により決定するとともに、これまでの学習の過程をふり返る。**

**【評価４】他の教師や保護者、地域の方々にも見てもらい、これまでの学習の総括をする。**

**① 凝縮ポートフォリオとは**

ポートフォリオを評価に生かすために、活動の節目節目で教師との対話の時間を設定します。対話が１対１であったり、グループであったりもしますが、生徒のポートフォリオを目の前に広げながら話をし、学習のねらいに照らし合わせ、重要度や関連性のより高いものへと集約しポートフォリオを凝縮します。

**② ベストワークポートフォリオとは**

次のステップでの取り組みの内容や理由などを、対話活動の教師の問いかけで、児童生徒は具体化し、より明確にしていきます。そこで、目的意識と自信をもって次へと取り組むことができます。次の段階で、さらに、凝縮ポートフォリオを集積していきます。そして、それが学習全体のまとめとなり保護者や地域、教師や他の児童生徒に見てもらうことで「学び」を総括的にふり返る評価資料となります。

**＜参考までに…＞**　**自己評価活動について**　**盛岡市立杜陵小学校の例**

自己評価活動では、適切な場面、観点、方法…教師の評価によって、児童生徒ができるだけ客観的かつ肯定的に自己評価することで、その後の学習活動を意欲をもって見直すことができます。

**自己評価活動のための教師の支援・留意点**

| 形成的評価 | 総括的評価 |
|---|---|
| **自己評価活動を行う場面を設定する（評価計画を立て、学習活動状況に応じて柔軟に行う）** | |
| ・単位時間の終わりに　（単位時間の途中も含む）<br>・学習過程のひとまとまりの学習活動の途中の時間に<br>・学習過程のひとまとまりの学習活動の終わりに | ・単元の最終段階に |
| **自己評価の観点を示す** | |
| ・「課題について分かったこと、できたこと」のように、本時の中心となる学習活動をプラス面からふり返られるようなもの<br>・「もっとがんばりたいこと、次はがんばれそうなこと」のように知的内容がふり返られ、次の学習活動への意欲がもてるようなもの | ・「伸びたこと、できるようになったこと、変わったこと」のように単元全体をふり返って、学ぶ力や心の成長を確かめられるようなもの |
| **自己評価の仕方を教える** | |
| ・自己評価の観点に沿って、文章記述を中心として行うようにする | ・ポートフォリオから努力や成長が見えるところを示すなど、見方を教える |
| **自己評価の活用の仕方を考える場面を設定する（自己評価活動と同時であることが多い）** | |
| ・自己評価したことを、次時にどのように生かすのか具体的に考えさせる | ・自己評価したことを、今後の生活にどのように生かしていきたいのか、具体的に考えさせる |
| **児童生徒の自己評価を教師が評価する** | |
| ・「先生もそう思うよ」など、自己評価を認める<br>・「先生は、ここもがんばったと思うよ」など、自己評価に新しいプラス面を与える<br>・「先生は、次はここまでできると思うよ」など、高い学習目標を示す | |

児童生徒が自己評価活動を行う際、いくつかの評価情報をポートフォリオに入れておいて組合せることによって、効果的な自己評価活動ができます。

**評　価　情　報**

| 一緒に活動した友だちによる相互評価 |
|---|
| ・自己評価活動のよさを味わい、次もその点をがんばろうというような気持ちをもてる<br>・友だちのよさを認めることで、友だちの姿を目指そうとする目標がもてる<br>・自分を認めてくれる友だちからのアドバイスを素直に取り入れられる |
| **外部評価(保護者、他学年・学級の児童生徒、ゲストティーチャー、地域の方々、発表会にいらした人　等)** |
| ・第三者からの感想や意見を理解することによって、学習活動を客観的にとらえられる<br>・自分の学習活動を様々な点から見直し、学習のねらいは達成されたのかを自己評価できる<br>・特に親からの肯定的な感想や意見は、素直に喜びとして受け止められる<br>・大人からの意見や感想は、自分の学習内容や努力が社会的に認められたと受け止められる<br>・大人からのアドバイスは、高い目標を示すことになる |
| **教師評価** |
| ・学習活動や努力、成果を認めてもらい、よりよい方向を示されたと受け止められる |

## 自己評価活動と教師の支援例

第４学年　単元名「ふしぎなタンポポのひみつをさぐれ」のテーマをまとめる段階

| | |
|---|---|
| ◇本時の課題 | 調査したことから、個人か題をかい決しよう。 |
| ◇視　点 | ・３種のタンポポをくらべながらまとめる。<br>・か題に結びつくようにまとめる。 |
| ◇授業のねらい | 調査から不思議なタンポポが少ないわけを考える。（自分の考えをもつ力を身に付ける。） |
| ◇授業の流れ | 前時までに様々な方法で調べた「不思議なタンポポが少ないわけ」について、本時は、個人で学習シートに調査の過程・結果・分かったこと・考えたこと等をまとめていった。<br>次にソノシートを基に友だちに更に詳しく自分のまとめを伝えることで、課題解決が深まるようにした。 |
| ◇教師が示した自己評価の観点 | ・三つのタンポポを比べながら解決しましたか。<br>・「だから～」という解決ができましたか。（調査したことを基にして解決したか。） |

※Ａ児の活動と自己評価、及び教師の支援

| | |
|---|---|
| ◇Ａ児の学習活動 | ○　Ａ児は、自分でまとめる時に、調査したことを基に「図鑑で調べたこと」として、図鑑にあった、タンポポの育つ土質についての項を丸写しし、自分の課題の答えの裏付けとして使った。<br>グループ交流をした際、Ｂ児から、図鑑で調べた「アルカリ性、酸性」の意味を尋ねられたが、Ａ児は答えられなかった。Ｂ児は、「～ということなんじゃないですか。」とＡ児に代わって推測して話した。 |
| ◇Ａ児の自己評価（学習シートから） | ○　**「三つのタンポポを比べるのはできました。か題にむすぶのもできました(2)。でも、ぼくはＢくんにしつもんをしてもらって(1)、Ｂくんが分からなかったことをおしえて(2)くれた(1)ので、そのことを、ちゃんと調べてみたいと思います(2)。Ｂくんにたすけてもらえたのでとてもうれしかったです。」(3)** |
| ◇Ａ児の自己評価の読み取り | (1)　「してもらって」「くれた」の表現から交流をとおして自分のまとめを深めようとしたことが分かる。<br>(2)　課題に結び付けた、と言い切れるには、何が不足しているのかが分かり、Ｂ児のように答えられるように自分でも調べて説明しようとしていること、つまり、学習活動の充実を目指していることが分かる。<br>(3)　Ｂ児のよさを認めているので、Ａ児が自分もそうしていきたいと感じたことが期待できる。 |
| ◇授業終了後の教師の支援とＡ児の学習活動 | **T1　「次までに調べておきます。」と答えたものはどうすることにしたの？調べ方、分かる？**<br>**A児　国語辞典**<br>**T2　それでは、みんなが分かるように説明できないと思うよ。理科の先生に聞く方法もあるし、他の「土グループ」に聞いてみるのもいいんじゃない？上手に説明できていた人がいたみたいだよ。**<br>**A児　（アドバイスに従って他のグループにいって教わり、納得した様子）**<br>**T3　アルカリ性というのはね…（簡単に補足説明した）** |
| ◇次時の学習活動 | ○　予定では、学級全体で課題解決を図る場面であったが、グループ交流の時間をとってＡ児のような児童にチャンスを与えた。Ａ児は、グループの児童が納得するように土質について上手に説明することができた。教師にも「よく言えたね。それなら、みんな分かるよ。課題についてちゃんとまとめられたね。」とほめられ、さらに喜んでいた。Ａ児を含め、グループの児童は、図鑑の活用の仕方について学んだ様子であった。 |

## 総括的自己評価活動例

第４学年　単元名「世界の国にこんにちは」　　自分を見つめる段階

| | |
|---|---|
| ◇本時の課題 | 自分についた力、のびた力を確かめよう。　　※自己評価の観点を示す |
| ◇視　点 | ・努力したところ<br>・苦労したところ |

※総括的自己評価活動の例

| | |
|---|---|
| ◇自己評価の方法を教える<br>◇手順を教える | **T1**　努力した時、苦労した時に皆さんの力はのびたり、新しくついたりしています。ファイルを読み返して、努力したところ、苦労したところに付箋を貼りましょう。<br>**T2**　その時、どんな力が伸びたり、付いたりしましたか。付いたと思われる順に３つを学習シートに書きましょう。なぜ、そのようにがんばることができたのかも書きましょう。<br>**C児　（学習シートに書いたものを発表する）私は、相手が分かるように考えて発表資料を作る力がつきました。アメリカの家庭の食事は、言葉だけでは分からないから、分かってもらおうとがんばって模型を作ったので、この力がつきました。** |
| ◇教師評価 | **T3**　先生も、Cさんの模型で、材料とか量まで、なるほどなあって、よく分かりました。とても細かくできてたから、がんばったなって思いました。 |
| ◇相互評価の指示 | **T4**　学習シートを友だちと読み合って、「確かにそうだね。」「こんなことも力が付いたよ。」ということを付箋に書いてプレゼントしましょう。<br>**D児　（付箋に書いたものを発表する）Ｃさんは、自分でも書いていたけど分かりやすい発表資料を作ったね。ほかに説明もよく分かるように話してくれたので、その力も付いたと思うよ。わたしも、次はＣさんみたいに相手を考えて資料を作るようにしたいです。** |
| ◇自己評価の指示 | **T5**　Ｃさん、プレゼントの付箋を読んでどう思いましたか。<br>**C児　（伸びた力が）自分では自信がなかったんだけど、認めてもらって嬉しいし、ほかにもできるようになったことをいってもらって嬉しいです。これからも相手のことを考えていきたいです。** |
| ◇教師評価 | **T6**　認めてもらってよかったね。相手のことを考える力はいろいろなところで使えるから、次の学習でも使って、もっと高めていくといいですね。ＤさんもＣさんのいいところを見付けられたのがよかったよ。 |

自己評価項目と観点（高学年の例）　　※「　」は具体例

| | 学び方 | 自分の考えをもつ力 | 学びを生かす力 | 関心・意欲・態度 |
|---|---|---|---|---|
| もつ | ○課題の設定の仕方を身に付けたか。<br>**「自分で課題を決められましたか。」** | ○自分で調べられる課題を設定したか。<br>**「一人で課題解決できそうな課題を決められましたか」** | ○今までの学びを生かして課題をつくれたか。<br>**「もっと詳しく調べたいというところからテーマや課題を作りましたか」** | ○これからの学習に関心をもっているか。<br>**「これからの学習が楽しみですか」** |
| 調べる | ○調べ方や情報収集の仕方が分かったか。<br>**「いろいろな資料からA、Bについて調べられましたか」** | ○見通しをもって学習計画を設定したか。<br>**「どのように学習を進めていけばゴールまで行くか考えて計画を立てましたか」** | ○教科の学びを生かして調べたか。<br>**「敬語を適切に使ってインタビューできましたか」** | ○課題解決までねばり強く活動しようとしたか。<br>**「聞き返すなどして本当にほしい答えをもらえましたか」** |
| まとめる | ○まとめ方が分かったか。<br>**「結論、理由の順で課題の答えをまとめられましたか」** | ○理由や根拠を明らかにして客観的にまとめられたか。<br>**「みんなが納得するような理由を入れてまとめられましたか」** | ○教科の学びを生かしてまとめたか。<br>**「接続語や文末、段落構成に気を付けてまとめられましたか」** | ○自ら課題の解決を図ろうとしているか。<br>**「自力で理由をあげて答えをまとめましたか」** |
| 発信する | ○発信の仕方が分かったか<br>**「相手と交流しながら発信できましたか」** | ○目的に応じた効果的な方法を用いて発信の準備ができたか。<br>**「自分の伝えたいことを納得してもらえるように準備できましたか」** | ○教科の学びを生かして発信資料を作成したか。<br>**「グラフや図を使って分かりやすく資料を作りましたか」** | ○自分なりの考えをもって、発表を聞き、感想等を伝えようとしたか。<br>**「相手の言いたいことについて感想をもちましたか」** |
| 見つめる | ○自己評価ができたか。<br>**「自分についた力を見付けられましたか」** | ○自己の成長を見付けられたか。<br>**「学習前と今とで考えが深まったことを見付けられましたか」** | ○自分に生かせる学びを見付けられたか。<br>**「次の学習や自分の生き方に生かせることを見付けられましたか」** | ○自他の成長を確かめ合い、認め合おうとしたか。<br>**「友だちの成長したところを見付けられましたか」** |

## ポイント８　発表や討論を効果的に行う方策

総合的な学習の時間においては、多様な活動に取り組んだことを自分なりにまとめたり、それを発表したり、討論したりすることがきわめて重要になります。つまり、発表や討論が重要な学びの方法となります。また発表や討論の仕方などは、総合的な学習の時間において身に付けさせるというよりも、各教科等の学習において学んだことをこの時間に生かすという配慮が必要です。方策としては次の３つが考えられます。

**【方策１】国語科等の学習との関連を図る**

発表・討論に共通していることは、いずれも自分の思いや考えを相手に伝え、理解を得ることを意図して行う表現活動であることです。そのため、国語科等との指導の関連を深め、話す・聞くことの基礎・基本をしっかりと身に付けさせることが重要です。

**【方策２】多様な表現方法を活用する**

発表や討論を活性化させるためには、一つの方法だけに限定させずに多様な方法を活用していくことが大切となります。発表を単に言葉で話すことだけに限定するのではなく、図表やグラフ・写真等で表現する方法や OHP やビデオなどで表現する方法もあることを分からせるようにします。大切なことは、発表するねらいや内容・対象などにより、多様な表現方法のなかから、自分で選択して発表できるようにすることです。

**【方策３】発表や討論のルールを守らせる**

討論を活発に展開するためには、討論の積み重ねが必要です。特に討論は、その活動場面に「聞く・話す、メモする、調べるなど様々な活動を伴うものであり、児童生徒は討論することにより自分の見方やの考え方を修正したり、発展したりできるものです。討論により自分の見方や考える力を高めていくことに意味があります。討論を盛り上げるためには、ねらいに即して発言したり、友達の発言を自分の考えと比べながら聞き取ったりすることが極めて重要です。そのためには、挙手、反対意見、補充・修正など、発言の約束をしっかりと守らせることです。そのことが、児童生徒は自らの思考力を鍛えることになります。

***＜参考までに…＞***　**発言技能の伸ばし方**

個人の発言には、次のような方法が考えられます。

①今までの知識や経験から自分の考えを述べる。

②友だちの発言から自分の考えを述べる。

③資料を提示して自分の考えを述べる。

多くの場合、①の今までの知識や経験から自分の考えを述べることが多く使われるため、教師は意図的に「発言の根拠」について助言していく必要があります。併せて、話型を教えることも大切です。例えば、「はい、…です。」「はい、…です。それは、…だからです。」「○○さんの意見に付け加えます。…」「○○さんの意見に賛成です。理由は、…だからです。」などです。最初はまねをすることから始めて、定着するまで練習を繰り返します。その際も、教師の励ましや称賛が効果的です。

## ポイント９　活用できる発表方法

発表形態には、たくさんの方法が考えられます。「昔からある弁論大会形式」「音声言語を伴わない方法としての壁新聞による発表方法」「最近では生徒自身が編集したビデオ作品」などみられます。ここでは、【ディベート】【パネルディスカッション】【ポスターセッション】を取り上げます。

**【ディベート】**

ディベートは最近では国語の授業をはじめ、様々な場面で使われています。総合的な学習の時間では公開討論会のような形式で発表させることも可能ではないでしょうか。

ディベートにもいくつかの種類がありますが、ここでは学校教育や企業研修でよく行われている、**アカデミック・ディベート**についての定義、スキルを紹介します。

**＜定義＞**

ディベートとは、
ある一つの論題について、
肯定側と否定側に分かれ、
一定のルールにしたがって行われ、
最後に審判によって勝敗が下される。

**＜身に付くスキル＞**

・論理的に物事を考える能力が養われる。
・積極的に傾聴する能力が養われる。
・自分の意見を効果的に人に伝える能力が養われる。
・対立する側に立って、物事を考える習慣がつく。

**【パネルディスカッション】**

パネルディスカッションとは、一つの論題に対して、さまざまな角度から考え方を述べ合う話し合いのことです。

ディベートでは、ある論題に対して、肯定・否定のいずれかの主張しか認めませんが、パネルディスカッションでは、複数の主張を認めます。

パネルディスカッションでは、複数のパネリストが代表として、聴衆の前で話し合いを行います。例えば、論題に対して、四とおりの主張があれば、四人のパネリストが、設定されることになり、それぞれのパネリストが順番に自分の意見を述べていきます。その後、聴衆からの質疑と参加者全員による討論という形で進められていきます。

**【ポスターセッション】**

ポスターセッションは、壁またはホワイトボードなどに、資料を張り出し、聴衆が自分の報告の前に集まるたびに適宜説明を行うという報告形式です。報告者と聞き手の距離が近く、気楽に質問しやすく、少人数で時間の制約があまりないので、論議を発展させやすい特徴があります。

指導する際には、例えば、テレビショッピングなどを一つの例として説明するとわかりやすいのではないでしょうか。また、見本市などもこの部類の一つとして考えられます。

## ポイント10　プレゼンテーションの方法

プレゼンテーション(presentation)という言葉の語源は、present であり相手に贈り物をすることです。

プレゼンテーションを話し手から聞き手へ情報をプレゼントすることであるととらえると、プレゼントのように、相手に合わせた表現、相手の満足を意識した表現をすることにより、聞き手が知りたいことを分かりやすく印象深く効率的に伝えることです。そして、自己満足では意味がなく、相手の心に届き心を動かすことが最終的な目的です。

**【一般的な定義】**

プレゼンテーションは、「限られた時間の中で、情報を正確に伝えることによって相手の理解を深め判断や意思決定をしてもらい、その結果としてこちらの提案を受け入れてもらう積極的なコミュニケーション手段」と一般的に定義されています。

**【児童生徒のプレゼンテーションの場面】**

調べ学習、野外活動調査、課題研究などの発表会などの場面が考えられます。

**プレゼンテーションの流れ**

**発表テーマの設定**
↓
**資料収集**
↓
**情報の取捨選択及び加工**
↓
**シート作成**
↓
**リハーサル**
↓
**修正及び改善**
↓
**発　表**

**＜ポイント＞**

**①　話の決め手は「声」と「間」**

＜話し方の基本＞

・聞き取れる　・早口ならず　・メリハリを付ける

・「分かりやすさ」を心がける　・正しい姿勢

**②　「メディア」を効果的に利用**

＜メディア教材制作の基本＞

・聞き手にとって効果がある

・ねらいに基づいた表現

・ビジュアル表現や音の工夫

・提出情報を最小限に

・強調・識別化の工夫

**③　話にふさわしいジェスチャー**

＜ジェスチャーの３要素＞

・強調動作

・視覚化動作

・ポイント動作

**④　無視できないアイコンタクト**

＜アイコンタクトの目的＞

・聞き手のシグナルをモニター

・親近感、一体感を築く

・注意、注目させる

・自信、熱意を伝える

**＜シート作成のポイント＞**

- **情報をプレゼンテーション**
- **資料として加工する**
- **読ませる資料ではなく、見せる資料にする**
- **大事な点をクローズアップする**
- **伝達効率を大切にする**

**＜具体的には＞**

- **数表化、グラフ化**　・**単純化**
- **単語、キーワード**　・**構造化**　・**文字の大きさは（20pt以上）**　・**行数は７行以内**

# 5　学習内容とその系統化

**学校全体の目標や育てたい資質や能力及び態度を具体的な形に表すことが大切になります。**

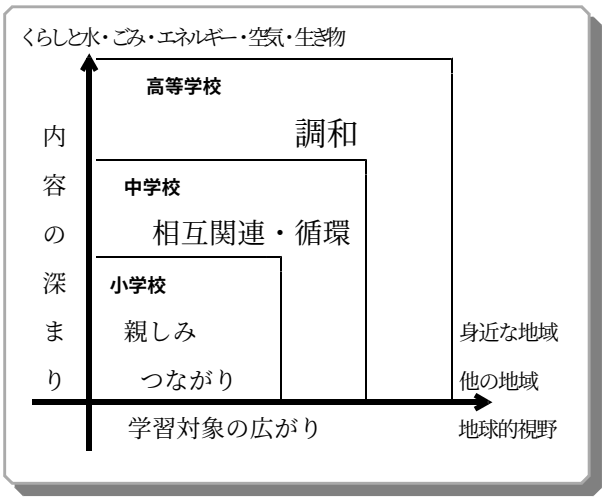
**「環境を課題とした学習内容」　「福祉を課題とした学習内容」**
**「国際理解を課題とした学習内容」「進路を課題とした学習内容」**

## 環境を課題とした学習内容

**【小学校】**　身近な自然とのふれ合いをとおして、自然に対して親しみをもったり、身近な環境と自分の生活とのつながりをとらえたりする内容等を設定します。

**【中学校】**　循環という視点も視野に入れ、自然界と人間の生活との相互作用にかかわる内容等を設定します。

**【高等学校】**　生活環境から地球環境へ視野を広げ、人間生活環境とのかかわりを調和といった視点からの内容等を設定します。




### ポイント１　環境の内容を設定するうえでの留意点

環境を課題とした学習の目標は、環境問題に対する認識と環境保全にあります。人間が環境と調和を保ち、望ましい関係を築くことは、今日的な課題である環境問題を解決するうえで大切です。そこで、環境を課題とする学習内容を設定するうえで、次の３点に留意する必要があります。

**(1)　環境を見る視点を身近な環境から地球的な規模へと広げる。**

身近な環境を中心に据えることは、小学校段階だけでなく、中学校、高等学校の生徒にとっても重要です。それは、人間の生活が環境と深くかかわっていることを意識した上で、地球規模の環境問題も自分とのかかわりでとらえさせたいからです。そこで、児童生徒の発達特性を考慮して、小学校段階では、児童の生活空間の範囲にある事象を中心に扱います。中学校や高等学校の段階では、身近な環境を課題としながらも他の地域と関連させたり、地球的な規模へと発展させたりします。

**(2)　環境への親しみから、自然界の原理原則へ内容を広げる。**

同じ地域の環境を学習対象とする場合でも、小学校と中・高等学校では取扱い方が異なります。小学校の段階では、環境に親しみがもてるよう五感を働かせて環境とかかわる内容、生活経験や教科等の学習の成果を生かして課題解決が図られる内容が考えられます。一方、中・高等学校の段階では、生徒がもつ学習課題に対しては、自然界の原理原則や環境にかかわる専門的な知識を

駆使しながら、課題の解決を図る内容が考えられます。そのため、取り上げる学習内容も児童生徒の発達段階に応じて専門性が高くなります。

**(3)　自然体験や観察、調査、実験等の具体的な活動や体験を位置付ける。**

環境を課題とした学習を進めていく上で、児童生徒に環境に対する豊かな感受性を育てることは大切です。そのために、五感を駆使して、自然と直接かかわる活動や体験を学習過程に位置付けることは、児童生徒の環境に対する見方や考え方を高めるうえで効果的です。具体的には、観察や調査、見学、実験等の活動や、環境問題に携わる関係機関への取材等が考えられます。

## ポイント２　環境の学習内容と児童生徒の発達特性

環境を課題とする学習内容は、社会科や理科、家庭科等、教科と関係する内容が多くあります。そのため系統化がはっきりした学習内容を設定することができます。ここでは、環境を私たちのくらしとのかかわりの視点から学習内容をとらえています。そこで、内容系統表には、「くらしと水」「くらしとごみ」「くらしとエネルギー」「くらしと空気」「くらしと生き物」の五項目で整理しています。

下の表は、小・中・高等学校の各段階に見られる発達特性と想定される内容を示しています。

児童生徒の発達特性と想定される学習内容

**＜小学校中学年の段階＞**

五感を使って自然と直接にふれ合う活動を好みます。また、空間意識の広がりや教科学習の積み上げから、自分たちの生活が環境とかかわっていることを意識できるようになります。そこで、身近な生活に見られる素材に着目した学習内容が設定できます。例えば、「水のゆくえ」や「ごみのリサイクル」にかかわる内容等が考えられます。

**＜小学校高学年の段階＞**

これまでの生活経験や学習経験等から、自分の生活と環境とのかかわりについて分析的な思考ができるようになり、それに伴い行動力も高まります。そこで、身近な河川の水質調査や地域の廃棄物を調査する内容、森林のはたらきと人間の活動にかかわる内容等、人と環境とのつながりの視点がとらえられる内容が考えられます。

**＜中学校の段階＞**

社会的な事物や事象に対して因果関係や相互関係を把握して認識でき、環境問題についても科学的な見方や考え方ができるようになります。そこで、人間生活と自然との共生、生物科における食物連鎖、日常生活での商品の循環等、人間と環境との相互関連や自然界の循環という視点から内容を考えることができます。

**＜高等学校の段階＞**

自然や社会の事物や事象を多面的・総合的にとらえるとともに、事実を実証的に考えることができ、より次元の高い追究が可能になります。そこで、生態系と環境との関係、経済システムと環境問題、エネルギーと環境問題等、環境保全に向けて自然科学や社会科学的な視野から人間の活動と環境との調和を考えた内容が想定できます。

# 環境を課題とした発達段階に応じた内容系統例

## 環境を課題とした学習の目標

環境や環境問題について関心と理解を深め、人間の活動と環境とのかかわりを総合的にとらえるとともに、環境保全に対する見方や考え方を身に付け、よりよい環境をつくるための主体的態度を育てる。

## 小・中・高等学校における目標

| 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|---|---|---|
| 生活を取り巻く環境に関心をもち、身の回りの自然環境と人々の生活とのつながりや生物と環境とのつながりについての見方や考え方を培うとともに、環境を大切にする態度を育てる。 | 環境や環境問題に関心をもち、人間の活動と自然界とが相互に関連したり、循環していることについて総合的な見方や考え方を養い、環境保全に向けた主体的で責任のある態度を育成する。 | 環境や環境問題に関心をもち、人間の活動と地球環境とのかかわりについて多面的・総合的な見方や考え方を養い、環境と調和を図りながら環境の改善や保全に努める態度を養う。 |

## 小・中・高等学校における学習内容

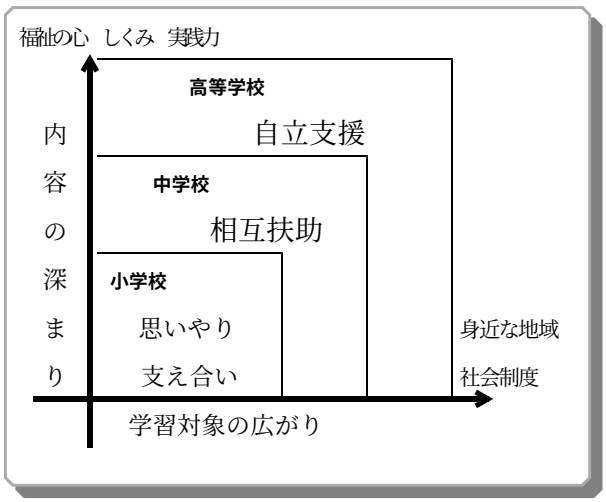
| 内容の項目 | 小・中学年 | 小・高学年 | 中学校 | 高等学校 | 内容の項目 |
|---|---|---|---|---|---|
| くらしと水 | 身近な地域の河川の水を調べたり、家庭や学校で使う水のゆくえを調べたりして、生活に必要な水のはたらきや水資源の利用の仕方を考える。 | 身近な河川の状況と水質、生活排水と水質の関係、水資源と森林との関係等を調べ、環境と日常生活とつながりが分かる。 | 河川等の調査結果と生活の中で出る排水の因果関係を調べ、水の循環が及ぼす日常生活への環境を理解することを考える。 | 水と人間のかかわりについて科学的に考察し、生命を育む水を保全するという見地から、河川浄化等、よりよい環境の創造について考える。 | くらしと水 |
| くらしとごみ | 空き缶や瓶、ペットボトル等くらしに使う物の生産・消費・廃棄及び再利用の仕組みに気付く。 | ゴミの種類や量、廃棄物の処理や利用の仕方について調べ、大量消費の生活を見直すとともに、ゴミの減量や資源の再利用について考える。 | ごみとそれを再利用する仕組みとの関係、社会における資源循環のシステムや省エネルギーの関係を理解し、ごみや資源の再利用について考える。 | 廃棄物の処理に関する社会的システムや処理の困難さ、必要性と人間ライフスタイルや資源循環型の社会について考える。 | くらしとごみ |
| くらしとエネルギー | 太陽光等のエネルギー資源の有効な利用や、節電、資源の節約について考える。 | 消費生活という視点から、地球に優しい生活の在り方について考え、日常生活の中で、省資源、省エネルギー、節電等について考える。 | 身近なエネルギーや資源の活用との関連を調べ、循環する資源や消費される熱エネルギー等を理解し、日常生活における省エネルギーについて考える。 | 環境に付加を与えないクリーンエネルギー、リサイクルできる資源の特性を調べ、科学技術の果たす役割を考察し、省エネルギー化等、環境との調和について考える。 | くらしとエネルギー |
| くらしと空気 | | ものを燃やすことによって二酸化炭素等が空気中にはき出され、大気汚染の原因となっていることをとおして、日常生活と環境とのつながりが分かる。 | 大気が地球上の生物に及ぼす影響を理解し、日常の生活とのかかわりから大気汚染防止について考える。 | 大気汚染に関する調査、大気と人間のかかわりについて科学的に考察し、生物を守る大気の浄化のため、緑化運動等の環境との調和や改善について考える。 | くらしと空気 |
| くらしと生き物 | 動物の活動や植物の生長が周りの環境と深くかかわっていることを考える。 | 動物や植物の生活や生育状況を観察し、そこに住む動植物とのつながりが分かる。 | 身近な生物の働きと自然破壊の現状の関連から、地球の環境に与える多様な生物の役割を理解し、自然との共生について考える。 | 生態系における物質の循環を理解し、人間と自然の調和を図ることの重要性を認識し、環境保全や環境の改善について考える。 | くらしと生き物 |

## 福祉を課題とした学習内容

**【小学校】**　お年寄りをはじめ様々な人とふれ合うことをとおして、助け合うことの大切さや福祉施設のもつ働きにかかわる内容等を設定します。

**【中学校】**　社会生活を営むうえで、相互扶助の精神の大切さや福祉の向上に取り組む関係機関のはたらきにかかわる内容等を設定します。

**【高等学校】**　社会生活を営む上での相互扶助の精神や自立支援の大切さ、社会制度面から福祉の実現への状況や課題にかかわる内容等を設定します。




### ポイント１　福祉の内容を設定する上での留意点

福祉を課題とした学習の目標は、人間尊重の精神に立って、互いに認め合い支え合う福祉社会の一員としての態度を育てることです。高齢化が急速に進展し、高齢社会を迎えています。よりよい福祉社会の実現に向けて、一人一人の人間としての尊厳を高め、豊かな人間性を育んでいくことは大切なことです。そこで、福祉を課題とする学習内容を設定する上で、次の３点に留意する必要があります。

**(1)　思いやりや・助け合いから相互扶助、自立支援へ福祉の理念を深める。**

福祉のねらいは、一人一人の幸せの実現です。そのためには、全ての人が、互いに助け合い、支え合うことが大切です。そこで、小学校の段階では、福祉の基本である誰に対しても思いやりをもって助け合うことができる心情や態度を育てることが中心になります。中・高等学校の段階では、空間的視野の広がりから、社会生活における相互扶助の考え方、さらに個人の幸せは、個人の自立によってもたらされるといった自立支援の考え方へと発展させていきます。

**(2)　身近な人たちとのふれ合いから、社会福祉にかかわる様々な人や制度へ広げる。**

福祉の学習では、人とのかかわりが大切です。そのために、身近な人々とのふれ合いは欠かせません。そこで、身近な人々とのふれ合いを中心にしながらも児童生徒の発達段階に応じて、社会生活や社会制度といった視点を広げることが大切です。また、ふれ合う人もお年寄りや障害のある人だけに限られるものでもありません。高校生であれば、様々な視点から社会福祉の課題を考えることができます。

**(3)　身近な人たちとのふれ合い、福祉施設への訪問や交流、仕事体験等を位置付ける。**

福祉は心の問題です。心に響く学習をするためには、福祉にかかわる様々な人とふれ合う体験を取り入れた学習を位置付けることが大切です。福祉の体験には、ふれ合い活動、施設訪問、介助体験等の活動が考えられます。ここで留意することは、福祉体験の意義とねらいを明確にしておくことです。特に、福祉施設を訪問する場合、無責任な態度は許されません。福祉施設とのきめ細やかな打合せが必要です。

## ポイント２　福祉の学習内容と児童生徒の発達特性

福祉を課題とする学習内容は、福祉の心を育てることや福祉社会の在り方を考える内容であることから、道徳や社会科、公民科、新設教科「福祉」と深くかかわっています。これらの道徳や教科等の内容や福祉教育の趣旨を踏まえ、内容系統表には、「福祉の心」「福祉のしくみ」「福祉の実践力」の三項目で整理しています。

下の表は、小・中・高等学校の各段階に見られる発達特性と想定される内容を示しています。

児童生徒の発達特性と想定される学習内容

**＜小学校中学年の段階＞**

五感を使い、体験的に学ぶことを好みます。また、自己中心的な傾向から相手の気持ちを理解できるようになる時期でもあります。そこで、身近な人々とのふれ合う活動、福祉施設の訪問でも繰り返しかかわる活動等をとおして相手を理解したり、思いやりの心を育てたりする内容等が考えられます。

**＜小学校高学年の段階＞**

社会性の発達にともなって道徳的な判断力の高まりが見られ、相手の考えや気持ちを共感的に受け入れることができるようになります。そこで、お年寄りや障害がある人とのふれ合いや福祉施設との交流を通して、誰でも自分の幸せを求めていることやそれを実現するためには、助け合うことの大切さをとらえられるような内容等が考えられます。

**＜中学校の段階＞**

自我が芽生え、相手との連帯感を深めたり、自己の生き方についての関心を高めたりすることができるようになります。また、空間的視野も広がり、福祉を個人だけの問題ではなく、社会の問題としてとらえることができるようになります。そこで、福祉の理念である相互扶助の視点や福祉社会の実現のための地域福祉の在り方を考える内容等が考えられます。

**＜高等学校の段階＞**

人間としての在り方生き方を探究し、生きる主体としての自己を形成する時期にあたり、責任ある社会の一員としての自覚も芽生えてきます。そこで、「生」というものの考え方や他者と共に生きる自己の生き方、現在の福祉の現状や課題を見つめる中で福祉社会のあるべき姿について多面的な視点からとらえられる内容等が考えられます。

# 福祉を課題とした発達段階に応じた内容系統例

## 福祉を課題とした学習の目標

人間尊重の精神を基盤として、福祉の意義や理念に対する関心や理解を深め、互いが認め合い、支え合う中でともに生きていこうとする社会的な連帯感を育むとともに、一人一人が自立し主体的によりよい生き方を実現する福祉社会の形成者としての資質・能力を育成する。

## 小・中・高等学校における目標

| 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|---|---|---|
| 人間尊重の精神に立ち、人は相互に尊重し合い、支え合う福祉の心を育むとともに、よりよい生き方を実現するための福祉社会の形成者としての自覚と実践力を育てる。 | 福祉社会に対する関心と理解を深め、社会生活を営む上で、人権尊重を基盤に相互に支え合う相互扶助の精神を育むとともに、よりよい生き方を実現するための福祉社会の形成者としての実践力を育てる。 | 福祉社会の意義や理念に対する関心と理解を深め、社会生活を営む上で人間尊重を基盤に自立支援を目指した相互扶助の精神を育むとともに、よりよい生き方を実現するための福祉社会の形成者としての実践力を育てる。 |

## 小・中・高等学校における学習内容

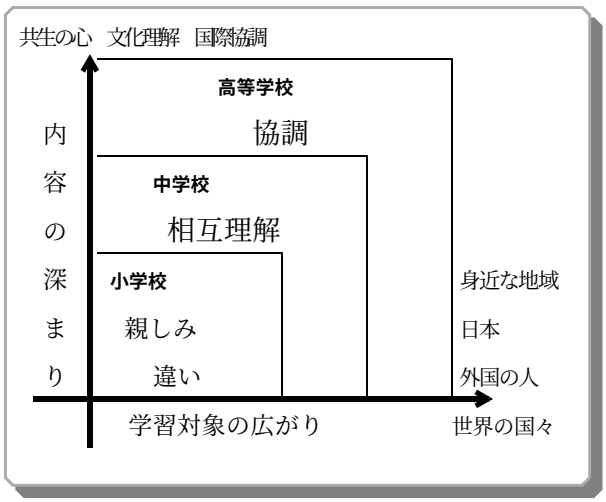
| 内容の項目 | 小・中学年 | 小・高学年 | 中学校 | 高等学校 | 内容の項目 |
|---|---|---|---|---|---|
| 福祉の心 | 自分の身の回りには、様々な人がいて、みんなそれぞれに幸せに生活することを願っていることに気付く。<br>みんなが幸せに生活するためには、互いに理解し合ったり、支え合ったりすることの大切さに気付く。 | 自分たちの周りには、様々な人がいて、誰でも自分の幸せを求めて生きていることが分かる。<br>自分たちの日常の生活は、多くの人々の支え合いによって成り立っていることに気付き、その大切さが分かる。 | 人は誰でもかけがえのない存在であり、それぞれに自分の幸せの実現を目指して生きていることを理解する。<br>社会生活を営む上で、互いの立場や心情を思いやり、支え合う等、相互扶助の精神が大切であることが分かる。 | 人間尊重の精神に立ち、人は誰しも個人として尊重され、自己の幸福の実現を追求して生きていることを理解する。<br>社会生活を営む上で、相互扶助の精神の大切さやそれぞれの個人が自立を図るための支援の重要性を理解する。 | 福祉の心 |
| 福祉のしくみ | 身近な地域には、福祉のための様々な施設があり、利用する人やそこで仕事をする人の願いが分かるとともに、それらの施設のもつ役割に気付く。 | 地域にある福祉施設では、利用する人の立場やニーズに応えるために、様々な努力や工夫をしていることが分かる。<br>地域の人々の幸せなくらしを実現するために、会市（町村）を中心に社会福祉にかかわる機関が連携して様々な取組をしていることが分かる。 | 地方公共団体をはじめ多くの機関の施設では、バリアフリーの視点など福祉にかかわるいろいろな施策に取り組んでいることや、地域福祉の向上のために様々な人の努力があることを理解する。<br>基本人権を守るための法律や介護保険制度をはじめ社会福祉制度等国民の福祉の向上を図るための国の役割やはたらきを理解する。 | 国や地方公共団体における社会福祉の充実や整備の施策及びその現状とそれらにかかわる様々な課題について理解する。<br>基本的人権の尊重、ノーマライゼーション等、福祉の理念に基づき、法律や社会福祉制度の整備等、国民の福祉の向上を図るための国の役割やはたらきを理解する。 | 福祉のしくみ |
| 福祉の実践力 | お年寄りや障害のある人、幼児等とふれ合う機会をとおして、それらのの人々に思いやりの心をもって接しようとする。 | お年寄りや障害のある人、幼児等とふれ合う機会をとおして、それらの人々の立場を考えたり、共感したりして、思いやりの心をもって接しようとする。 | 地域の福祉施設や社会施設等を訪問し、お年寄りや障害のある人、幼児等とのふれ合いをとおして、それらの人々の立場を理解したり、共感したりして、思いやりの心をもって接するとともに、公共の福祉のために尽くそうとする。 | 福祉施設や社会施設等、福祉にかかわる施設を訪問し、ボランティア活動や職場体験等の機会をとおして、相手の立場を尊重し、思いやりの心をもって接するとともに、公共の福祉や社会貢献のために尽くそうとする。 | 福祉の実践力 |

## 国際理解を課題とした学習内容

**【小学校】**　自国（地域）の文化のよさや異文化に親しみ、自国との違いに着目する内容、日本と世界が深いつながりにあることをとらえる内容等を設定します。

**【中学校】**　自国（地域）文化や異文化を相互に理解し合う内容、日本と世界との相互関係、国際社会における日本の役割にかかわる内容等を設定します。

**【高等学校】**　人権尊重の立場から自国文化や異文化を尊重し合う内容、日本と世界との相互関係、国際協調の視点をふまえ国際社会の諸課題にかかわる内容等を設定します。




### ポイント１　国際理解の内容を設定するうえでの留意点

国際理解を課題とした学習の目標は、異文化理解と国際協調にあります。21世紀の社会はますます国際化が進展し、世界の人々が互いに理解し合い、協力し合うことが大切です。まさに地球市民としての資質が求められています。そのために総合的な学習の時間で国際理解を学習テーマに掲げることは教育的な価値があります。そこで、国際理解を課題とする学習内容を設定するうえで、つぎの３点に留意する必要があります。

**(1)　人権尊重、文化理解を基盤に国際協調へと視点を広げる。**

国際理解を課題とした学習を進める上で、児童生徒の人権意識、地理的意識、歴史的意識にかかわる発達特性をふまえておくことが大切です。小学校ではこれらの意識の基礎段階、中・高等学校では発達段階と位置付けます。特に、歴史的意識は中・高等学校が中心となります。そこで、取り上げる学習内容も異文化に親しんだり、文化の違いを認めることからはじめ、相互理解、国際協調へと内容に広がりや深まりをもたせます。また、学習対象も地理的意識の拡大から異文化をもつ個人から世界の国々や人々へとひろがりをもたせます。

**(2)　学習対象を外国の異なる文化だけでなく、地域や日本の文化にも目を向ける。**

国際理解といえば、すぐに外国の文化理解に目が奪われがちです。しかし、自分たちが住んでいる地域や日本の文化を理解し誇りをもつことで、外国の文化に対する理解やその国の人の誇りについてより共感的にとらえることができます。国際理解教育で自己の確立が重要視されているのもこの点にあります。

**(3)　異文化理解や国際協調の必要性を実感する活動を位置付ける。**

文化の違いを実感するには、異なる文化をもつ人との直接のふれ合いが効果的です。しかし、イベント的な交流会では、その場限りで終わる場合があり、異なる文化をもつ人との交流を課題解決のプロセスのどこで、どのように位置付けるかが大切です。

また、国際交流センターや JICA、国際ボランティア団体の NGO 等国際関係の仕事に携わっている期間への取材も、多くの有用な情報を得ることができます。

## ポイント２　国際理解の学習内容と児童生徒の発達特性

国際理解を課題とする学習の考え方は、日本ユネスコ国内委員会の手引きやこれまでの中央教育審議会答申にも示されています。また、教科学習では社会科、高等学校の地理歴史科、公民科の内容、さらに道徳の内容と深くかかわっています。これらの趣旨や内容を踏まえ、内容系統表には「共生の心」「文化理解」「国際協調」の三項目で整理しています。

下のは、小・中・高等学校の各段階に見られる発達特性と想定される内容を示しています。

児童生徒の発達特性と想定される学習内容

**＜小学校中学年の段階＞**

好奇心が旺盛で未知なるものにも固定観念をもたずに心を開いてかかわることができます。そこで、異なる文化をもつ人にふれたり、日本と異なる文化に接して、それらに親しみをもたせるような学習内容が考えられます。また、既習の学習等から自分の住む地域の文化にも興味や関心をもたせることができ、日本の文化と外国の文化との違いに気付かせる等、異文化理解への素地を培う内容が考えられます。

**＜小学校高学年の段階＞**

社会性の発達にともない、相手の立場を理解できるようになります。また、地理的意識が広がり、国際的な視野からものごとを考えられるようになります。そこで、異なる文化をもつ人や自国と違う文化を理解する内容、自国の固有の文化のよさを自覚できる内容、日本と外国が様々な面でつながり合っていることや国際平和にかかわる内容等が考えられます。

**＜中学校の段階＞**

知的な発達に伴い、地理的意識や歴史的意識も拡大していきます。また、自我の芽生えに伴い、自分の立場から主体的にものごとをとらえられるようになります。そこで、自国の文化の特色をふまえ異なる文化をもつ人や自国と違う文化を多面的に理解する内容、国際的な視野から日本と外国とが相互に依存していることや国際社会の中で日本が担う役割に関する内容等が考えられます。

**＜高等学校の段階＞**

自我が確立するとともに社会的な関心が高まり、自己と自己を取り巻く現実の世界を見据え、その望ましい在り方を追求できるようになります。そこで、国際理解がねらう観点を明確にした内容が考えられます。例えば、人権尊重の立場から文化理解に関する内容、文化のもつ価値の平等性にかかわる内容等です。

# 国際理解を課題とした発達段階に応じた内容系統例

## 国際理解を課題とした学習の目標

広い視野から、自国の文化やそれと異なる文化を相互に尊重し合うことをとおして、異なる文化をもつ人との共生を図るとともに、国際社会における日本の役割を自覚し、人類の福祉と平和の発展に寄与するために世界の人々と協力・協調する。

## 小・中・高等学校における目標

| 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|---|---|---|
| 自国の文化やそれと異なる文化に関心をもち、それらを相互に理解し尊重するとともに、日本と外国の深いつながりや国際平和のための日本の役割を理解することをとおして、国際社会の一員としての自覚を育てる。 | 自国の文化やそれと異なる文化に関心をもち、それらを共生の観点から相互に理解し尊重するとともに、日本と外国の相互依存関係や国際社会の諸課題の解決のための日本の役割を理解することをとおして、国際社会の形成者としての資質を培う。 | 人権尊重の精神に立ち、自国の文化やそれと異なる文化を共生の観点から相互に理解し尊重するとともに、日本と外国の相互依存関係や国際社会の諸課題の解決のため国際協力や協調が大切であることを理解することをとおして、国際社会に生きる主体的な日本人としての資質を培う。 |

## 小・中・高等学校における学習内容

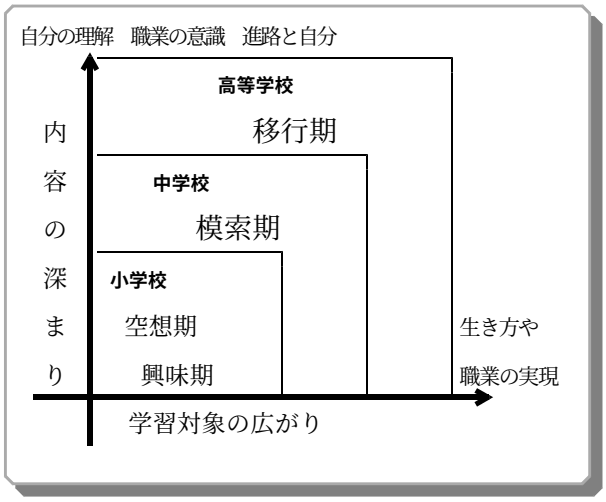
| 内容の項目 | | 小・中学年 | 小・高学年 | 中学校 | 高等学校 | 内容の項目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 共生の心 | | 自分と異なる文化をもつ人がいることに気付き、文化や生活の仕方が違ってもなかよくすることの大切さが分かる。 | 自分と異なる文化をもつ人の立場や考え方を尊重し、互いの違いを認め合い、仲良く助け合うことの大切さが分かる。 | 自分と異なる文化をもつ人の立場や考え方を尊重し、互いに理解し合うことや協力し合い、共に生きていくことの大切さを理解する。 | 人権尊重の精神から、人は文化や価値観等が異なっていても尊重され、相互に理解し合い、共に生きていくことの大切さを理解する。 | 共生の心 | |
| 文化理解 | 自国文化 | 地域に受け継がれてきた伝統や行事、文化のよさやそれを支える人たちの願いに気付く。 | 日本（地域）で受け継がれてきた伝統や文化、習慣及び歴史に見られる固有のよさを理解する。 | 外国との比較や時代的背景をもとに日本（地域）の伝統や文化、習慣及び歴史に見られる特色を多面的に理解する。 | 世界の国々との比較や世界史的な視野から、日本の伝統や文化、習慣及び歴史に見られる特色を総合的に理解する。 | 自国文化 | 文化理解 |
| | 異文化 | 外国の文化や外国の人の生活習慣に接し、日本のとの違いや同じ所に気付き、外国の文化や生活習慣に親しみをもつ。 | 外国には独自の文化や生活習慣があり、その国の人はそれらを誇りにしのて文化を相互に尊重することの大切さが分かる。 | 世界の地域には多様な文化や生活習慣があり、そのに地域の人はそれらを誇りにしていることやそれぞれの文化を相互に尊重することの大切さが分かる。 | 世界の地域には多様な文化や生活習慣があり、そのに地域の人はそれらを誇りにしていることやそれぞれの文化の価値は平等であり、相互に尊重されることの大切さを理解する。 | 異文化 | |
| 国際協調 | | 日本と外国は生活や文化等、様々な面でつながりがあることに気付く。 | 日本と外国は産業や文化等、様々な面で相互に関係していることや国際平和のために世界の人々が協力し合うことの大切さが分かる。 | 日本は世界の国々と政治、産業、文化等の面で相互依存関係にあることや国際社会の諸課題を解決するために世界の人々と協力し合うことの大切さを理解する。 | 日本は世界の国々とあらゆる面で相互依存関係にあることや国際社会の諸課題を解決するために世界の人々と協力・協調することの重要性を認識するとともに、そのための日本の役割を理解する。 | 国際協調 | |

## 進路を課題とした学習内容

**【小学校】**　様々な職業があることや、自分のよさや得意なことから将来の職業に対する夢や希望をふくらませる内容等を設定します。

**【中学校】**　職業のもつ社会的な役割や意義をとらえ、自分の能力や適性から将来の職業の実現のために見通しをもたせる内容等を設定します。

**【高等学校】**　広い視野から職業に対す認識を深め、自分の能力や適性を発揮して自己実現を図るための職業的生活の現実的な見通しをもたせる内容を設定します。




### ポイント１　進路の内容を設定するうえでの留意点

進路を課題とした学習の目標は、将来の職業的生活を通して自己実現を図る態度を育成することです。急激な社会の変化や価値観が多様化する現代において、児童生徒が自立した個人として自らの将来を主体的に切り開くことは大切です。そこで、進路の内容を課題とする学習内容を設定するうえで、つぎの３点に留意する必要があります。

**(1)　将来の職業に対して夢や希望を抱かせ、より現実的な段階へ発展させる。**

一般に職業的な発達特性から、小学校段階では「大きくなったら○○になりたい」といった大きな夢や希望をもちます。特に「空想期」にあたる中学年の頃は、かっこいいものやあこがれの対象に強い関心をもちます。「興味期」といわれる高学年になると、自分の夢や希望は自分の興味や関心の高いものに変わっていきます。

中学校の段階になると、自分の能力や適性から将来の職業を考えるようななります（探索期）。高等学校の段階でも、この傾向は進み、自己実現を図るための職業的生活の現実的な見通しがもてるようになります（移行期）。このような児童生徒の発達特性を考慮して、学習内容を設定します。

**(2)　職業人の職業観に迫る場合、職場体験や取材活動を位置付ける。**

児童生徒が職業観を培うには、職業と児童生徒との心理的距離を近付けることが重要です。その場合、もっとも効果的なのが職場体験です。実際に職業に携わる人の仕事を体験することで、働く人の苦労や喜びを実感をもって学ぶことができます。職場体験ができない場合でも、職場の見学やそこで働く人たちへの取材活動を充実させることは、児童生徒が自らの職業観を高めるうえで有効になります。

**(3)　特別活動の進路指導との違いや関連を明らかにする。**

総合的な学習の時間と特別活動の進路指導との違いは、総合的な学習の時間の学習過程に問題解決のプロセスが位置付いていることです。一方、特別活動の進路指導は「自分の将来の生き方を考えること」がねらいであり、この点では共通しています。そこで、総合的な学習の時間と進路指導の両方のねらいと内容を関連させることで、相互に効果を高めることができます。

## ポイント２　進路の学習内容と児童生徒の発達特性

進路を課題とする学習内容は、特別活動の進路にかかわる学習や道徳と深くかかわっています。これらのねらいや内容を踏まえ、内容系統表には、「自分理解」「職業の意義」「進路と自分」の三項目で整理してます。

そこで、児童生徒のこれまでの学習経験や発達特性を基に、具体的な学習内容を設定します。

総合的な学習の時間と特別活動の比較

| 総合的な学習の時間 | 共通する点 | 特別活動 |
|---|---|---|
| ・問題解決能力を重視<br>・個を中心とした体験学習<br>・認知的領域へのアプローチ<br>など | **体験的活動**<br>**自発的・自主的な活動**<br>**学校の創意工**<br>など | ・集団を中心とした体験学習<br>・実践力がねらい<br>・望ましい集団活動<br>など |

下の表は、小・中・高等学校の各段階に見られる発達特性と想定される内容を示しています。

児童生徒の発達特性と想定される学習内容

**＜小学校中学年の段階＞**

社会にはいろいろな職業があることが分かるとともに、自分も「大きくなったら○○になりたい」というように将来の自分の姿に対する「夢や希望」をふくらませています。そこで、こうした大きな夢を抱かせたり、自分の得意なことを自覚させたりすることで、将来への明るい展望や自分の可能性に対する期待をもたせる内容等が考えられます。このことが、進路学習の第一歩になります。

**＜小学校高学年の段階＞**

職業が社会生活を支える重要な役割を果たしていることが分かるとともに、将来の夢や希望としている職業をより現実味をもって意識できるようになります。そこで、自分の生活と職業との関係を考えさせたり、働くことの意義や目標に向かって努力することの大切さをとらえさせたりして、将来の夢や希望として描く自分のイメージを豊かにする内容等が考えられます。

**＜中学校の段階＞**

職業に関する基礎的な知識をもとに、働くことの意義や役割等の理解を深めながら、自分の能力や適性と将来の生き方や職業との関係を考えるようになります。そこで、働くことの厳しさや喜びを体得しながら職業観や勤労観をとらえさせたり、自分の能力や適性を基に現実的な視点から希望する進路に対する可能性を探索させたりして、将来の職業の実現のための内容等が考えられます。

**＜高等学校の段階＞**

将来の展望を明確にして、職業観や勤労観を確立し、社会人としての自立を目指しています。そこで、多様な生き方や職業の理解のうえに立って、自分の職業観や勤労観を身に付けさせたり、自己の能力や適性等に照らして現実の進路設計や社会的移行の準備をさせたりすることで、自己実現を図るための職業的生活の現実的な見通しをもたせる内容等が考えられます。

# 進路を課題とした発達段階に応じた内容系統例

## 進路を課題とした学習の目標

将来の生き方や職業への関心をもち、職業のもつ意義や社会的な役割を理解することをとおして、望ましい職業観や勤労観を身に付け、自分の生き方や職業に対する展望とその実現のために自分のよさや適性に対する自覚と向上に努め、社会的、職業的な生活をとおして、自己実現を図る態度を育てる。

## 小・中・高等学校における目標

| 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|---|---|---|
| 将来の職業に関心をもち、社会には様々な職業があることや自分の生活それらの職業とのかかわりがあることをとらえ、自分のよさを生かして将来の職業に対する夢や希望を実現させる意欲や態度を育てる。 | 将来の生き方や職業に関心をもち、職業のもつ社会的な意義や役割、それに従事している人々の職業観や勤労観をとらえ、自分の能力や適性を生かして、将来の生き方や職業に対する希望を実現させる意欲や態度を育てる。 | 将来の生き方や職業に関心をもち、職業のもつ社会的な役割や意義、職業人の職業観や勤労観等、広い視野から職業に対する認識を深め、自分の能力や適性を発揮させ、将来の職業的生活をとおして自己実現を図る意欲や態度を育てる。 |

## 小・中・高等学校における学習内容

| 内容の項目 | 小・中学年 | 小・高学年 | 中学校 | 高等学校 | 内容の項目 |
|---|---|---|---|---|---|
| 自分の理解 | 自分のよさや得意なことが分かるとともに、支えられた成長にはそれぞれの人々の気付き、感謝の気持ちをもつ。 | 自分の長所や短所に気付き、自分のよさを発揮するとともに、自分の大切さが分かるとともに、人々のはたらきが成長にはたらきかけていることに気付き、感謝の気持ちをもつ。 | 自分のよさや個性が分かり、自分の能力を発揮することの大切さを理解するとともに、自分の成長には他者とのかかわりが重要であることに気付き、他者への尊敬の気持ちをもつ。 | 自分の能力や適性が分かり、自分の能力を積極的に発揮させることを理解するとともに、自分の成長には他者とのかかわりが重要であることに気付き、他者との人間関係を尊重しようとする。 | 自分の理解 |
| 職業の意義 | 身近な地域には、自分たちの生活を支える職業があり、そこで働く人々は願いをもって仕事をしていることをとらえる。 | 社会生活を支えるために様々な職業があることや、それらの仕事にかかわり切さや苦労や喜びをとらえる。 | 社会生活を支える様々な職業には、それぞれ社会的な役割があることを理解し、職業に従事している人々はそれぞれに職業観や勤労観を大切にしていることをとらえる。 | 産業構造や社会動向から様々な職業の社会的な意義を理解し、職業に従事する人の権利や義務といった職業生活の視点をふまえ、多様な職業観や勤労観があることをとらえる。 | 職業の意義 |
| 進路と自分 | 将来やりたいことや夢、つきたい職業について夢や希望をもつ。 | あこがれとする職業をもち、将来の夢や希望の実現のために自分が努力することを考える。 | 自分の興味や能力等の関係から、ふさわしい職業を思い描き、進路の実現に向けて努力する。 | 将来設計を基に、自分の適性や価値観から、自己実現を図るための現実的な進路選択を行い、その実現に向けて実行しようとする。 | 進路と自分 |

## ＜参考までに…＞　総合的な学習の時間の学習内容例－単元構成をとおして－　盛岡市立杜陵小学校の例

学習内容を、学校全体の目標や育てたい資質や能力及び態度を具現する位置付けや内容にするため、総合的な学習の時間の単元の要件と単元構成について、目標からの筋道が一貫しており、興味を引くように工夫されています。

**【単元づくり要件】**

**〔対象の総合性の重視〕**

**＜現代社会の課題等を含み、総合的に追究できること＞**

- □　総合的な学習の時間で大切にしている身に付けさせたい力を身に付けさせる学習が、繰り返し行える。
- □　児童の実態に合わせて解決可能であり、現代的課題や地域の素晴らしさがより広くより深く学べる。
- □　各教科等の内容を相互に関連付けることによって、新たな「知」や「学ぶ力」が身に付く。

**〔活動の総合性の重視〕**

**＜活動に必然性があり、対象とのかかわりをとおして自分の生き方を考えることに結び付くこと＞**

- □　体験活動の他に体験的活動も必然的に取り入れ、よりよく問題を解決できる。
- □　課題解決的学習過程に沿って、多面的に事象を見つめ、自己の生き方につなげる。
- □　各教科等での学びを生かす活動が効果的に位置付けられる。

**【単元の構成】**

| 総合的な学習の時間の単元の構成 | | | 単元の考え方 |
|---|---|---|---|
| (1)環境単元 | | ○地域の自然素材を教材とし、自然と人間の社会生活のかかわりを考えていく単元 | **位置付け－**地域の恵まれた自然環境が価値ある教材<br>**ねらい－**「環境から学び」「環境について学び」「環境のために学ぶ」活動をとおして、地域への愛着心をもち、「求め続ける子が育つ」ことをねらいとしている。<br>**内容－**長く引き継ぎ実践をしている。また環境教育のねらいの達成の点から各教科等との関連指導をしている。 |
| | | ３年生　岩手公園のホタルの里 | |
| | | ４年生　岩手公園の在来種のタンポポと外来種の植物 | |
| | | ５年生　中津川を上るサケ、中津川の水生生物　等 | |
| | | ６年生　エネルギー　酸性雨　等 | |
| (2)地域の特色を生かした単元 | 国際理解単元 | ○活動の舞台を地域としながら、地域の地理、歴史、先人等のよさや大切さを理解する単元や、我が国のよさ、さらには、世界とのつながりを考え、国際理解への意識を高める単元<br>＜実践例＞　・自校ならではのパンフレット作り<br>・学区の先人たち | **位置付け－**身に付けさせたい力・指導過程は環境単元と同じであるが、いろいろな側面から興味をもたせ視野を広げながら、多様に地域とのかかわりを深め、学びの発展を期待する。<br>**ねらい－**地域の人、もの、こととのふれあう活動をとおし、総合ならではのダイナミックな展開をしながら、地域への愛着を深めていく。<br>**【国際理解単元のねらい】**地域や我が国の歴史や文化、伝統を理解し、これを尊重しようとするとともに、異なる文化や習慣をもった人々と交流し、ともに生きていくための資質や能力を身に付ける。<br>**【福祉単元のねらい】**自分の力を他人や社会のために活用し、自己実現を図るとともに、高齢者や障害のある人との交流をとおして、共生を図る資質や能力を身に付ける。<br>**【その他の単元の考え方】**現代的課題や児童の興味・関心から生まれた課題などを扱う。（情報・食・健康・法・税等）また、情報処理、機器活用等の技能向上にかかわる活動等（単発的な活動） |
| | 福祉単元 | ○福祉の意義を知り、共に安心して暮らしていける社会をつくっていこうとする、地域の社会福祉への意識を高める単元<br>＜実践例＞　・浦島体験<br>・まちのボランティアとの交流<br>・手話や点字 | |
| | 地域 | ○その他、地域の特色を生かした単元<br>＜実践例＞　・キッズマート | |
| (9)その他の単元 | | ○現代的課題や児童の興味・関心からうまれた課題などを扱う単元<br>＜実践例＞　・コンピュータ活用（情報）<br>・新聞記者になろう（情報）<br>・体のひみつをさぐる（健康）　等 | |

# 6　総合的な学習の時間と教科等との関連

**総合的な学習の時間で身に付けられる資質や能力、態度等を明らかにし、それが、各教科等の「何と、どこで、どのように」関連をもつものかを明らかにしていく必要があります。**

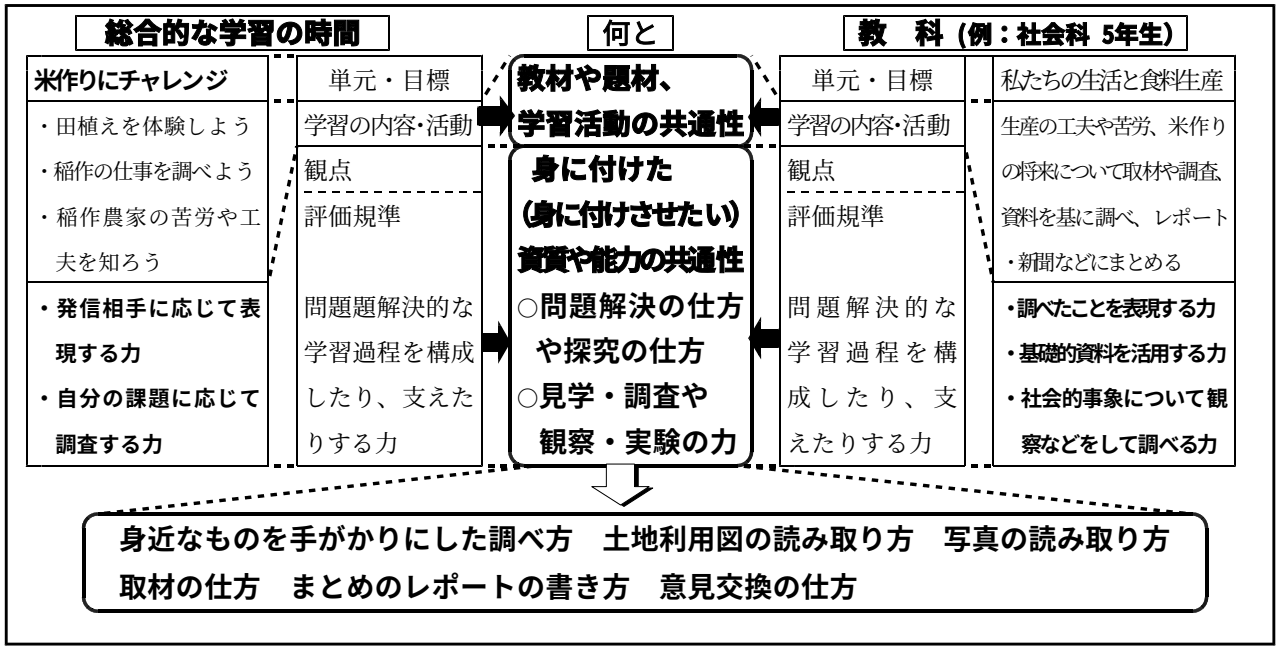
総合的な学習の時間と各教科等との関連は、「教材や題材、学習活動」と「身に付けた資質や能力」焦点を当てます。ここでは、教科について「何と」関連をもつのか、「どこで」関連をもつのか、「どのように」関連をもつのかに分けて、そのポイント示します。

## ポイント１　「何と」関連をもつのか

教科の「何と」、または、総合的な学習の時間の「何と」関連をもつのかを明確にするためには、総合的な学習の時間と教科との間に共通性を見いださなければなりません。それぞれのねらいに着目すると、必要な問題解決の資質や能力、学び方やものの考え方、主体的・創造的な探究の態度を育成することに共通性が見られます。この共通のねらいに注目しながら、それぞれの指導計画を照らし合わせてみると、「教材や題材、学習活動」と「身に付けた資質や能力」での共通性を見いだすことができます。

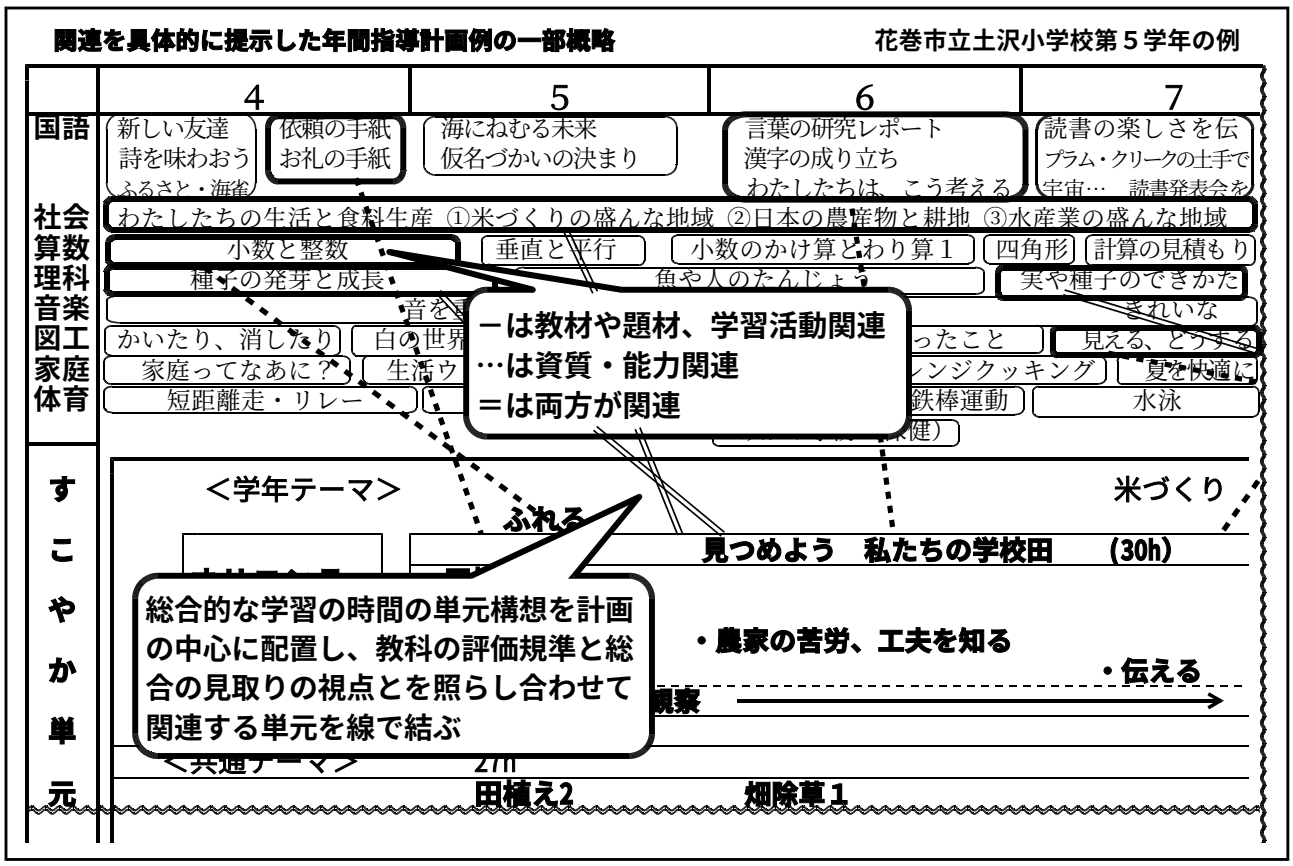
**共通のねらい**

① 問題解決の資質や能力
② 学び方やものの考え方
③ 主体的・創造的な探究の態度




## ポイント２　「どこで」関連をもつのか

「何と」関連をもつか明らかになったものを、どのように相互に強化し、深化していくかという具体的な指導の計画をもつことが大切になります。そこで、「どこで」関連をもつかを年間指導計画に仮に位置付けていきます。

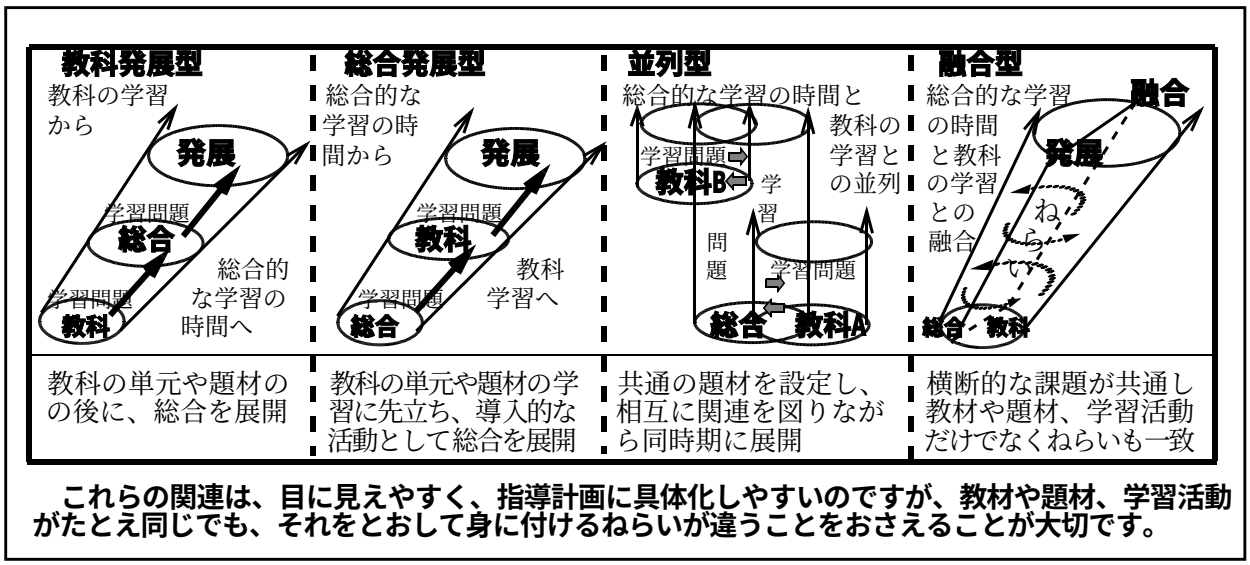



## ポイント３　「どのように」関連をもつのか

総合的な学習の時間は、学校独自のカリキュラムが要求され、教科との関連を意図的、計画的に組み込み、目指す教育の方向性を示すことが大切です。そこで、総合的な学習の時間と教科との共通性から、「どのように」関連をもつかを明らかにし、関連指導を意識した単元指導計画を作成することが必要になります。

### (1)　教材や題材、学習活動などに共通性、類似性が見られる場合の関連

教材や題材、学習活動による関連を図る指導計画を類型すると四つのタイプに示すことができます。




**これらの関連は、目に見えやすく、指導計画に具体化しやすいのですが、教材や題材、学習活動がたとえ同じでも、それをとおして身に付けるねらいが違うことをおさえることが大切です。**

### (2)　児童生徒が身に付けた資質や能力による関連

教科の学習で培った資質や能力を総合的な学習の時間で活用しながら相互に生かし合うように積極的に関連付けて、総合化し、身に付けさせたい力を育成していくことをねらいます。

この関連を連続性をもって継続させることにより、相互に支え合う力を総合的な学習の時間と教科の中に見いだした関連指導が図られます。

実際には学習活動と資質・能力は複合的にかかわっており、学習状況を総合的に把握しながら関連を工夫することが大切です。

### (3)　単元指導計画と展開例

**社会科との関連を具体的に提示した単元指導計画及び展開例の一部概略**　　花巻市立土沢小学校第５学年の例

◆　単元指導計画

| | 主な学習活動<○>　支援や留意点<・> | 教科との関連 |
|---|---|---|
| 意識化・意欲化 | ○全体のテーマを設定する<br>・児童の願いや興味・関心を生かした活動ができるようにする。<br>○田植えをし、稲を育てている<br>○稲作農家の苦労・工夫を知った<br>知りたいことがはっきりしてきた<br>○「お米博士になりたい！」<br>・米について、全体テーマ（第１次から）を設定し、何を調べ、発信したらよいか意見を出し合い課題を整理する。 | **社会：単元名「わたしたちの生活と食料生産①米づくりの盛んな地域」**<br>**○学習内容や資質・能力（学び方）を総合的な学習の時間の追究活動に生かすことによって、よりよい解決ができたことを意識させる**<br>**・農業に従事している人々や苦労**<br>**・調べ方、情報収集や取材の仕方、資料やグラフの読み取り等** |

◆　本時の展開

| | 学習活動(○)　留意点(・) | 教科との関連 |
|---|---|---|
| 一斉 | ○本時の活動予定を確かめる。<br>・第１次の「見つめよう私たちの学校田」をふり返る。<br>○田植えの経験　稲の成長観察<br>○社会科で学習したことを基にした調べ学習<br>自分が調べたいことがはっきりしてきた<br>（新しい課題）<br>・本時の活動の見通しをもって意欲的に取り組めるようにする。<br>○全体のテーマの設定<br>○課題の修正、整理 | **社会：「わたしたちの生活と食料生産①米づくりの盛んな地域」との関連による課題追究から、関連の成果を意識付ける**<br>**○学習内容**<br>**・農業に従事している人々の工夫、苦労に気付く**<br>**○資質・能力（学び方）**<br>**・調べ方・情報収集や取材の仕方、資料・グラフの読み取り方等** |

本手引きにおける「教科との関連の考え方」は、当センターの研究「教科との関連を図小・中学校総合的な学習の時間の改善に関する研究」(2004)及び同「総合的な学習単元カリキュラム・リフォームの手引き」(2004)から抜粋していますので、合わせて参考にしてください。

**◇大単元「米づくりにチャレンジしよう」（89時間）第２次単元「お米博士になろう」（22時間）の学習活動計画案の概要**

**対象：東和町立土沢小学校第５学年17名**

○　第５学年　　「米づくりにチャレンジしよう」　『（第２次）お米博士になろう』（22 時間）

○　単元目標・米に興味をもち、課題を立ち上げ、学習情報を効果的に活用しながら課題を追究することができる。
　　・進んで自分の課題に沿った情報を自分なりの方法で追究・解決することができる。
　　・稲や米に関する情報を自分の方法で表現し、得た知識を生かしてまとめることができる。
　　・田植えの経験や「お米博士になろう」で得た知識や気持ちを自分の生活に生かしていくことができる。

○　教科との関連を図るための具体的な手だて

◆プロジェクト学習企画書において、「学習活動を進めるうえで必要な学習」という動機付けにより、教科の学習についても、自発的に学ぶようにする。どのような学習が自分のプロジェクトに必要かをイメージさせたい。

◆プロジェクト隊での追究活動や発信活動の場面において、それぞれのテーマに応じた必要な教科の学習との関連の意識化を図りたい。その際「学びの関連表」を用い、学び方と各教科の単元との関連を紹介し、以降自分たちで総合的な学習の時間と教科とが相互に行き来できるよう「学びの掲示板」等を提示していきたい。

○　単元指導計画

| | 主な学習活動<○>　支援や留意点<・> | 教　科　と　の　関　連 |
|---|---|---|
| 意識化 | **○全体のテーマを設定する**<br>・全体テーマを設定し、何を調べ、何を発信したらよいか意見を出し合い課題を整理する | **社会「わたしたちの生活と食料生産①米作りの盛んな地域」**<br>**○学習内容や資質・能力を追究活動に生かすことによって、よりよい解決ができたことを意識させる** |
| 課題設定 | ○課題ごと児童の希望でプロジェクト隊を編成する<br>**○プロジェクト隊のテーマ（課題）を設定し、活動の見通しを立てる** | **各教科**<br>**○テーマ（課題）を追究するうえで、関連しそうな学習内容や学び方を紹介し、総合と教科とが相互　に行き来するよう動機付ける** |
| 追究・体験 | ○プロジェクト隊ごとに分かれる<br>○活動計画を立てる<br>**○課題追究１**<br>・課題追究の計画を基に追究活動を行う<br>**○中間発表会**<br>これまで追究してきたことを報告し合い、アドバイスし合う<br>○課題追究２<br>アドバイスされたことを参考に計画を修正し、さらに課題を追究する | **理科「実や種子のでき方」　※観察の仕方や知識・理解**<br>**○稲の観察の結果を理科の学習内容（花から実、実になる部分、結実の仕組み）に関連させる**<br>**国語「わたしは　こう考える」**<br>**○身に付けた資質や能力を生かし、結論がまとまるように、時間配分に注意したり、決まったことを確認したりしながら話し合う**<br>**社会・算数**<br>**○資質・能力（学び方）**<br>**資料やグラフの読み取りや活用の仕方等** |
| 自己実現・実践化 | ○プロジェクト報告会の計画を立てる<br>・課題追究の成果を知らせる計画を立てる<br>○プロジェクト報告会<br>・課題追究の成果を報告し合い、よかったことやアドバイスを「発見カード」に書いて渡す<br>○追究活動のふり返り<br>・追究活動をふり返り、自分たちのよさや成長を確認する<br>**○自分の学習や生活に役立てる** | **国語「分かりやすく伝えよう」**<br>**○身に付けた資質・能力（学び方）を生かし、「だれに」「何を」「どのように」伝えるか、工夫して書く**<br>**国語「依頼状・礼状を書こう」**<br>**○身に付けた資質・能力（学び方）を生かし、礼状を相手を意識して効果的な表現を工夫しながら書く**<br><br>**教科との関連の成果を意識付け、教科と総合のつながりによる学びのよさを意味付ける**<br>**※学びの記録 学びの関連表 学びの掲示板 教科の学習　等** |

展開例

## 展開例－第５学年　米づくりにチャレンジしよう「（第２次）お米博士になろう」

**◎本時のねらい**

○関心・興味をもっていることがらについて、学習活動の企画を立てることができる。
○友だちの企画にも興味を示して、理解・比較しながら意見交換を行い、学習活動の企画を検討・修正することができる。
○企画の段階で、教科の学習内容や教科で培った力を生かすことを意識できる。

**◆関連の段階：見通しを立てる段階**

**◆関連教科と考え方**

**教科** 課題解決にあたり、各教科で培う知識や技能、学び方などが活用できることの意識と見通しをもつ。

**国語**「わたしたちは、こう考える」学習活動の内容「計画的に話し合うために」を話し合いの場で活用し、定着を図る。

**◆手だて：**「学びの掲示板」「学びの関連表」「計画シート」

**◆指導計画の類型と関連事項**

| | 教材や題材、学習活動での関連 | | 資質・能力での関連 |
|---|---|---|---|
| 教科 | *教科発展型*<br>教科から<br>発展<br>総合<br>教科　総合へ | 各教科の学習活動における内容を想起し、つながりを考える。<br>＜知識の活用＞ | 学び方（問題解決的な学習過程を支える力）の活用を考える。<br>＜思考・判断＞＜技能・表現＞ |
| 国語 | *教科発展型*<br>教科から<br>応用　定着<br>総合<br>国語　総合へ | 計画的な話し合いの仕方を理解し、自分の考えをまとめる。<br>＜学習活動＞ | 結論がまとまるように、時間配分に注意し、決まったことを確認したりしながら話し合う。＜話す・聞く能力＞ |

**◎展開**　（３・４／22 時間）

| 形態 | 学習活動(○)　留意点(・) | 教科との関連 | 評価(◆) 支援<br>(△) ねらいを達成した児童へ<br>(▽)ねらいの達成が不十分な児童へ |
|---|---|---|---|
| 一斉 | ○本時の活動予定を確かめる。<br>プロジェクト企画書を作成し、グループのテーマと活動の見通しをもつ。<br>・プロジェクト隊編成までの活動をふり返り、本時の活動の見通しをもって、意欲的に取り組めるようにする。 | | ◆自分の活動のねらいを確かめ、見通しをもって取り組もうとしているか。<br>＜関心･意欲･態度/行動＞<br>△自分のねらいを達成するとともに、友だちへの働きかけや仕事分担ができるように支援する。<br>▽自分の今日の活動を確認させたり、友だちと相談したりできるように支援する。 |
| 活動Ⅰ | ○プロジェクト隊企画書（計画シート）にしたがって、テーマを設定し、活動の見通しを立てる。<br>◇「価値」「ゴール」の自覚<br>◇「追究活動の過程」のイメージ化<br>◇教科との関連の意識化<br>○企画書の項目にしたがって、グループで意見交換しながら、完成させる。<br>・必要に応じて具体的なイメージができるように働きかける。 | **国語**『わたしたちは、こう考える』<br>資質･能力「聞く、話す力」<br>結論がまとまるように、時間配分に注意し、決まったことを確認したりしながら話し合う。<br>（学びの掲示板の利用） | ◆自分の企画のよいところに気づき、積極的に表現しようとしているか。<br>＜技能･表現/活動･記録＞<br>△その子らしさが表れている項目を紹介し、活動への意欲へつなげる。<br>▽工夫したことや困ったことについて体験を通して具体的に表現できるように支援する。 |
| 活動Ⅱ・一斉 | ○追究活動や発信活動において、どのような学習が必要か考え、教科との関連を具体的にイメージする。<br>・「学びの関連表」を提示し、追究・発信活動に活用できそうな教科を、具体的な事例を取り上げながら考えさせる。<br>○教科で培う力を様々な形で追究・発信活動に活用できることを全員で確認する<br>↓<br>○プロジェクト隊の企画を発表する。 | **各教科**<br>「学習活動を進めるうえで必要な学習」という動機づけによって、具体的にどのような学習（学習内容・能力や資質）と関連を図るかを具体的な例示をとおして、イメージさせる。 | ◆教科の学習成果を活用してお米博士になる見通しを立てることができるか。<br>＜思考･判断/発言･記録＞<br>△発表を聞きながらのつぶやきや気づき・記録に対して具体的にイメージできるように支援する。<br>▽各グループの考えや取り入れたらよりよい活動になりそうなポイントに気づくように支援する。 |
| 一斉 | ○学習のまとめをする。・学習カードに記入し、次時の活動の予定を確認する。 | | |

**考察**：さまざまな事物・事象とのふれ合いや友だちとの話し合いから自分の学習課題を決めて、学習活動の見通しをもつ場面です。学習活動のスタートに当たり、教科と総合的な学習とのかかわりを意識付けることが必要です。話し合い活動では、国語の学習内容と「聞く、話す能力」は「学びの掲示板」を利用して、各教科との学びのつながりは「学びの関連表」を利用して、関連のイメージを図りました。たくさんの教科の学習が結び付いていることに驚いたり、教科書にフィードバックしたりして確かめていた児童もいて、自分の追究活動に活用しようとする意欲が見られました。

# 単元指導計画と展開例　　中学校編

◇単元「環境問題」（50時間）の学習活動計画案の概要　　対象：花巻市立花巻北中学校第３学年144名

○　第３学年　　「環境問題」（50時間）
○　単元目標・環境や環境問題、その対応策に関心をもち、意欲的に調べようとする生徒を育てる。
　　・環境や環境問題に関する問題解決のための技能、思考力、判断力をもった生徒を育てる。
　　・活動の中で「学び方」を身に付けるとともに、自分の考えを他に工夫して伝えられる生徒を育てる。
　　・自らの生活を見直し、進んで環境を保全していこうとする心情や実践的態度を身に付ける生徒を育てる。
○　活動を支えるものとして育成したい資質や能力
　・問題発見能力・・・体験活動　　・問題解決能力・・・調査研究活動　　・表現力・・・まとめ、発表会
○　単元指導計画　**（国語科との関連を重視した指導計画）**

| | 主な学習活動と場面 | 資質・能力 | 関連する教科の資質・能力<br>（ゴシック字体は、国語科） |
|---|---|---|---|
| 意識化 | **○学年オリエンテーション**<br>・学年テーマ「環境問題」についての説明を聞く<br>**○コース別オリエンテーション**<br>［生物問題］［ごみ・リサイクル問題］<br>［地球圏］［資源・エネルギー問題］<br>・各コースの説明を聞き、テーマ決定の参考にする | **問題発見能力** | |
| 課題設定 | **○個人テーマ決定**<br>・具体的テーマ例を手がかりに、個々のテーマの方向性を決める<br>・個人テーマ・テーマ設定理由を決め、調査したいことをアイディアネットを用いて深める | | **・文章を読んで考えを深め、自分の課題を見つける（日本語・古典）**<br>・社会的事象を、環境条件や人々の営みと関連付けて地域的特色を多面的・多角的にとらえる視点や方法を考察する力　＜社会＞<br>・事象の生じる要因や仕組みを科学的に考察する力　＜理科＞ |
| 課題追究・解決 | **○調査計画の立案**<br>・類似テーマを基に、３名程度でグループを組み、調査計画を立てる<br>**・調査方法の例を紹介し、複数の方法で調査できるようにする**<br>**○調査活動１（文献調査）**<br>・基礎となることについて文献調査を行う（学校図書館・市立図書館・インターネット）<br>**○コース別校外学習**<br>・各コースごとに関連性の高い施設に行く（県立博物館・ダム・ごみ処理施設など）<br>**○調査活動２（実施調査）**<br>・さらに自分の体験を通して調査し学習を深める（観察・訪問インタビュー・実験・アンケート） | **情報収集能力**<br><br>**情報を選択する力** | **・見つけた課題についてインタビューやアンケートを活用して調査し、報告書にまとめる**<br>**・読書をとおして材料を集める**<br>**・文章から興味・関心をもった事柄について調べたり、関係する文章について探したりする**<br>**展開例**<br>・自分の考えや気持ちを的確に表すために広い範囲から適切な材料を選ぶ力　＜社会＞<br>・事象に潜む関係やきまりをとらえ、見通しをもち順序よく筋道を立てて考える力　＜数学＞<br>**・課題について調査し、報告書にまとめる**<br>**・インタビューを通して材料を集める**<br>**・アンケートを作成して調査する** |
| まとめ・表現 | **○発信準備**<br>・発表準備計画を発表方法の工夫を重点に作成する<br>模造紙・紙芝居・OHP・模型・実物実物投影機実演・ビデオ・パワーポイント・パンフレット<br>・発表原稿を作成する<br>・発表資料を作成する<br>・発表練習を行いコース内で相互評価し、見直す<br>**○グループ発表会**<br>**・全コースの発表が聞けるように６グループに再編成して発表会を行う**<br>**・互いに評価し、よいところを学びあう**<br>**○全校発表会**<br>・全校の発表にふさわしい方法で発表する<br>・よく聞いて評価し、よいところを学ぶ<br>・一年間のまとめと反省をする | **まとめる力**<br><br>**表現力** | **・根拠を明らかにしながら自分の意見を文章にまとめる**<br>**・自分の主張が明確に効果的に伝わるよう、構成の仕方を工夫して書く**<br>**・表現の仕方を工夫して文章にまとめる**<br>**・「私のアルバム」作りの計画を立て、何をどう載せるか、どのような構成にするかを考える**<br>**・紙面や題名にも工夫して「私のアルバム」を作る**<br>・追究し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたりして発表する力　＜社会＞<br>・観察、実験をとおして、規則性を見いだしたり、自らの考えを導き出したり創意ある発表や報告書の作成を行う力　＜理科＞<br>**・シンポジウムを開き、ものの見方や考え方を広げたり深めたりする**<br>**・「肯定」「否定」の立場に分かれて討論会をもつ**<br>**・外部の人を招待してスピーチの会を開き、自分たちのものの見方・考え方を訴える** |

## 展開例－第３学年「環境問題」調査計画書の作成

**◎本時のねらい**

○個々の設定した「環境問題」のテーマについて、問題解決していくために必要な調査内容を明確にできるようにする。

○調査したい内容を明らかにするために、より効果的な調査方法を選ぶことができるようにする。

**◆関連の段階：調査計画の段階**

**◆関連教科と考え方**

**国語　「一　言葉とわたしたち　日本語は乱れているか」**

学習で培った日本語について調査したこと報告書にまとめる「書く力」を調査計画の段階で活用し、見通しをもち調査計画をさせる。

**◆手だて：国語での学習事項の確認**

**◆指導計画の類型と関連事項**

| | 教材や題材、学習活動での関連 | | 資質・能力での関連 |
|---|---|---|---|
| 国語 | *教科発展型*<br>**教科から**<br>**応用・定着**<br>**総合**<br>**国語　総合へ** | **・質問を工夫して話したり、工夫したりする。**<br>**・インタビューをとおして、相手の思いをとらえて文章で表現する**<br>**＜学習活動＞** | **事実を踏まえながら、相手の思いが伝わるように、段落構成を工夫して書く。**<br>**＜書く能力＞** |

**◎展開**　（８・９／50時間）

| 形態 | 学習活動(○)　留意点(・) | 教科との関連 | 評価(◆) |
|---|---|---|---|
| 一斉 | ○本時の活動予定を確かめる。<br>自分の「環境問題」テーマの解決のための調査計画書を作成する<br>・計画作成において、テーマに迫るために必要な調査内容と、自分の体験や行動を通した調査方法を考えることを促す。 | | ◆自分の活動のねらいを確かめ、見通しをもって取り組もうとしているか。<br>＜関心･意欲･態度/行動＞ |
| 活動Ⅰ | ○調査計画書を作成する。<br>テーマ<br>テーマ設定の理由<br>調査内容<br>調査方法　　等 | **国語**「日本語は乱れているか」<br>資質・能力「書く力」<br>見付けた課題についてインタビューやアンケートを活用して調査し、報告書にまとめる | ◆テーマに迫るために必要な内容や方法で調査しようとする計画が作成できたか。<br>＜思考･判断/活動＞ |
| 活動Ⅱ | ○調査計画書の見直しをする。<br>・計画見直しのチェックポイントを与えて、特に調査方法について充実させる。 | | ◆文献調査だけでなく、自分の体験や行動を通した調査方法であるか。<br>＜思考・判断／発言・記録＞ |
| 一斉 | ○学習のまとめをする。<br>・学習カードに次時の活動予定を記入する。 | | |

**考察**

・総合的な学習の時間の学年段階の最後として、多様な調査方法を駆使して問題解決できることを目指しました。１年生では「課題決定→調査→発表・まとめ」という大きな学習の方法を学び、２年生では職場体験による学習を行いました。３年生のテーマ「環境問題」は、文献調査のほかに、実験・観察、施設訪問など、様々な調査ができるものであり、調査方法の充実をポイントに実施しました。

・体験を通して方法として、アンケート調査がありますが、国語科のこの単元では、アンケートの作り方について学習しており、これも一つの調査方法として取り入れました。

**＜参考までに…＞**　　**関連をもつ教科の内容とは？**

次の例は、関連を図る教科の内容を総合で身に付けさせたい力の観点から作成したものです。

**盛岡市立杜陵小学校の例**

| 教科 | 観点 | 関連を図る主な内容 中学年 | 関連を図る主な内容 高学年 |
|---|---|---|---|
| 国語 | 話すこと | ・順序が分かるように話すこと（低）<br>・話の中心を明確にすること<br>・経験した順序を考え、筋道をはっきりさせて話すこと<br>・必要に応じて丁寧なことばを正しく使うこと | ・話す内容の軽重を考えること<br>・目的や意図に応じて、順序を整えて話したり、例をあげたりしながら話すこと<br>・日常よく使われる敬語の使い方になれること |
| | 聞くこと | ・事柄の順序や要点、話の組立て方等を考えながら聞くこと | ・話の要旨を理解し、自分の目的に応じて話された内容を整理すること |
| | 話し合うこと | ・互いの考え方の相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと | ・自分の立場や意図等をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと |
| | 書くこと（目的・相手）（取材） | ・相手や目的を明確に意識して、適切に書くこと<br>・書く目的や相手に応じて必要な事柄を収集したり選択したりすること | ・目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと<br>・目的や意図に照らして必要な事柄を集めること |
| 社会 | 技能 | ・地図、統計等の各種の基礎的資料を効果的に活用すること | ・地図、年表等の各種の基礎的資料を効果的に活用すること |
| | 理解 | ・地域の産業や消費生活の様子 | ・我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連 |
| 算数 | 技能 | ・資料を表や棒グラフ、折れ線グラフに表すこと | ・割合を求めたり、それを帯グラフ、円グラフに表すこと |
| | 理解 | ・事象を数理的にとらえること（数的処理の仕方） | ・事象を数理的にとらえること（抽象化、条件化、関数的な見方） |
| 理科 | 技能 | ・簡単な器具や教材を見つけたり、使ったり、作ったりして観察・実験やものづくりを行い、その結果の過程を分かりやすく表現すること | ・問題解決に適した方法を工夫し、装置を組立てたり、使ったりして観察・実験やものづくりを行い、その結果や過程を分かりやすく表現すること |
| | 理解 | ・動物の活動の仕方や植物の成長の仕方と環 | ・生命の連続性 |

中学校においては、教科側から総合的な学習の時間との関連を図った取組もみられます。次の例は、「教科の年間指導計画」に総合的な学習の時間との関連を明示する欄を設け、各教科の学び（内容や資質・能力）を生かすことをねらった取組です。

**花巻市立花巻北中学校の例**

| 月 | 単 | 教材名＜文章作品＞ | 時 | 学習事項 | 総合・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 | | 書くことの学習１<br>＜書く材料を見付ける＞ | 3 | ・身近な生活の中から題材を見つけ、必要な材料を集める。 | ・手法が総合的な学習と関連 |
| | 二<br>自<br>然 | 文章の内容をとらえよう<br>＜海の中の声＞<br>＜クジラたちの音の世界＞ | 6 | ・二つの文章を読み、書かれている内容をとらえ、分かったことについて話し合ったり、要約したりする。 | ・文書を読み、分からないことやもっと調べたいことなどを、図書室などで調べる。手法、調査方法が総合的な学習と関連 |

社会科　第一学年　年間指導計画

| 月 | 単 | 教材名 | 時 | 学習事項 | 総合・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 9 | い<br>ろ<br>い<br>ろ | ２都道府県を調べよう<br>(1)グラフ、地図をつくる<br>(2)都道府県調べ方<br>(3)岩手県を調べよう | 10 | ・数値のグラフ化、主題地図の書き方<br>・資料入手の方法、テーマ決め<br>・自然、産業　農業　漁業　伝統産業 | ・都道府県、世界の国々を調べ、まとめるための有効な方法であることに気付かせる<br>・他と比べて特色ある事柄に注目する<br>・岩手県のキャッチフレーズをつくる |

数学科　第二学年　年間指導計画

| 月 | 単 | 教材名 | 時 | 学習事項 | 総合・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 4<br>章<br>平 | ２－合同な図形<br>①合同な図形<br>②三角形の合同条件<br>③証明のすすめ方 | 11 | ・合同な図形の性質<br>・三角形の合同条件<br>・合同な三角形を見いだす<br>・合同条件と証明 | ＊三角形の合同条件を使いこなせるよう工夫する<br>・手法が総合的な学習と関連 |

保健体育科　第一～三学年男子　年間指導計画

| 月 | 単 | 教材名 | 時 | 学習事項 | 総合・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 陸<br>上<br>運 | 短距離・リレー | 13<br>15 | ・走の基本、スタート、スタートダッシュ、中間疾走、コーナー走　等 | ・自分にあった目標の設定と課題解決の学習方法が総合的な学習と関連 |

# ７-1 総合的な学習の時間の評価

**児童生徒の力を最大限に発揮させるためには、評価の観点を明確にして、学習状況を目標からよく見取り、一人一人の学びを適切に評価し支援していくことが必要です。**

総合的な学習の時間の評価では、異なる視点から評価の観点を設定し、複数の目で、様々な方法を組み合わせて、継続的に、学びの過程を読み取り、子どもの成長に利用したり、授業づくりに利用することが大切になります。教育課程審議会最終答申からは、「学習の状況や成果などについて、児童生徒のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて評価する」ということ、「各教科の学習の評価と同様、観点別学習状況の評価を基本とすること」ということの二つの見方をしていくことが大切であると解釈できます。

## ポイント１　個人のよさや意欲・態度、進歩の状況を見取る評価

**(1)　時間の経過から児童生徒のよさや意欲、態度、進歩の状況を評価する。**

時間の経過を追って児童生徒のよさや意欲、態度、進歩の状況を評価する場合、総合的な学習の時間の一単元の中での評価と単元間レベルでの評価があります。

例えば、「テーマをもつ段階では、調べたいことを見つけることに消極的な態度であったが、発信する段階のポスターセッションでは、調べたことだけではなく、自分の考えをもって発表したり、質問に答えたりしていた。」というような場合は、一単元の中での評価にあたります。

単元間レベルでの評価の例としては、一つ目のユニットで行った学習状況と二つ目のユニットで行った学習状況とを比較して、そのよさや伸びを見取るような場合です。例えば、「米づくりにチャレンジしようの第一次“見つめよう私たちの学校田”では、一つの観点からの追究であったのが第二次“お米博士になろう”では、複数の観点からより深まりのある追究ができた」というような場合です。

**(2)　他教科等の学習状況と関連させたり、比較したりして児童生徒の学びを評価する。**

他教科との学習状況と総合的な学習の時間での学習状況を関連させたり、比べたりして評価することができます。

例えば、「算数や社会、理科で学んだグラフの読み取り方やかき方を生かして、自分の地域における稲作状況（米の種類や収穫量）を円グラフを用いて発表したり、ここでの体験を生かして算数の割合の学習では、割合について理解を深め活用できるようになった。」「理科の学習ノートには、観察した結果だけをまとめるにとどまっていたけれど、総合的な学習の時間の学習シートには、調査したり、内容と合わせて自分の意見を書いたりできるようになった。」などの場合です。

また、「地域の施設に訪問の際、施設の人に対する接し方が回を増すごとに丁寧になったこと」や「ポートフォリオを活用することで自分の学びを評価する目が育ってきたこと」など、児童生徒のよさや意欲、態度、進歩の状況を評価するためには、教師はポートフォリオをはじめ、一人一人の学習状況について多方面から情報を収集することが必要です。

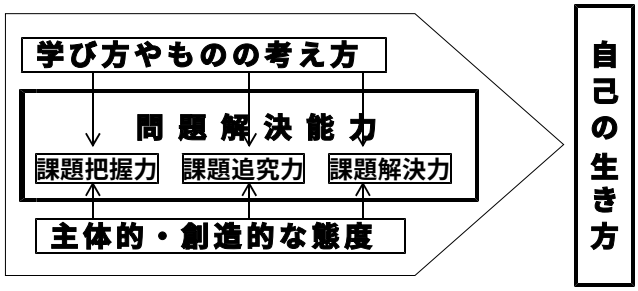
## ポイント２　観点別学習状況の評価

総合的な学習の時間のねらいは、あくまでも生活に生きる問題解決力（資質・能力）の育成であり、一人一人の児童生徒にその力を付けていくことが大切です。

教育課程審議会の評価の在り方についての答申では、総合的な学習の時間の評価の観点として、「総合的な学習の時間のねらいをふまえた観点」「教科の評価の考え方を生かした観点」「各学校が独自性を発揮できる観点」の三つをあげています。これら三つの観点からは、次のような内容が考えられます。

### (1)　総合的な学習の時間のねらいを踏まえた観点

総合的な学習の時間は、問題解決的な学習を重視しているので、**問題解決の過程**にそって評価する




**【各観点とその内容】**

**問題解決力**　問題を発見し、把握する力　学習計画を立案し、解決する力
追究の過程の成果をまとめる力

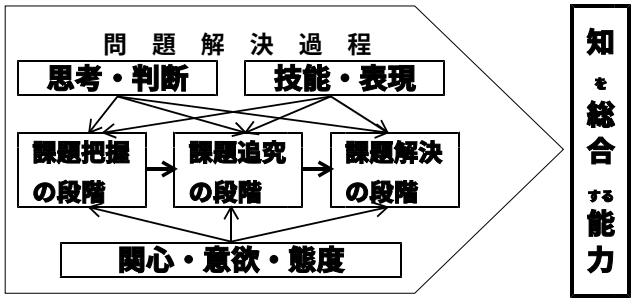
**学び方やものの考え方**　情報を集め方　調べ方　まとめ方　報告や発表の仕方
分析的な考え方　比較する考え方　類推的な考え方
関連的な考え方　応用的な考え方　総合的な考え方

**主体的、創造的な態度**　学習対象に対する関心　学習活動に対する意欲
学習対象とかかわりをもとうとする態度

**自己の生き方**　学習対象に対する見方・考え方　（○○観）
自分のよさや自信、夢や希望

### (2)　教科の評価の考え方を生かした観点

**教科の各観点の内容を総合のねらいにインプットして、知識、技能、ものの見方や考え方等を再構成し四観点でアウトプットする**




**【各観点とその内容】**

**関心・意欲・態度**（学習活動への関心・意欲・態度）　学習対象に対する関心、学習活動に対する意欲
学習対象とかかわりをもとうとする態度

**思考・判断**（総合的な思考・判断）　分析的な考え方　比較する考え方　類推的な考え方
関連的な考え方　応用的な考え方　総合的な考え方
客観的、合理的な判断

**技能・表現**（学習活動にかかわる技能・表現）　聞き方・話し方　インタビューの仕方　資料収集の仕方　資料活用の仕方
見学や調査の仕方　実験や観察の仕方　まとめ方　報告の仕方・発表の仕方

**知識を総合する能力**　知識・理解を基にした学習対象への価値観

### (3)各学校が独自性を発揮できる観点

**－学校の定める目標や内容から－**

**総合的な学習の時間のねらいから、具現化する**

**目指す児童像**

自立できる子　　共生できる子
主体的に学ぶ子

**＜自立＞　自分でできる　自分で学ぶ　自分からする**
**＜共生＞　他のことを思いやる（心）**
**他の立場で考える（思考・判断）**
**他のことを考え行動する（実践）**
**＜学び方＞　自ら学び　他から学ぶ　互いに学び合う**

**【各観点とその内容】**

**自　立** → 自分で課題を見付ける　自分で解決の方法を考える　自分の課題を解決するために行動する
**共　生** → 自分と他とのかかわりをとおして、よりよく問題が解決するよう考え、行動する
**学び方** → 学んだことをまとめたり、分かりやすく発信したりする
目的に応じ、機器や施設等を活用して情報を収集する

**－他の例示－**

**主体的な態度** → 学習対象に対する関心　学習活動に対する意欲
学習対象とかかわりをもとうとする態度
**情報活用の能力** → 情報を収集する力　情報を処理する力　情報を創造する力
**コミュニケーションの能力** → 自分の考えを表現する力　相手の考えに共感し、受容する力
**自己の生き方** → 学習対象に対する見方・考え方　（○○観）
自分のよさや自信、夢や希望

単元目標や評価規準を設定するときには、ここに示されている評価の観点に具体的な学習内容や方法、目指す児童生徒像が記述されることになります。

***＜参考までに…＞***　**ものの見方や考え方を育てる観点**　**盛岡市立杜陵小学校の例**

資質・能力の育成においては、各教科の枠をはずして、全教科及び総合的な学習の時間の双方をとおして、ものの見方や考え方を育てる観点を設定しています。

**総合的な学習の時間で鍛えるものの見方や考え方と主として指導する学年**　**（◎重点的に指導する学年）**

| ものの見方や考え方 | | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 対象を詳しく観察したり、調べたりし、分類したりしていくこと | 【分析力】 | ◎ | ◎ | ○ | ○ |
| 事象と事象を比べてとらえたり、抽象化を図ったりすること | 【比較力】 | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| 事象と要因、事象と事象を関連付けて考えること | 【推理力】 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 既習の内容を当てはめて考えること、他に転移すること | 【応用力】 | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| 事象を多面的にとらえ、多様な方法で追究し、総合化すること | 【総合力】 | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| 筋道を立てて考えること | 【筋道力】 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

体験をとおして新しい知識を生み出していく過程では、必ず、場に応じたものの見方や考え方が必要になります。児童生徒は、筋道を立てて考えながら、自分の判断・結論を導き出し、自分の考えをつくっていきます。総合的な学習の時間においては、この面の力の育成が大切です。

# ７－２　総合的な学習の時間の評価規準の設定

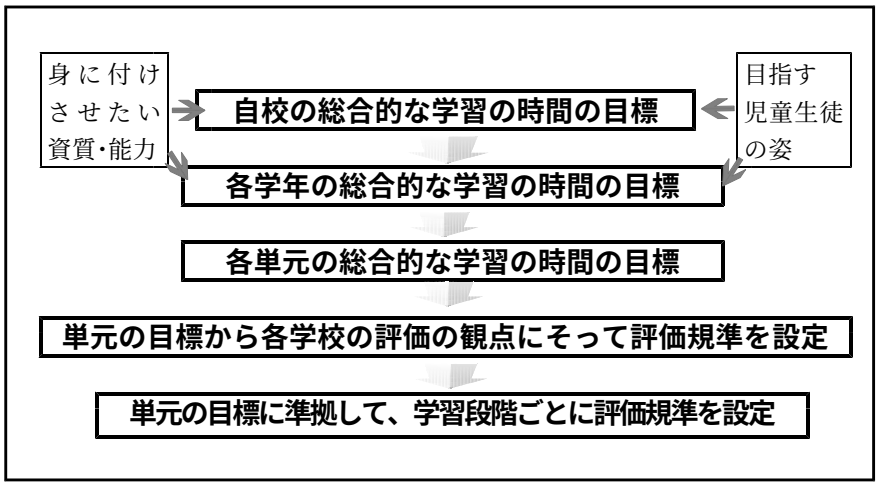
**評価規準づくりは、授業をとおしてどのような力を児童生徒に身に付けさせるのかということを明らかにする作業です。**

児童生徒の学びを確認・改善するために評価の観点ごとに評価規準を設定し、学びの質を高めていきます。設定の方法として、自校の総合的な学習の時間の目標、各学年の目標、単元の目標を基に学習段階ごとに評価規準を設定します。

## ポイント１　評価規準の設定の手順

評価規準の作成にかかわっては、右図のような手順を踏まえることが大切です。

手順を踏まえることで、実際に展開している総合的な学習の時間が自校の目標とどのように関連しているのか、また該当学年の目標や単元の目標をどう具体化しているかを明らかにすることができます。



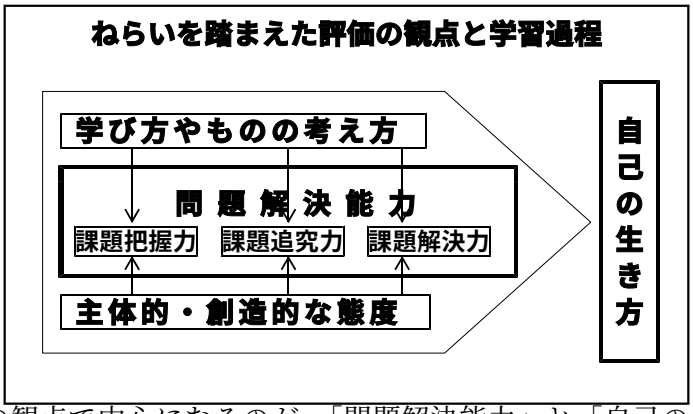

評価規準を作成する作業は、自校の総合的な学習の時間で身に付けさせたい資質・能力から導き出した目標や内容を明らかにすることが大切であり、その目標や内容の明確化・焦点化を図ることにより、より具体的な子どもの姿として評価規準を位置付けることができます。

そのためには、自校の総合的な学習の時間の目標を基に、それを具現化した単元の目標をつくることが大切です。

## ポイント２　評価規準作成上の留意点　－ねらいを踏まえた評価の観点と学習過程－

評価は、学習の結果としての知識、理解だけではなく、学習の過程における学びの姿を評価することが求められています。そのため、学習過程の「どこで」「何を」評価するのかを明らかにする必要があります。

はじめに、総合的な学習の時間における学力の構造をとらえておくことが必要となります。右の図は、前項で示した学習過程における四つの評価の関連図です。この四つの評価の観点で中心になるのが、「問題解決能力」と「自己の生き方」です。そのため、「問題解決能力」を中核に位置付けています。この「問題解決能力」は、



課題把握力、課題追究力、課題解決力の三つに分けることができます。そして、この「問題解決能力」を支えているのが、「学び方やものの考え方」と「主体的・創造的な態度」です。

例えば、課題把握力を発揮するには、情報収集や課題を見出すための思考力や判断力が伴います。また、児童生徒がその学習に対して関心をもつことも必要です。そのため、「学び方やものの考え方」や「主体的・創造的な態度」が支える力であることを意図して矢印で示しています。そして、課題解決の結果として自己の生き方を考えることができる児童生徒を目指しています。

この四つの評価の観点と各学習段階の関係を表したのが、下の表です。この表で評価規準を設定しておきたいものを □ で囲んでいます。

「問題解決能力」の要素である課題把握力、課題追究力、課題解決力は問題解決能力を構成する中心的な役割を果たす力であり、評価する必要があります。

「学び方やものの考え方」は、「学び方」と「ものの考え方」に分けて考えることができます。

「学び方」は、課題把握力、課題追究力、課題解決力にかかわって、課題把握のための情報収集・調べ方、課題追究のための情報収集・調べ方、課題解決の結果としてのまとめや発表する活動を見取っていきます。

**各学習段階と評価の観点**

| 評価の観点 ＼ 学習過程 | 問題解決能力 | 学び方 | ものの考え方 | 主体的・創造的な態度 | 自己の生き方 |
|---|---|---|---|---|---|
| **課題把握（つかむ）** | 課題把握力（計画力） | 課題把握の情報収集 | 思考力（比較・類推） | 関心 心的様相（～したい） | 見方・考え方 |
| **課題追究（追究する）** | 課題追究力 | 課題追究の情報収集 調べ方 | 思考力（分析・関連） | 意欲 様相（繰り返し、粘り強く） | 見方・考え方 高まり |
| **課題解決（生かす）** | 課題解決力 | まとめ 討論・発表 | 思考力（総合） | 態度 実践的態度 | 見方・考え方 夢･自信･希望 |

**横向きの矢印（←）：問題解決能力を支える力**　　**単元終了後**

**縦向きの矢印（↓）：自己の生き方　実践的態度の高まり**

「ものの考え方」については比較、類推、分析、関連、総合というように思考の類型化を図り、問題解決の過程に沿って、それぞれの思考を主に発揮される段階に位置付けています。ただし、課題解決の段階では、これまでの学習の成果を総合して自分の考えをつくるために「自己の生き方」の学習対象に対する見方や考え方と重なることが考えられます。

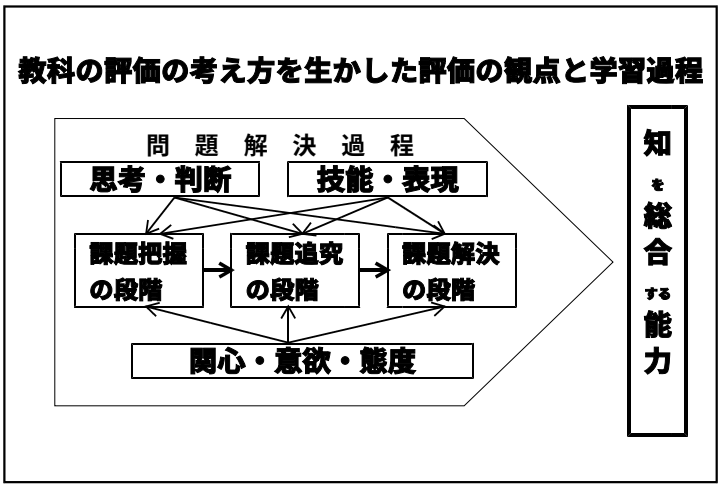
「主体的・創造的な態度」は、教科の評価の観点である「関心・意欲・態度」を置き換えて考えています。そこで、児童生徒の問題解決の様相を焦点化して評価するために、課題把握の段階では学習対象に対する関心を、課題追究の段階では調べる活動に対する意欲を、課題解決の段階では単元の終了後にどのような態度が見られるかを評価します。

「自己の生き方」は、単元をとおして学習対象と自分とのかかわりの中で、見出した見方や考え方を見取っていきます。学習対象と自分とのかかわりは、課題把握の段階でも、課題追究の段階でも評価することはできますが、ここでは、学習課題を追究してその結果としての自分の応えをどのようにつくりだしているかを中心に評価します。

## ポイント３　評価規準作成上の留意点　ー教科の評価の考え方を生かした評価の観点と学習過程ー

教科の評価の考え方を生かした場合の評価規準の作成も基本的には、総合的な学習の時間のねらいを踏まえた評価規準の考え方と同じです。

右の図は、教科の評価の考え方を生かした評価の観点と学習過程の関連図です。




ここでの留意点は、学習過程を「課題把握の段階」「課題追究の段階」「課題解決の段階」の三つの段落に分け、各段階ごとに「関心・意欲・態度」「思考・判断」「表現・技能」の三つの観点を関連させながら課題解決を図っている点にあります。そして、課題解決の結果として「知識を応用し総合する力」を高めることができると考えます。

教科の評価を生かした場合も各学習段階と評価の観点を右の図のように表し、評価規準を設定します。ポイント２で示した総合的な学習の時間のねらいを踏まえた評価の観点と学習過程も見方を変えると、教科の評価を生かした評価の場合とほとんど同じであることが分かります。

**各学習段階と評価の観点**

| 評価の観点 ＼ 学習過程 | 関心･意欲･態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知を応用し総合する力 |
|---|---|---|---|---|
| 課題把握（つかむ） | 学習対象への関心（～したい） | （比較・類推） | 情報収集 調べ方 | 知識・理解 |
| 課題追究（追究する） | 追究の様相（繰り返し・粘り強く） | （分析・関連） | 情報収集 調べ方 | 知識・理解 |
| 課題解決（生かす） | 実践的態度 | （総合）（客観的・論理的判断） | まとめ 討論・発表 | 価値観 |

単元終了後

次頁には、評価規準例を紹介しています。

この評価規準例は、総合的な学習の時間のねらい及び教科の評価の四観点とのかかわりを考えながら、総合的な学習の時間における評価の観点を「活動への関心・意欲・態度」「総合的な思考・判断」「活動にかかわる技能・表現」「総合的な知識・理解」の四観点と定めています。そうすることで、教科と総合的な学習の時間との学力を整合させ評価したり、相互に関連させた学びを成立させたりすることをねらっています。

また、身に付けさせたい三つの力（本手引き３頁参照）との整合性を図りながら作成しており、指導と評価の一体化を図っています。

なお、「活動への関心・意欲・態度」の評価については、学びの喜びについても評価の観点として位置付けています。

# 総合的な学習の時間　評価規準例（学年レベル）

―盛岡市立杜陵小学校　中学年の例―

※学習過程における重点とする観点を○及び◎で示している。

| | 活動にかかわる技能・表現（学び方） | 総合的な思考・判断（自分の考えをもつ） | 総合的な知識・理解（学びを生かす） | 活動への関心・意欲・態度 |
|---|---|---|---|---|
| テーマをもつ | ○<br>・課題の設定の仕方を身に付ける。 | ○<br>・視点を基に自分で調べることのできる課題を考える。 | ・測定や分布地図作り、データの数的処理など主に社会、算数、理科における学習を生かす。<br>・導入において、各教科の既習内容や、総合の前学年や前単元における学習を想起する。 | ◎<br>・自ら身の周りの事象に出会い、調べたいことを見付けようとする。<br>・これからの学習に関心をもとうとする。<br>・テーマを気に入り、自分の課題をもとうとする。 |
| 調べる | ◎<br>・いろいろな本や資料、身近な人や地域の人から、自分が必要な情報を集める。<br>・集めた情報やデータをノートやカードに的確に記録したり、ファイルしたりする。<br>・情報の中から、課題の解決に必要な表や図の意味を読み取る。 | ○<br>・視点にそって活動する。<br>・教師とともに共通のシートで追究の仕方を考える。<br>・自ら学習の見通しをもつ。<br>・自ら事象を分析したり、比較したりしながら追究する。<br>・自ら事象とその要因について考える。<br>・筋道を立てて自分の結論や判断を導き出す。 | ・インタビューの仕方や記録の仕方、文献から要点を読み取る等、国語の学習を生かす。<br>・実験や観察、測定や分布地図作り等、理科における学習を生かす。<br>・見学や絵地図作り等、社会における学習を生かす。<br>・事象を数理的に把握する等、算数における学習を生かす。 | ・わからないこと、うまくいかないことについて、その理由を考え工夫して取り組もうとする。<br>・課題解決までねばり強く活動しようとする。<br>・人からの助言を生かそうとする。<br>・解決のために、進んで人、もの、こととかかわり、追究の喜びを感じる。 |
| テーマをまとめる | ・集めた情報の整理と、結論の導き方を身に付ける。<br>・人から学んだことを問題解決に生かす。 | ◎<br>・事実から分かったことを導き出し、明確にする。<br>・課題の結論を考える。<br>・新しい疑問をもつ。 | ○<br>・大切なことがらを整理して書く、事実と結論、感想等を区別してまとめる等、国語での学習を生かす。<br>・事象から新たな知識や価値を感じ取る。 | ・自ら課題の解決を図ろうとする。<br>・調べて分かったことに対して、自分なりの考えをもとうとする。<br>・解決の喜びを感じる。<br>・かかわった人の生き方に感動する。 |
| 発信する | ○<br>・計画から実施まで、発信の手立てを身に付ける。<br>・相手が興味をもって聞くような、構成の仕方を身に付ける。<br>・目的に応じた多様な発表の形態を身に付ける。 | ○<br>・発表したいことが相手に正しく、分かりやすく伝わるよう工夫して資料を作り、発表する。 | ◎<br>・発表することの主題や要旨をはっきりさせる等、国語での学習を生かす。<br>・視覚的な資料を作成する等、社会の学習を生かす。<br>・目的に応じた表やグラフに効果的に表す等、算数の学習を生かす。 | ・目的意識や相手意識をもって発信しようとする。<br>・自ら伝えたいことを分かりやすく発信しようとする。<br>・いい聞き方で発表会に参加しようとする。<br>・発信の喜びを感じる。 |
| 自分を見つめる | ◎<br>・活動全体をふり返る自己評価の手だてを身に付ける。 | ・発揮できた力、伸びた力について考える。<br>・自分の調べてきたことの意味を考える。 | ・自分の成長や友だちのよさ等について、例をあげながら記述する等、国語での学習を生かす。<br>・かかわった人から学んだ知識や生き方のよさを生かす。 | ○<br>・自ら活動をふり返りながら、自分や友だちのよさや進歩を認め合おうとする。<br>・自分たちにできることに取り組もうとする。<br>・かかわった人への感謝の気もちをもつ。 |

―盛岡市立杜陵小学校　第三学年の例―

学年レベルで作成した評価規準を基に、単元の目標に準じて、学習段階ごとに評価規準を設定します。

下の評価規準は、杜陵小学校第三学年単元「岩手公園ガイドになろう」のものです。［　　］には、各学習段階のねらいや各評価の観点の趣旨を基に、評価規準を作成する上でのポイントを示しています。

**【単元の目標】　岩手公園の秘密を探検する活動をとおして、こずかたタイムの学習の進め方をつかみ、主な調べ活動の方法や、調べたことのまとめ方を知るとともに、岩手公園は多くの人々に大切にされていることに気付かせ、児童がますます岩手公園を好きになるようにする。**

想定される共通の課題を書き、解決への見通しがもてる状況を書く。

課題をつかむための活動や体験を書き、想定される学習課題とその見通しについて書く。

中心となる学習対象とその対象の何に関心をもつかを書く。

**第３学年　「岩手公園ガイドになろう」　評価規準表**

| 指導過程 | 主な活動内容 | 学び方（活動にかかわる技能・表現） | 自分の考えをもつ力（総合的な思考・判断） | 学びを生かす力（総合的な知識・理解） | 活動への関心・意欲 |
|---|---|---|---|---|---|
| テーマをもつ | 岩手公園について興味をもち、探検の計画を立てる | 岩手公園について「もっと知りたいこと」「初めて知ったこと」という観点から調査し、イメージマップ等を用いながら、調べたいことをはっきりさせる。 | | （生活科） | 岩手公園について、今までの学びを生かしてもっと調べたいことを考え、地域の人、もの、こととかかわりながら楽しく調べ学習を進めようとする。 |
| | 岩手公園の秘密を探る | | | | |
| | 課題を設定する | | 岩手公園の探検をとおして、自分たちに調べられそうなテーマを考える。 | | |
| 調べる | 課題について調べる計画を立てる | | 調べたいことについて、人々の願いや思いと結び付けながらつくられたわけ等を考える。 | | |
| | 調査活動１<br>調査活動２<br>調査活動３<br>調査活動４<br>調査活動５ | 視点をもって活動する中で、「現地調査」「資料調査」「専門家からの聞き取り」という調べ活動の基本的方法を知る。 | | | |
| | | | | | |

課題解決のための活動と解決に向けての方向性の概要を書く。

課題を解決するための中心的な活動と追究活動の価値に迫る考え方を書く。

導入において、生活科や他教科で生かせる内容を書く。

課題解決の応えの概要やそれを表現したり、まとめたりする最終の活動を書く。

課題解決の結果またはそれに向けた最終の具体的な活動の様子を書く。

課題を解決する活動の姿を学習対象にかかわる回数や質的な高まりの様相を書く。

第３学年　「岩手公園ガイドになろう」　評価規準表

| 指導過程 | 主な活動内容 | 学び方（活動にかかわる技能・表現） | 自分の考えをもつ力（総合的な思考・判断） | 学びを生かす力（総合的な知識・理解） | 活動への関心・意欲 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |
| テーマをまとめる | 調べたことをまとめよう | | 岩手公園のよさについてあらためて考える。 | 岩手公園は、多くの人に愛され見守られていることや、まだまだたくさんすてきなところがあることに気付く | |
| 発信する | 発表の計画を立てよう<br>ガイドになる準備をしよう<br>リハーサルをしよう<br>発信しよう | 調べたことや自分の思い、願いを「ガイド」として必要なことをとらえながら発信する。 | 自分たちが調べたことを楽しくガイドする方法を考える。 | 国語科「分かりやすく書こう」「道案内を使用」<br>・事柄ごとに段落を分けて書き、分かりやすい文章にする。<br>・修飾語の役割を理解し、主･修･述からなる文を書いたり、読んだりする。<br>・説明するときに大事なことを知り、正確に話したり、聞いたりする。 | 調べて分かったことや、自分の思い等を身近な人や地域の人に発信しようとする。 |
| 自分を見つめる | 活動をふり返ろう | ふり返りの観点や方法を身に付ける。 | 岩手公園のよさについてあらためて考える。 | | お世話頂いた方々への感謝の気もちをもつとともに、岩手公園をもっと好きになろうとする。 |

関連を図る教科の内容を書く。

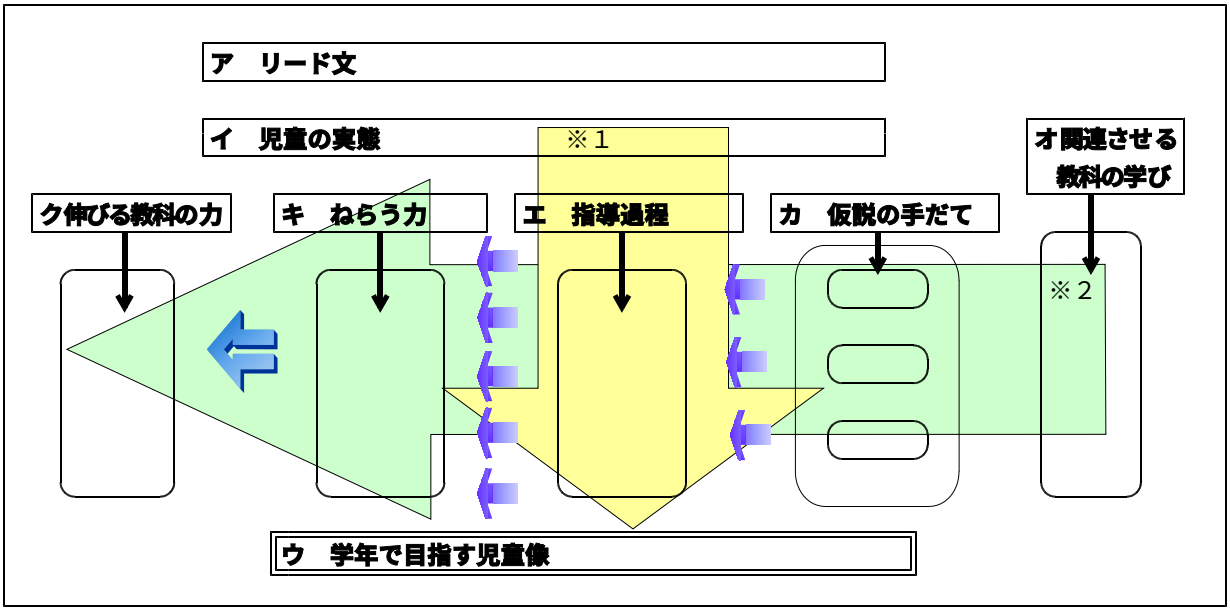
学習の価値と児童生徒とのかかわりから望ましい生き方として期待されることを書く。

この学習に対する価値についての望ましい態度や行動を書く。

単元計画は、児童の実態、育てたい力、素材の価値、指導時数及び関連させる教科の学びを構成の要素として作成します。次に示すのは、「活動の視点」・「自己評価活動」と「明確にした各教科等との関連」とを指導過程に位置付け、単元計画の工夫（デザイン）を図で表した例です。

**単元デザイン図のモデル**（デザインの内容）

ア　リード文：単元の概要や価値についての説明
イ　児童の実態：研究主題から見た児童の実態
ウ　学年で目指す児童像：研究主題で求める学年で目指す児童像
エ　指導過程：自校の指導過程と各段階での主な活動
オ　関連させる教科の学び：意図的に関連させる教科の単元名と内容
カ　手だて：活動の視点と自己評価
キ　ねらう力：単元をとおして育てたい三つの力と単元の力
ク　伸びる教科の力：関連教科の単元をとおして伸びていくと思われる力




「デザイン図」は、縦系統（※１）と横系統（※２）から構成されています。縦系列は、総合的な学習の時間をとおして、目標とする力まで高めるための指導の流れが、指導過程に沿った具体的な活動で構成されています。横系列では、本単元をとおして児童に身に付けさせたい力を高めるための指導の流れが、指導過程のどの段階でどのような手だてを取っていくか、また、教科で学んだどの力を関連させて伸ばしていこうとするのかを明記することによって構成されています。

縦系列と横系列が交わった部分が、総合的な学習の時間における指導過程と各段階における単元での主な活動になります。

「デザイン図」で総合的な学習の時間での指導と教科との関連の全体構造を明確にすることにより、全体を見通した計画をもち、確かな指導ができるようになります。

次頁に示すのは、具体的な単元デザイン図の例です。

## ３年生「岩手公園ガイドになろう」

岩手公園は、400 年の歴史をもち、また、多くの先人たちのゆかりの地であり、盛岡のシンボルとなっています。その魅力と公園への人々の思いやそのための活動を学んでいくことは、地域のよさを理解し、愛することにつながっていくことでしょう。

杜

（児童の実態）
課題のつくり方や、解決のための情報の**集め方、教科での学びの生かし方を教師と共に**体験をとおして、少しずつ学んできている

### ＜伸びる教科の力＞

○国語科
・相手や目的を明確に意識して、適切に書くこと
・経験した順序を考え、筋道をはっきりさせて話すこと
・聞いた事柄について、話題が分かり、自分の意見や感想をもつこと

○社会科
・地図、統計等の各種の基礎的資料を効果的に活用すること
・調べた過程や結果を効果的に表現すること

○道　徳
郷土の文化や生活に親しみ、郷土を大切にしようとする

### ＜ねらう力＞

ア　課題解決的学習過程の全体的な進め方を理解し、様々な情報の収集の仕方や発信の仕方を身に付ける

イ　調べたことを基に、みんなとまとめをする

ウ　主として発信の活動で、国語科の学びを生かし活用していく

◎　岩手公園は、多くの人に愛され見守られていることや、まだまだたくさんすてきなところがあることに気付く

### ＜指　導　過　程＞

**①「テーマをもつ」**
生活科での経験を踏まえつつ、新しい視点から探検をすることで、学習への興味をもたせていくよう進める

**②「調べる」**
岩手公園について調べる内容や方法を明確にし、活動に取り組む
・石碑や銅像　・お城や昔を伝えるもの　・ホタルの里
・公園に来る人　・働いている人　・自然　・その他

**③「テーマをまとめる」**
集めた情報を基に、課題について考え、解決を図る
岩手公園の魅力とそれを大切にしている人の思いに気付く

**④「発信する」**
主に国語科の学びを生かしながら、ガイドとして表現を工夫する

**⑤「自分を見つめる」**
活動をふり返り、自分の成長や友だちのがんばりを確かめる

現地調査
資料調査

**＜学年で目指す児童像＞**
体験をとおして調べたいことを見付け、調査の仕方や各教科での学びの生かし方を知ると共に、発信の仕方を楽しむ

地域の専門家
か聞き取り

### ＜研究の手立て＞

(年計の作成)
(デザイン図の作成)

課題解決の視点
・解決の見通し
・体験の位置付け
形成的自己評価

調査・追究の視点
・現地調査、資料調査、専門家からの聞き取り

まとめの視点
・岩手公園のよさ
(事実と人の思い)
形成的自己評価

発信の視点
・話の中心と構成
・教科の学びの活用
・思いの表現

ふり返りの視点
・自己の成長
・愛郷心の高まり
診断的自己評価

### ＜関連させる教科等の学び＞

○国　語④
「分かりやすく書こう」
「道あんないをしよう」
・事柄ごとに段落を分けて書き、分かりやすい文章にする
・修飾語の役割を理解し、主・修・述からなる文を書いたり読んだりする
・説明するときの大事なことを知り、正確に話したり、聞いたりする

○道　徳
ホタルの引っこし

次に示すのは、教科の学びをデザインした単元計画に基づいた展開の概要です。

## 1　意図的に関連させる教科の単元名と内容

**【総合的な学習の時間】**

「岩手公園ガイドになろう」

**学習内容・活動**

・リハーサル活動を通して、自分たちが調べてきた岩手公園のよさや人々の思いが伝わるよう言葉や動作を交えながら実際にガイドとして表現する。

**観点＜教科の四観点＞**

**見取りの視点（評価規準）**

**ー総合的な思考・判断ー**

・自分の調べたことが相手に伝わるよう現地での表現を考えたり、よりよい表現になるようにアドバイスを考えたりする。

**ー総合的な知識・理解ー**

**（学びを生かす力）**

・国語科「説明するときに大事なことを知り、正確に話したり、聞いたりする。」学習を生かす。

**問題解決的な学習過程を構成する力**

・問題を追究する力

・問題を解決する力

**問題解決的な学習過程を支える力**

・発表する力

・討論する力

・情報を集める力

＜何で＞

**教材や題材、学習活動による関連**

**題材、学習活動に共通性、類似性が見られる**

**教科の単元や題材の後に、総合的な学習の時間を展開する**

**身に付けた（身に付けさせたい）資質や能力による関連**

・比べたり、ふり返ったりして考える

・説明の仕方（順序、正確さ）

・話の聞き方（大事な言葉、順序）

・説明の技能（音量、速さ言葉遣い）

・意見交換の仕方（友達の発表を自分の発表に生かしたり、アドバイスしたり、賛同したりする力）

等

**【国語科】**

じゅんじょがわかるように、話したり聞いたりしよう。

（学習題材名「道案内をしよう」）

**学習内容・活動**

・教科書の絵地図をもとに、道案内をするときや聞くときに大事なことを考える。（前半）

・前半の学習を生かして練習する。

・さらに確かめながら話す・聞くことの大切さを理解する。

**観点**

**評価規準**

**ー関心・態度・意欲ー**

・道案内するときに大切なことを進んで考え、話したり聞いたりしている。

**ー話す・聞く力ー**

・伝えたいことを明確にし、相手の様子を確かめながら、順序が分かるように正確に話している。

・話の内容を確かめながら、大事な言葉や順序に気を付けて聞いている。

**ー知識・理解・技能（言語）ー**

・その場の状況や目的、相手に応じた適切な音量や速さ、言葉遣いで話している。

**問題解決的な学習過程を構成する力**

・課題を追究する力

・課題追究の過程や成果を発表する力

**問題解決的な学習過程を支える力**

・問題を見いだす力

・聞く、話す力

・情報を集める力

## 展開例－第３学年　「岩手公園ガイドになろう」

**◎本時のねらい**

リハーサル活動を通して、自分たちが調べてきた岩手公園の良さや人々の思いが伝わるよう言葉や動作を交えながら実際にガイドとして表現する。

**◆関連の段階：発信する段階**

**◆関連教科と考え方**

**国語**「道案内をしよう」
－じゅんじょがわかるように、話したり聞いたりしようー
・学習活動の内容「説明するときに大事なことを知り、正確に話したり、聞いりする」を発表準備や発表の場で活用し、定着を図る。

**◆手だて：**「活動の視点」「自己評価」

**◆指導計画の類型と関連事項**

| | 教材や題材、学習活動での関連 | | 資質・能力での関連 |
|---|---|---|---|
| 国語 | *教科発展型*<br>**教科から**<br>**応用・定着**<br>総合<br>国語 **総合へ** | ・案内をするとき、聞くとき大事なことを考える。<br>・確かめながら話す・聞く大切さを理解する。 | ・説明の仕方（順序、正確さ）<br>・話の聞き方（大事な言葉、順序）<br>・比べたり、振り返ったりして考える<br>**<話す・聞く能力>**<br>・説明の技能（音量、速さ、言葉遣い）<br>・意見交換の仕方<br><知識・理解・技能（言語）> |
| 他教科等 | | | |

**◎展開**　　（31 ／ 36 時間）

| 形態 | 学習活動(○)　　留意点(・) | 教科との関連 | 評価規準(◆)<br>手だて(□) |
|---|---|---|---|
| 一斉 | ○本時の学習課題と活動予定を確かめる。<br>これまで追究してきたことを説明し合い、グループ内でアドバイスし合う。<br>リハーサルにちょうせんしよう<br>・リハーサルでの情報交換やアドバイスを基に活動を修正し、さらに課題を追究できるようにする。<br>○視点をもつ<br>・大事なことを正しく伝える。<br>・自分の思いを伝える | **国語『道案内をしよう』**<br>**学習活動：「説明するときに大事なことを知り、正確に話したり聞いたりしたりする」**<br><br>**学びのつながりの意識化を図る** | □【視点】発信の視点<br>**・じゅんじょを考えて**<br>**・正しく**<br>**・自分も楽しんで** |
| 活動Ⅰ | 課題を解決する。<br><それぞれのテーマについてガイドする><br>○追究活動で得たことが、伝わるように工夫してして発表する。<br>・あらかじめ発表の場、時間等を確認し、用具機材の準備点検をしておく。<br>○説明に対して、意見を言ったり質問したりする。<br>・お客さんになったつもりで質問する。ポイントを基に、アドバイスする。<br>・発表を聞き、よいところや教科の学習とのつながりを自分の活動に生かすことができるようにする。 | **・説明の仕方（順序、正確さ）**<br>**・話の聞き方（大事な言葉、順序）**<br>**・比べたり、振り返ったりして考える**<br>**<話す・聞く能力>**<br><br>**・説明の技能（音量、速さ、言葉遣い）**<br>**・意見交換の仕方**<br>**<知識・理解・技能（言語）>** | **◆大事なことを正しく伝えるとともに、動作化等を取り入れながら、自分の思いも伝えることができるよう説明の工夫をする。**<br>**<総合的な思考・判断>**<br><br>**◆伝えようとすることを、「いつ、だれが、何のために」等順序立てて正確に説明する。**<br>**<学びを生かす力>**<br><br>□**【自己評価の内容と方法】**<br>**・視点を中心に、活動をふり返って記述させる。** |
| 活動Ⅱ<br>一斉 | ○ガイドの楽しさや難しさについて考える。<br>・友だちの工夫を聞いたり、外部講師の方の話を聞いたりして、次の現地リハーサルに向けての改善点に気付かせる。 | ゲストティーチャーによる説明の仕方のポイント | |
| 一斉 | ○学習のまとめをする。　　・学習シートに記入し、ふり返る。・次時の活動の予定を確認する。 | | |

# 8　生活科・選択教科・異校種間との連携

- **生活科の特色は総合的な学習の時間の特色とよく似た性格**
- **総合的な学習の時間と選択教科は生徒の興味・関心に基づく学習という点で共通**
- **異校種間における連携は、児童生徒の興味・関心や学習経験の多様性と教師の特性を生かして対応**

学年毎、学校段階毎の目標や学習活動が相互に関連付けられ、連続的に展開できるように配慮することが大切である。そのために、従来行われてきた学習内容の具体的レベルでの関連を中心とした吟味にとどまることなく、「身に付けた資質や能力及び態度が、次学年以降の身に付けたい資質や能力及び態度にどのように生かされるのか」を起点とし、そのためには「どのような学習活動を用意すればいいのか」という発想に立った計画を立てることが大切である。

## ポイント１　生活科との連結

生活科の特色と総合的な学習の時間の特色から、両者はよく似た性格のものであることがわかります。もちろん、教科としての生活科と時間として総合的な学習の時間では異なるところがあることはいうまでもありません。その点はよく把握した上で、生活科から総合的な学習への発展と関連を図るための連結が大切になります。

**【生活科】の特色**

**◇活動や体験の学習活動**

体で学ぶ知恵と生きて働く知識を重視する

**◇気付きの学び方を重視**

自らかかわる積極性とそのなかでの気付きを重視する

**◇自己表現と有能感の育成**

話す、歌う、書く、作る、遊ぶ、身体表現等の表現活動を重視し、そのなかで自分のよさや取り柄に気付き、やる気と自身を育む

**【総合的な学習の時間】の特色**

**◇創意工夫を生かした教育活動**

地域や学校、児童の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習

**◇学習活動**

・自然体験やボランティア活動などの社会体験
・観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習
・問題解決的な学習の積極的な活用

いずれも児童生徒の発想や課題を重視し、体験的な活動や学び方を大切にしています。また、自己表現や自分のよさ、取り柄を見いだしていくことなど、生活科と総合的な学習の時間は共通した側面をもつ教育活動といえます。

## ポイント２　選択教科との関連

選択教科の内容については「課題学習、補充的な学習や発展的な学習など」があげられ、教科色が濃く、習熟度別の色合いも強いものになっています。選択教科の目的は本来、各教科・科目の延長線上にあるので、教育課程のなかで選択教科は必修教科との関連が強くなります。これらの教科学習の成果を総合的な学習の場で活用させなければなりませんが、その触媒として選択教科ははたらくことになります。そして、中学生に「学ぶ意味」を実感させるために中心的な機能を担うものです。内容面での補充や発展の要素が加味されても、そこに学習主体の興味・関心が反映していなければ、生徒が選択して「学ぶ意味」が失われてしまいます。

総合的な学習の時間と選択教科は生徒の興味・関心に基づく学習という点で共通した側面をもつ教育活動といえます。

## ポイント３　小・中学校の連携

小・中学校の連携については、総合的な学習の時間のねらいを踏まえた上で、児童生徒の興味・関心や学習経験の多様性を生かしたり、多くの教師の特性を生かしてその多様性に対応することが大切になります。

**【教師間】の連携**

□ 研究担当者や教務主任等の合同研修会での情報交換
- ねらいや活動内容、児童生徒の状況
  地域人材の活用等

□ 出前授業（地域ネットの確立）
- 先生方の教科の専門性、特技を生かした交流授業や公開授業

**【児童生徒間】の連携**

□ 職場体験（例）
中学校の生徒が「職場体験」として小学校を訪れ学習指導の体験をしたり、異年齢集団でのつながりを深める活動をしたりする。
- 豊かな人間関係を育む
- 問題解決の仕方や追究していく態度を「学び、伝える」というサイクルで構築する。

小・中学校の連携については、地域の特性や内容系統性から、小・中学校が同一のテーマで学習を進めるような総合的な学習の時間が増えていることから、一層連携を進めていく必要があります。

留意点としては、次のことが挙げられます。

○ **互いの学習効果を高めることができるようにすること**
一方のためだけの実践にならないように留意することが大切です。

○ **それぞれの学校の教育課程について協議する意図的・計画的な話し合いの場をもつ**
円滑な運営を進めるための継続的な仕組みをもつことが大切です。

# ９　家庭や地域との連携

**総合的な学習の時間一層充実させるためには、積極的な家庭や地域等の活用・連携が必須になります。**
**「活用・連携の明確な位置付け」　「発信・還元の積極的な連携の在り方」**
**「活用・連携の対象の発掘・開発」「連携内容及び連携方法の具体化」**

地域そのものを学習対象として体験活動や専門的な探究活動を行う場合には、地域の協力が不可欠となります。さらに、学校の指導計画の一部に、地域の人々や保護者が参画する場合も考えられます。地域の人々や保護者は、学校活動の講師、指導計画・方法に対する評価者、児童生徒の発表活動の聞き手といった役割を担います。その際、地域の人々や保護者に対しては、学校の教育方針と学習の目的・内容を事前に説明し、理解していただく必要があります。

## ポイント１　連携の内容

**(1)　人材面での連携**

・地域の人々や保護者に協力を呼びかけ、学校独自で作成する人材バンクの活用
・生涯学習関係の教育行政機関に蓄積されている人材バンクの活用

**(2)　施設・自然・文化的行事面での連携**

| | |
|---|---|
| ・調査研究活動 | 学校、公民館・博物館等の社会教育施設との連携 |
| ・ボランティア活動 | 社会福祉施設、ＮＰＯ団体等との連携 |
| ・職場体験 | 企業・自治体との連携 |
| ・伝統芸能 | 商工会・自治体、寺院・神社等との連携 |

## ポイント２　連携を効果的に進める視点

**(1)　人材のリストアップ（職業・特技など）、施設、自然、文化的行事の把握・開拓**

**(2)　人材バンクや地域マップの作成**

十分な説明と理解を事前に得ておくこと

**(3)　地域に出て学習する際の事前指導・支援**

マニュアル作成（事前の学習のなかで、児童生徒自らが考え理解するのが一番よい）

## ポイント３　地域（校外）での活動を計画するうえでの留意点

**(1)　家庭・地域社会とのコミュニケーションを活発にしましょう。**

家庭・地域社会の人々に学校の教育目標や、総合的な学習の時間の目的・意義を伝え、自分たちの学校がどんな児童生徒を育てたいのか、児童生徒に何を学習させたいのかを明確に伝えましょう。

**(2)　学習の系統性をもたせましょう。**

校外での学習内容と校外での授業や行事とを有機的に関連させることが大切です。校外学習だけが一人歩きしては、学習に系統性がなくなり、児童生徒の興味・関心が一過性のものになってしまいます。

**(3)　従来の校外活動との関連を慎重に吟味しましょう。**

遠足やキャンプ、修学旅行など、特別活動として実施してきた校外活動については、引き続き特別活動として取り上げます。ただし、総合的な学習の時間のねらい等に照らして、総合的な学習の時間として実施するのが適当であると位置付けられたものについては、その関連を明確にして実施します。

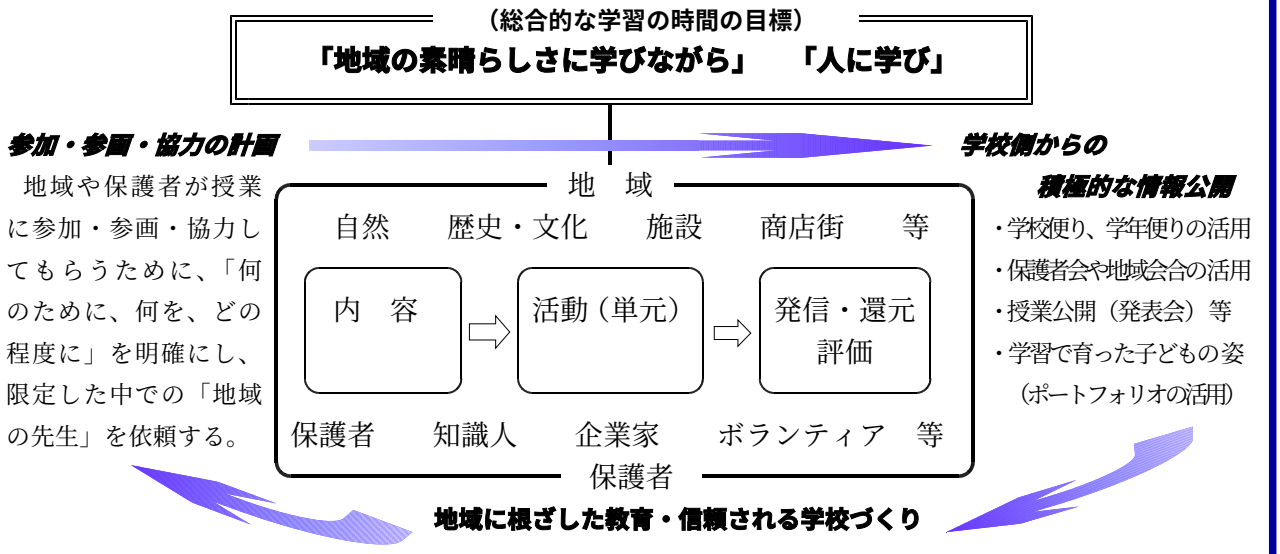
**(4)　アフターケアを忘れないようにしましょう。**

実際の活動では、なるべく児童生徒を前面に出し、事前の計画を地域でお世話になる方々に伝えさせたりするだけでなく、お礼の言葉や活動報告書などを後日持参させたり、研究成果発表会に招待するなど、今後につながるアフターケアを忘れないようにしましょう。

***<参考までに…>***　　**家庭や地域等との連携の考え方**

**盛岡市立杜陵小学校・花巻市立花巻北中学校の例**

目標に「地域の素晴らしさに学びながら」（杜陵小）、「人に学び」（花巻北中）と掲げ、学習活動のほとんどが地域の特色を生かした単元で展開していることもあり、明確な位置付けがなされています。その中で「知識人の協力、支援」や「支援ボランティア」「家庭への広報活動」等にその特徴が見られます。また、指導過程の「発信する」対象に家庭・地域を取り込み、その具体的な内容を位置付けることによって「発信　・還元・評価」の新しい在り方として、さらに「連携」の本来の姿として、参考になります。




**地域との連携の一部（花巻北中）**

地域の有識者による講演（宮沢賢治を語る　花巻東高等学校野球部監督　等）
地域のものつくり体験（台焼　つけもの　豆腐　ガラス工芸　等）
地域の職場体験（建築　スポーツ店　菓子製造　等）　　地域の福祉体験（老人福祉施設　等）
地域の協力による調査活動（福祉施設　市役所　体育館　交番　等）

# 10　全体計画の評価計画

**当初の計画を固定化するのではなく、必要に応じて適宜見直していくという姿勢をもつことが大切です。**

自校の本年度の総合的な学習の時間の重点から評価内容を設定し、評価計画を立てます。次に、その評価計画に基づいて適切な時期に「教育活動」と「教育条件整備」の観点から評価を行い、その結果から改善策を明らかにします。

## ポイント１　年間指導計画の評価

**(1)　本年度の重点から評価内容を設定する。**

各学校においては、全体計画及びそれに連なる年間指導計画等を踏まえ、計画的な指導に努めることが大切です。年間指導計画は、大きく分けると教育活動と教育条件整備の二つの観点から評価します。教育条件整備では、教職員の体制や学校と地域との連携の様子、施設・設備の充実、予算措置等、学習を支える要素を評価します。そこで、総合的な学習の時間の本年度の重点に基づいてこれらの観点から評価内容を設定します。

| ＜教育活動＞ | 評価の観点 | ＜教育条件整備＞ |
|---|---|---|
| ①総合的な学習の時間の目標 | | ①地域人材の活用 |
| ②身に付けさせたい資質・能力 | | ②校内施設・設備の充実 |
| ③発達段階に応じた内容の系列化 | | ③地域の施設の活用 |
| ④学習活動 | | ④講師謝金や学習活動にかかわる予算措置 |
| ⑤学習課題 | | ⑤指導体制・研修会・学年会 |
| ⑥実施時期 | | ⑥地域・保護者との連携 |
| ⑦授業時数 | | ⑦教員の確保（Ｔ・Ｔ等） |
| ⑧指導方法 | | ⑧異校種間の連携 |
| ⑨各教科等との関連 | | ⑨文化的活動　⑩安全管理　等 |
| ⑩評価　等 | | |

**(2)　評価計画を作成する。**

評価内容を基に、評価計画表を作成します。評価計画表には、観点、評価項目、実施時期、評価方法評価欄を設け、１枚の表に整理しておくと日常的に評価内容を意識することができます。

**(3)　評価計画表に基づいて評価する。**

年間指導計画の実施状況は、評価計画表に基づいて評価します。評価の時期は、単元終了後、学期末、年度末が考えられます。年度末にまとめて評価するよりは、むしろ単元終了後や学期末毎に評価することが大切です。そのことで、次の単元や次の学期における総合的な学習の時間の方向性や改善策が明らかになります。また、評価方法についても事前に職員間で打ち合わせておくと児童生徒の具体的な姿から評価することができます。

次頁には、自校の教育活動と教育条件整備を、児童生徒の実態に応じて見直し、改善策を具体化するための総合的な学習の時間のカリキュラム評価チェックシートを紹介しています。

| | 評価の観点 | レベル１ | レベル２ | レベル３ |
|---|---|---|---|---|
| 学校としての方針 | ①　目標・内容の明確化 | □単元の活動レベルでは検討されているが、総合的な学習の時間の目標や内容は明確にされていない。 | □学校としての目標、内容は明確にされているが、学年ごとには具体化されていない。 | □学校としての目標、内容が明確にされ、学年段階ごとにも具体化されている。 |
| | ②　評価の観点、見取りの視点の設定 | □観点や見取りの視点が設定されていない。 | □観点、見取りの視点は設定したが、学習過程の各観点ごとの見取りの視点は設定していない。 | □観点、見取りの視点を定め、学習過程の各段階ごとに見取りの視点が設定されている。 |
| | ③　人材活用、指導体制 | □校内での話し合いは行われず、授業者がその都度協力依頼をすることになっている。 | □人材バンクや校内の共同指導体制についての話し合いがもたれ、共通理解が図られている。 | □人材バンク登録者と連絡を密にしたり、登録者を拡大する取り組みが行われたりしている。 |
| | ④　隣接する学校との連携 | □特に考慮していない。 | □計画の立案中である。 | □小・中・高校などとの間で、カリキュラムについての情報交換を実施している。 |
| | ⑤　説明責任 | □地域や保護者に対して、総合的な学習の時間についての説明や協力依頼を実施していない。 | □総合的な学習の時間についての説明や協力依頼は行ったが、成果についての説明は考えていない。 | □総合的な学習の時間の趣旨説明や協力依頼を行い、さらに、成果や課題についての情報公開も計画している。 |
| 学習活動 | ⑥　学習課題の適切さ | □短時間で課題が決められており、やりたいこと、楽しいことに偏りがちである。 | □十分な体験活動や資料収集を行った上で課題が設定されているが、問題意識という点では課題が残る。 | □学習スキルを高めつつ、生き方の自覚が図られるような、価値ある学習課題が設定されている。 |
| | ⑦　体験的な活動や問題解決的な学習 | □知識の獲得を重視した、教師中心の授業形式である。 | □体験的な活動や問題解決的な学習が一部に取り入れられているが、図書やインターネットによる調べ学習が大半である。 | □実験、観察、現地調査、インタビューなど体験的な活動や問題解決的な学習が十分に展開されている。 |
| | ⑧　学習形態 | □特に学習形態を検討せず、学級内での個人学習やグループ学習のみに偏っている。 | □個人学習、学級内でのグループ学習のほか、学年内グループ学習などいくつかの学習形態を試みている。 | □異学年での合同学習やグループ学習など、様々な学習形態を工夫している。 |
| | ⑨　学習場所 | □ほとんどの学習が教室内で行われている。 | □コンピュータ教室、図書館、特別教室など、学校内のスペースを十分に活用している。 | □学校内のみならず、地域の施設などを積極的に活用し、社会体験や自然体験を行っている。 |
| | ⑩　学習時間、学習時期 | □45分、または50分単位の授業のみで活動が行われている。 | □２コマまとめどりなど、時間割の工夫をしている。 | □一単位時間の設定を弾力的に工夫したり、特定の時期に活動を集中させたりするなどの工夫をしている。 |
| | ⑪　各教科、道徳、特別活動との関連 | □関連は特に意識していない。 | □指導計画や実際の指導場面で、どの学年の、どの単元とかかわるのかを意識して指導している。 | □指導計画や指導の場面で、「何で」「どのように」かかわるのかを計画的に指導している。 |
| | ⑫　学習成果の発表 | □学級内、学年内の発表のみである。 | □学級や学年内の発表ばかりでなく、全校の児童生徒や保護者に対して発表する機会もある。 | □あらかじめ発表の場が決められているのではなく、内容に応じて場所や方法、対象者を検討している。 |
| 評価 | ⑬　評価の主体 | □児童生徒の自己評価と担任教師による評価のみである。 | □自己評価、担任教師による評価ばかりでなく、児童生徒の相互評価や複数の教師による評価も行っている。 | □自己評価、相互評価、複数の教師による評価のほか、外部講師や保護者による評価も取り入れている。 |
| | ⑭　評価方法 | □学習カードによる自己評価、相互評価のみである。 | □学習カードによる自己評価、相互評価の結果に、教師による見取り評価の結果を重ねている。 | □学習カードによる評価や教師の観察による評価のほか、作文やレポートなど多様な方法で評価を行っている。 |
| | ⑮　カリキュラム評価 | □教師間での情報交換で終わっている。 | □成果と課題を明らかにし、改善策を見いだす評価が教師間で計画的に行われている。 | □児童生徒の声や保護者、地域の意見も生かした評価が行われている。 |

**【引用文献】**

福岡県教育委員会 福岡県教育センター(2004),『小学校・中学校・高等学校における総合的な学習の時間　全体計画の考え方＆具体的な展開』,pp.22-25　pp.27-29　pp.31-33　pp.39-41　pp.43-45

**【参考文献】**

岩手県盛岡市立杜陵小学校(2004),『平成16年度研究紀要　求め続ける子が育つ』

熊本県立教育センター（2001),『総合的な学習の時間の実施に向けて』

児島　邦宏編集(2003),『総合的な学習ハンドブック』,ぎょうせい

佐藤　　真編集(2005),『学校の研修ガイドブック「総合的な学習の時間　体験活動」研修』,教育研究開発所

福岡県教育委員会 福岡県教育センター(2002),『小学校・中学校・高等学校編「総合的な学習の時間」ＰＤＳ～環境，福祉，進路を課題とする学習指導を中心に～』

福岡県教育委員会 福岡県教育センター(2004),『小学校・中学校・高等学校における総合的な学習の時間　全体計画の考え方＆具体的な展開』